注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻(博士前期課程)

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- ()書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<帽	情報学専攻(博士前期課程)>	^°-	-ジ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	11
4.	既設大学等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	12
5.	教員組織の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	14
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	28
7.	その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	29

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。
- (4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専 攻 長	ョシウラ ヒロシ 吉浦 裕 (平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等									
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	備考				
情報理工学研究科 情報学専攻 (博士前期課程)	工学関係 理学関係	2年	110人	220人	基礎となる学部等 情報理工学域				
修士(工学)(理学)(学術)									

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

	報告年度	平成28年	年度	平成2	9年度	平均入学定員	備	考
区	分	春季入学 その	他の学期	春季入学	その他の学期	超過率	VĦ	73
Α	入学定員	人 110 (- [-	人)]	人 11 (- [-	人 0 -) -]			
	志願者数	271 (-) ([21] [- -) -]	155 (1) [17]	()			
	受験者数	262 (-) ([19] [- -) -]	152 (1) [17]	()	1. 19倍		
	合格者数	234 (-) ([9] [- -) -]	133 (1) [12]	()			
į	B 入学者数	138 (-) ([6] [- -) -]	124 (1) [12]	()			
7	【学定員超過率 B∕A	1. 25		1.	12			

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ ()内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成2	8 年度	平成2	9年度	備	考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		45
	138	_	124			
1 年次	[6]	(-)	[12]	[]		
	(-)	(-)	(-)	()		
			138			
2年次	/		[6]	[]		
			(-)	()		
	13	38	20	62		
計	[(6]	[18]		
	(-	-)	(-	-)		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数

 を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退学	学者数(内訳))	主な退学理由	入学者数に 対する退学者数		
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)		
平成28年度	138 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %		
入学者	130 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 70		
平成29年度 入学者	124 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %		
合 計	262 人	0 人					0.00 %		

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士前期課程)>

(1) 授業科目表

					単位数	τ		専任教員	9年の四	記置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助		備考
<u> </u>				修	択	由	授	授	師	教	手		*/*************************************
		大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1					兼1	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変 更。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1 名で対応(28)
		幾何学基礎論	1・2前		2		1						
		解析学基礎論	1・2前		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		代数学基礎論	1・2前		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2							兼1	
		国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						
		日本とアジアの近代史	1・2後		2							兼1	
	大 学	科学技術の歴史	1・2後		2			1					
	院	現代社会と倫理	1・2後		2		1					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	科日	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で 対応(28)
		幾何学特論	1・2後		2		1						
		解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		教育学特論	1・2後		2		1						
		大学院輪講第一(I)	1・2前	1			26 28 27 26	36 32 23 36	2	5 8 11 5			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院	大学院輪講第一(Ⅱ)	1・2後	1			28 27	32 23	2	8 11			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	輪講		1・2前	1			26 28 27	36 32 23	2	5 8 11			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
		大学院輪講第一(IV)	1・2後	1			26 28 27	36 32 23	2	5 8 11			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院技 術 英 語	大学院技術英語	1・2前	2			1	3				兼1	
		ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	1				兼4 兼6	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員は4名で対 応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると 共に兼任教員6名を追加(28)
		知的財産権特論	1・2後		2		1					兼7 兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8 名で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1•2通		2		2	2					
大学院実		大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任 准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授
実践教育科		危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					1名で対応 (28)
科目	大学	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1						教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3 名で対応(28)
	院	経営実践特論	1・2前		1					1		羊 0	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2 名で対応(28)
	連携科	IT最前線	1・2後		2		1					兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1 名で対応(28)
	目	実システム創造	1・2後		2		1	4					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 4名、兼任教員1名で対応(28)
		データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
		データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)

					L	単位数	ά	L	専任教員	等の西	配置			
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助		備考
	ı				修	択	由	授	授	師	教	手		
			オープンイノベーションスクール I	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
			オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
			大学院インターンシップ	1・2前		2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大学院インターンシップ(海外)	1 · 2前		2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大学院インターンシップ(長期)	1·2前		4		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2前		4		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大学院海外語学研修 I	1・2前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
								26	36		5			
			大学院実践演習 (I)	1•2前	1			28 26	32 36		8 5			
			大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)	1・2後 1・2前	1 1			28 26	32 36	2	8 5			大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分
			大学院実践演習(IV) 大学院実践演習	1・2後 1・2通	1 4			28 26	32 36		8 5			割し、半期1単位4科目に変更(28)
								28 27	32 23		8 11			
			メディアアート論	1・2前		2			1					
		専	知的学習システム	1・2前		2		1						
		科	コンピュータグラフィックス応用データマイニング	1・2前 1・2前		2 2			1	1				
		目 I	音声音響情報処理	1・2前		2		1		1				
			実践ソフトウェア開発基礎論	1・2前		2		1						
			情報理論基礎 数理統計学基礎	1・2後 1・2後		2 2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(28)
			実践ソフトウェア開発概論Ⅱ	1・2後 1・2前		2		Ŧ	1				兼1	より教育的谷に即した担当教員、20多文(20)
	① メ		実践ソフトウェア開発概論Ⅲ	1・2後		2		1					兼1	より教育内容に即した担当教員への変更(29)
大学	ディ		現代代数学	1・2後 (隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
院専	ア 情		数理解析学	1・2後		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
大学院専門教育	報学		メディア論特論	(隔年開講) 1・2前		2		1						
育科	プロ		認知科学特論	1・2前		2			1					
目	グラ		画像認識システム特論 学習工学特論	1・2後 1・2前		2 2		1 1						
	À		認知プロセス論特論	1・2前		2		1						
			視覚情報処理特論	1・2後		2			1					
			コミュニケーション論特論 計算機科学特論	1・2後 1・2後		2 2		1	1					
		+	インタラクティブシステム特論	1・2前		2		1	1					
		専門な	マルチメディアコンピューティング特論	1・2後		2							兼1	
		科目	マルチエージェントシステム特論 リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前 1・2前		2 4		1 1						
		П	制御系設計応用	1・2後		4			1					
			創造的情報メディア論 インテリジェントシステム特論	1・2前 1・2後		2 2		1	1					
			対話型システム特論	1・2後 1・2後		2		1	1					
			ヒューマンインタフェース特論	1・2前		2			1					
			ロボットソフトウェア特論 知能ロボティクス特論	1・2前 1・2後		2 2		1	1					
			システム設計特論1	1・2後		2		1	1					
			システム設計特論 2	1・2前		2			1					
								26 28	36 32		5 8			
			大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ)	1・2前 1・2後	1 1			26 28	36 32		5 8			大学院担当資格取得等のための変更(29)
大	2		大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)	1・2前 1・2後	1 1			26 28	36 32	2	5 8			教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分 割し、半期1単位4科目に変更(28)
大学院	経営		大学院実践演習	1・2通	4			26 28	36 32		5 8			
専門	社							27	23		11			
門教育	会情		データマイニング 実践ソフトウエア開発基礎論	1・2前		2 2		1		1				
科目	報学	専門	情報理論基礎	1・2前 1・2後		2		1	1					
	プロ	科目	数理統計学基礎	1・2後		2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(28)
	グラ	Ï	会計情報システム 経営情報システム	1・2前 1・2前		2 2			1				兼1	
	ム		経営計画	1・2前		2							兼1	
			ソフトウェア品質学	1・2後		2				1			<i>≥v</i>	
			実践ソフトウェア開発概論 II 実践ソフトウェア開発概論III	1・2前 1・2後		2 2		1					兼1 兼1	より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			現代代数学	1・2後		2		_	1				2017 E	教育内容充実のため、科目を追加(28)
				(隔年開講) 1・2後					1					
			数理解析学	(隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
										•		•		·

				単位数 専任教員等の配置										
	科目		 授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准	講	助	助		備考
	区分				修	択	由	授	教 授	師	教	手		•
			認知科学特論	1・2前	19	2	щ	1,0	1	ЫH	40	,		
			サービス・サイエンス特論	1・2前		2		1						
			金融工学特論	1・2前		2							兼1	
			生体システム工学特論	1・2後		2		1						
			経営システム工学特論	1・2前		2							兼1	
			言語認知システム特論	1・2前		2		1						
		専門	人間工学特論	1・2後		2			1					
		科	生産システム特論	1・2後		2		1						
		Π Π	システム信頼性特論	1・2前		2		1						
			リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
			制御系設計応用	1・2後		4			1					
			人工知能と複雑ネットワーク	1・2前		2		1						
			時空間情報科学特論	1・2後		2			1					
			リスクマネジメント論	1・2前		2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			ゲーム理論	1・2後		2			1					
								26	36		5			
			大学院実践演習 (I)	1・2前	1			28 26	32 36		8 5			
			大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1			28	32		8			大学院担当資格取得等のための変更(29)
			大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)	1・2前 1・2後	1 1			26 28	36 32	2	5 8			教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分 割し、半期1単位4科目に変更(28)
			大学院実践演習	1 · 2通	4			26	36		5			
								28 27	32 23		8 11			
			データマイニング	1 024				21	20		11			
			実践ソフトウエア開発基礎論	1・2前 1・2前		2 2		1		1				
		科	情報理論基礎	1・2前		2		1	1					
		目 I	数理統計学基礎	1・2後		2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(28)
		1	ソフトウェア品質学	1・2後		2		-	*	1				6. 7 (A) 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.
			セキュリティ基礎	1・2前		2		1						
			実践ソフトウェア開発概論Ⅱ	1・2前		2							兼1	
	3		実践ソフトウェア開発概論Ⅲ	1・2後		2		1					兼1	より教育内容に即した担当教員への変更(29)
	セキ		現代代数学	1・2後		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
大学院	ュリ		STILL (SX.)	(隔年開講) 1・2後		2			1					秋日F147元天97元の、竹日で足加(20)
· 院 専	ティ		数理解析学	(隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
押	情		画像認識システム特論	1・2後		2		1						
教育科	報学		学習工学特論	1・2前		2		1						
科目	プロ		視覚情報処理特論	1・2後		2			1					
	グ		計算機科学特論	1・2後		2		1						
	ラム		マルチメディアコンピューティング特論	1・2後		2							兼1	
			言語認知システム特論	1・2前		2		1						
			コンテンツセキュリティ特論	1・2前		2		1						
		専門	ネットワークセキュリティ特論	1・2前		2			1					
		科	離散情報構造特論	1・2後		2			1					
		目 II	MERVIE AVIEVE VV mm	1 2 後					1					
			ソフトウェアセキュリティ特論	1・2後 1・2前		2			1					より教育内容に即した担当教員への変更。それ に伴い開講学期の変更(29) 専任准教授が平成28年度に転出のため、同准教
				1・2後					1					授が兼任教員として対応。それに伴い開講学期 を変更(28)
			暗号理論特論	1・2後		2		1						
			リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
			制御系設計応用	1・2後		4			1					
			ネットワークアーキテクチャ論	1・2前		2		1						
L			コンピュータネットワーク特論	1・2後		2			1					

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合 には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	状	況			備考
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択	自	由		計	기계 경
	科目		科目		科目		科目		科目		科目		科	1	科目	■
	8		109		0		117		17		119			0	136	6
								[9]	[10]	[0		[19]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2	現代代数学	2	1・2後	専門		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単	位	数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由	代替措置の有無
1									
2					該当	+>1			
3									

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分						内						5	 容				備考
(1)		区	分			専		用		共	用		共 学	用する 校等の	他の 専用		į	Ħ		
校		校台	舎 敷 坿	也			11	5, 433 m ²				0 m²			0	mi		115,	433 m²	
fX.		運動	协場用地	3			3	38, 187 m ²				0 m²			0	mi		38,	187 m²	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	ŀ			15	53, 620 m ²				0 m²			0	mî		153,	620 m²	
等:		そ	の他	1			3	84, 685 m ²				0 m²			0	m [*]		34,	685 m²	
		合	計	 			18	88, 305 m ²				0 m²		m ± 7	0	mî		188,	305 m²	
						専		用		共	用			用する 校等の			i	<u></u>		
(2) 校			舎				ç	90, 163 m ²				0 m²			0	mî		90,	163 m ²	
				ı	(90,	163 m²)		(0n	· ·	(0 m ²)	(3 m²)	
				講	義	室		演 [:]	習	室	実	験実習	室	情報处	0.理学習		語学	学習		
(3) 教		室	等			()室			25室			35室		_	4室			0室	
								** =0.24 *	n hite a	n # 16				(補助		人) (補助耶	00000000000000000000000000000000000000	人)	
(4) 専	任教	員研究	室			7 TO 244	5 7 π m	新設学部			8 _1_ 24 , ₩0:	-m f o \			室	•	数			
	情報理工学研究科 情報学専攻 (博士前期課程) 74 室 図 書 学術雑誌										至									
(5)	新設学部等				官 国書]		チ [™] 〔うち:			電 ユミ	ジャー	+ п.	視聴覚	資料	機械・器	具	標	本		
(3)		の名	称		571	1.同日)	₩	()5.	/1° 🖭	種					点		点		点	
図	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□										0	大学全体								
書・		情報: 博士前 程)	学専攻 〕期課			, 109, 394		(8, 887		-	(3, 899			(2, 8		(0)		((0)	
設備				315, 01	8 [1	109, 394	4)	8, 887	(6, 0	91]	3, 899	9 [3, 8	89]	2, 8	396	0			0	
		計		(315, 01	18 [1	109, 394)	(8, 887	[6, 0	91])	(3, 899	3, 8	89])	(2, 8	396)	(0)		((0)	
(O) FF		-	۸۵		頑	<u> </u>	!	積			閲覧	座席	ま 数		収	納可	能	₩	数	
(6) 図		書	館					7, 32	23 m²					621				3	368, 000	大学全体
(7) 体		育	館		面	5		積				体育	育館以外	小のス ォ	ポーツ施	設の概要				
(7) 本		Ħ	KE					3, 077	m³	多摩川道 チェリー	運動場(陸 −場)、フ	坴上競技 プール、	技場、サ 屋外競	ッカー・ 技場(弓	ラグビー 道場、テ	-場、テニ: - ニスコー	スコー ト7面)	ト4面)	i、アー	大学全体
		経費	Σ	Ξ.	5.	}	開	設年度	5	完成年度	ŧ	区	分	開設前	前年度	開設年	度	完成	年度	
(8)		配見 の見	教員 1	人当り	研到	究費等		千円		Ŧ	千円 図書購入		入費		千円		爭円		千円	
経費の積り及)見 び		共 同	研 3	究:	費等		千円	<u> </u>	-	一門	设備購.	入費		千円	:	千円		千円	
維持方 の 概	要	学生 だん	1 人当 J	第	1年	次		第2年次		第	3年次		第4年	次	第	5年次	1	第6年	手次	
		納付				- 			千円		千	円		千円		千円	3		千円	
	_	一学生	納付金	以外の組	維持	方法の	概要	į												

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信	大	学										備		考
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入記	学員	収 定	容員	学位又 は称号	平均入 定員 超過 ²	Į.	開年	設 度	所	在	地			
	年		人	年			人			倍								
情報理工学域					人													
I 類(情報系)	4		210	3年》 9	欠		858	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		一般入記 程) でに		
Ⅱ類 (融合系)	4		245	3年》 10		1	000	学士 (工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		の大括り用してお	3り、	入学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年》 10			960	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		定員超過の状況で	を集言	†する
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年》 3			126	学士 ^(工学)	1.	00	平成2	!8年度		同上		ことがで め、I 類 を表 た状況	頂、I まとぬ	I 類、 b上げ
情報理工学部																いる。		
総合情報学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学科	4	-	-	-		_	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	_		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4	-	-	-		_	-	学士 (工学)	_		平成2	2年度		同上		 平成28: 停止	年学	生募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																		
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1.	19	平成2	!8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地	開布ヶ丘 1 1 号			
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	13	平成2	!8年度		同上				
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	02	平成2	!8年度		同上				
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0.	94	平成2	!8年度		同上				
総合情報学専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学専攻	2	-	-	-		_		修士 (工学) (理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学専攻	2	-	-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学) (理学) (学術)	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0. 66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	_	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	_	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
							ĺ		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合,<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし,</u> <u>「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。</u>

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士前期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時	の 計 画					変	更 状 況		
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
専	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	本学院を践演習 (I) 大学院報講第一 (I) 大学院輸講第一 (II) 大学院輸講第一 (II) 大学院輸講第一 (IV) 大学院乗銭演習 (I) 大学院乗銭演習 (II) 大学院乗銭演習 (II)							
専	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際年末日1.3~~2.2 kg 及びフトウェア開発機能加 大学院権講第一(I) 大学院権講第一(II) 大学院権講第一(II) 大学院権講第一(IV) 大学院集践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集							
専	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	国 外域や十丁行線 I T最前線 実システム創造 創造的情報メディア論 大学院輸講第 - (I) 大学院輸講第 - (IV) 大学院乗践演習 (I) 大学院乗践演習 (I) 大学院乗践演習 (IV)							
専	教授	庄野 逸 (48)	平成29年4月	知的学習システム 大学院輪講第 - (I) 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (IV) 大学院乗践演習 (I) 大学院乗践演習 (II) 大学院乗践演習 (II) 大学院乗践演習 (II)							
専	教授	羽田 陽一 (52)	平成29年4月	音声音響情報処理 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院集講演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II)							
専	教授	兼子 正勝 (63)	平成29年4月	メディア論特論 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院集践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV)							
専	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)							

							ı	ı	1
		₩Œ m1±		学習工学特論					
		柏原 昭博		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)					
		(52)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習(皿)					
				大学院実践演習 (IV)					
				認知プロセス論特論					
		坂本 真樹		大学院輪講第一(I)					
		(47)		大学院輪講第一(II)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				マルチエージェントシステム特論					
		髙玉 圭樹		大学院輪講第一(I)					
		(47)		大学院輪講第一 (II)					
				大学院輪講第一(皿)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習 (皿)					
				大学院実践演習 (IV)					
				対話型システム特論					
1		広田 光一		大学院輪講第一(I)					
1		(52)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
				大学院輪講第一 (皿)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
,,	22.2		1 79020 1 173	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				ロボットソフトウェア特論					
		末廣 尚士		大学院輪講第一(I)					
		(61)		大学院輪講第一 (II)					
		(,		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
4	孙汉		十八人23十4万	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (III)					
				大学院実践演習(IV)					
				システム設計特論 1					
		大須賀 昭彦		大学院輪講第一(I)					
		(58)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
4	我按		十成23年4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (II)					
1				大学院実践演習(IV)					
	1			大子院美統演者 (IV) サービス・サイエンス特論					
		椿 美智子		大学院輪講第一(I)					
1		作 美省于 (56)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)					
1		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
声	≯ ⊁+亚		亚成20年4日	大学院輪講第一(IV)					
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)					
1				大学院実践演習 (Ⅱ)					
1									
1				大学院実践演習 (III)					
<u> </u>				大学院実践演習 (IV)					
1		垢食 声叩		生体システム工学特論 大学院輪講第一(I)					
1		板倉 直明 (55)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)					
		(33)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
	#L 155		TT	大学院輪講第一(IV)					
専	教授		平成29年4月						
1				大学院実践演習(I)					
1				大学院実践演習(Ⅱ)					
1				大学院実践演習 (Ⅲ)					
<u> </u>				大学院実践演習 (IV)					
				言語認知システム特論					
		内海、彰		大学院輪講第一(I)					
1		(51)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
1				大学院輪講第一 (III)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
1				大学院実践演習(Ⅱ)					
1				大学院実践演習 (Ⅲ)					
1				大学院実践演習 (IV)					
				L.	-				

_			1	\ _ ==+=10.4±00			1	1	1
		m + //+ /m		システム信頼性特論 大学院輪講第一(I)					
		田中 健次		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)					
		(60)		大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III)					
I _			T-100 F 4 F						
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)					
				大学院実践演習 (I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
		# G W		人工知能と複雑ネットワーク					
		栗原 聡 (51)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)					
		(31)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
I _			T-100 F 4 F						
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
		﨑山 一男		セキュリティ基礎 大学院輪講第一(I)					
		呵山 一男 (45)		大学院輪講第一(I)					
		(43)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
_	#4.177		TI C 00 F 4 F	大学院輪講第一(IV)					
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				入子院夫銭演首 (IV) コンテンツセキュリティ特論	+	+			
		吉浦 裕		オンテンツセキュリティ特調 大学院輪講第一(I)					
		(60)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
77	我较		十八人3十4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				暗号理論特論					
		太田 和夫		大学院輪講第一(Ⅰ)					
		(62)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
		, ,		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
"	20,00		1 79020 1 171	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				ネットワークアーキテクチャ論					
		加藤 聰彦		大学院輪講第一(I)					
		(61)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
				大学院輪講第一 (皿)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
1				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習(IV)					
				幾何学特論			 		
		山田、裕一		大学院輪講第一 (I)					
1		(48)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
1				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習(IV)			 		
				大学院技術英語	T	T	 		
1		梶本 裕之		インタラクティブシステム特論					
		(41)		大学院輪講第一(I)					
				大学院輪講第一(Ⅱ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅲ)					
7	, E 7/1X		1 12/20 77	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習(IV)			 		
1		:		大学院技術英語		T	 		
1		金路		リスクマネジメント論					
		(39)		大学院輪講第一(I)					
1				大学院輪講第一(Ⅱ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅲ)					
号	准叙授		十八乙3年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
L				大学院実践演習(IV)			 		
	.——						 		

				T			ı	ı	
1		m++		大学院技術英語					
		松本 光春		大学院国際プロジェクト					
		(39)		大学院輪講第一(I)					
				大学院輪講第一(Ⅱ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅲ)					
4	/庄3人]又		十八人23十4万	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				実システム創造					
		橋山 智訓		インテリジェントシステム特論					
		(49)		大学院輪講第一(I)					
				大学院輪講第一(Ⅱ)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (III)					
				大学院実践演習(IV)					
-	-			実システム創造	-				
		田原 康之		システム設計特論 2					
		(50)		大学院輪講第一(I)					
		(00)		大学院輪講第一(II)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (Ⅳ)					
				大学院インターンシップ					
1		山口和彦		大学院インターンシップ (海外)					
1		(55)		大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (高外・長期)					
				情報理論基礎					
				大学院輪講第一(I)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (II)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
				大学院輪講第一(IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				メディアアート論					
		兒玉 幸子		大学院輪講第一(I)					
		(46)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
1				大学院実践演習 (IV)					
				コンピュータグラフィックス応用					
1		橋本 直己		大学院輪講第一(I)					
1		(44)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
1		* *		大学院輪講第一 (III)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
1 3	, E 7/1X		1 1220 - 77	大学院実践演習(I)					
1				大学院実践演習 (II)					
1				大学院実践演習(Ⅲ)					
1				大学院実践演習(IV)					
	 			視覚情報処理特論	+				
1		髙橋 裕樹		大学院輪講第一(I)					
1		(50)		大学院輪講第一(II)					
1		\- - - - /		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)					
4	准叙按		一次23年4月	大学院実践演習 (I)					
1				大学院実践演習(I)					
1									
				大学院実践演習 (III)					
<u> </u>				大学院実践演習 (IV)					
		野順 环山		ヒューマンインタフェース特論 士学院幹護第一(I)					
		野嶋 琢也 (41)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(Ⅱ)					
		(41)							
	.,,			大学院輪講第一(III)					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習 (I)					
1				大学院実践演習 (Ⅱ)					
1				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					

正確 信託 (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4			1					Г	ı
## 本の日			- # # # =						
現地 日本記									
### 本ので			(39)						
本部 本部 本部 本部 本部 本部 本部 本部	専	准教授		平成29年4月					
### 2015 (4)									
本の 本の 本の 本の 本の 本の 本の 本の									
本部区					大学院実践演習 (皿)				
### 2 19 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10					大学院実践演習 (IV)				
### 本他性 (43) 中成29年4月									
本記 本記 平成29年4月 平成			山田、哲男						
本部 本部 本部 本部 本部 本部 本部 本部			(43)						
					大学院輪講第一(皿)				
本の	専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ)				
# 本					大学院実践演習(I)				
本数 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大					大学院実践演習(Ⅱ)				
# 本記録					大学院実践演習(Ⅲ)				
# 本					大学院実践演習 (IV)				
本					人間工学特論				
本			水戸 和幸		大学院輪講第一(I)				
本数形			(42)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
本					大学院輪講第一 (皿)				
本意報報 13 大学教育 13 大学	車	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
本教報 本教제 本教					大学院実践演習(I)				
本央 本央 本央 本央 本央 本央 本央 本央					大学院実践演習 (Ⅱ)				
本会社 本会					大学院実践演習(Ⅲ)				
本					大学院実践演習 (IV)				
本									
本数型	1		山本 佳世子						
本意報 本意報 本意報報 本意報 本意報 本意報 本意報 本意報 本意報報 本意報 本語報 本意報 本意報 本意報 本語報	1								
本教授					大学院輪講第一 (皿)				
本教授	声	准数授		平成29年4日	大学院輪講第一 (IV)				
本教授	-3	,E3X1X		1 /2020 171	大学院実践演習(I)				
本教授 一本教授 一本教授 一本校29年4月 一平成29年4月 一个成果就是一位									
本									
本									
本									
本部校			岩崎 敦						
專 准款授 平成29年4月 共和知报告 (2) 共和的报告 (2) 共和的报告 (2) 共和的报告 (2) 共和的报告 (3) 大和的报告 (4) 大和的报告 (4) 大和的报告 (4) 大和的报告 (5) 大和的报告 (6) 大和的报告 (6									
事 准教授			(12)						
事 准教授	亩	准数坪		亚成20年4月	大学院輪講第一 (IV)				
本	4	准叙汉		一次23千4万					
本									
本教授									
本									
專 准教报 不完全9年4月 平成29年4月 大学院编集第一(10) 大学院美基海宫(12) 大学院美基海宫(12) 大学院美基海宫(12) 大学院美基海宫(12) 大学院美基海宫(13) 大学院美基海宫(14) 大学院美基海宫(15) 大学院美基海宫(15) 大学院美基海宫(15) 大学院美基海宫(15) 大学院美基海宫(15) 大学院美基海宫(15) 大学院美基海宫(17) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(17) 大学院美基海宫(17) 大学院美基海宫(18) 大学院美基海宫(17) 大学院美基海宫(18) 大学院美基海宫(16) 大学院美国(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院基海宫(16) 大学院美基海宫(16) 大学院基海宫(16) 大学院园(16) 大学院园(16									
專 准教授 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 專 在上 嘉康 (50) 大學院與第一(10) 大學院與第一(10) 大學院與第一(10) 大學院與第一(10) 大學院與第一(10) 大學院與第四(10) 大學院與第四(10) 大學院與第四(10) 大學院與第四(10) 大學院與第四(10) 大學院與第四(10) <t< th=""><th></th><th></th><th>喜田 哲司</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></t<>			喜田 哲司						
専 准教授 中成29年4月 本院施議第一(II) 大學施養第2 (II) 大學施養第2 (II)			(46)						
本学院実践末置 (1) 大学院実践末置 (1) 大学院実践末置 (1) 大学院実践末置 (1) 大学院装集業 (1) 大学院装集業 (1) 大学院議議第一 (1) 大学院議議第 (1) 大学院議簿第 (1)			, ,						
本学院実践末置 (1) 大学院実践末置 (1) 大学院実践末置 (1) 大学院実践末置 (1) 大学院装集業 (1) 大学院装集業 (1) 大学院議議第一 (1) 大学院議議第 (1) 大学院議簿第 (1)	亩	准数垺		亚成20年4月	大学院輪講第一 (IV)				
本	4	在扒区		一次23千4万					
本教授									
本教授									
本	1								
本	—								
本教授	1		石卜 夷康						
事	1		(50)						
専 准教授 平成29年4月 大学院養護常 (I) 大学院養護常 (II) 大学院養護清智 (IV) 大学院養護清智 (IV) 大学院養護清智 (IV) 大学院養護清智 (IV) 大学院養護清子 (II) 大学院議清子 (II) 大学院議清子 (II) 大学院養護清智 (IV) 大学院養護清子 (II) 大学院養護清智 (IV) 大学院養護清智 (II) 大学院養護濟智 (II) 大学院養護濟子 (II) 大学院養護濟智 (III) 大学院養護濟智 (III) 大学院養護濟智 (III) 大学院養護濟智 (III) 大学院養護濟智 (III) 大学院養養濟智 (III) 大学院養養養養養 (III) 大学院養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養	1		(00)						
大学院実践清雷 (I) 大学院実践清雷 (II) 大学院実践清雷 (II) 大学院実践清雷 (II) 大学院美茂清雷 (II) 大学院美茂清雷 (II) 大学院建議第一 (III) 大学院美茂清雷 (II) 大学院美茂清雷 (II) 大学院美茂清雷 (II) 大学院美茂清雷 (II) 大学院建議第一 (III) 大学院建茂清雷 (III) 大学院美茂清雷 (III) 大学院美茂清雷 (III) 大学院美茂清雷 (III) 大学院美茂清雷 (III) 大学院美茂清雷 (III)	声	/ 推 数 1型		亚战20年4日					
大学院実践者習 (II) 大学院実践者習 (II) 大学院養護者 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論議第 (II) 大学院論議第 (II) 大学院論議第 (II) 大学院養護者習 (II) 大学院実践者習 (II) 大学院実践者習 (II) 大学院実践者習 (II) 大学院養護者 (II) 大学院養護者 (II) 大学院養護者 (II) 大学院養護者 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論議第一 (II) 大学院論漢書 (II) 大学院養護者 (II) 大学院美護者習 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者習 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者習 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者習 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者習 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院美護者 (II) 大学院養養者 (II) 大学院養護者 (II) 大学院養護者 (II) 大学院養護者 (III) 大学院養護者 (III) 大学院養養者 (III) 大学院養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養	号	准叙授		十八人3千4月					
大学院実践演習 (ID) 大学院実践演習 (ID) 大学院報講第一 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院養護演習 (ID) 大学院報講第一 (ID) 大学院教講第一 (ID) 大学院報講第一 (ID) 大学院報講第一 (ID) 大学院教講第一 (ID) 大学院報講第一 (ID) 大学院教講第一 (ID) 大学院教講第一 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院表述演習 (ID) 大学院美政演習 (ID) 大学院工会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社	1								
本教授 中成29年4月 平成29年4月 大学院報講第一(II) 大学院教講第一(II) 大学院教講第一(II) 大学院教講第一(II) 大学院教講第一(III) 大学院教講第一(IIII) 大学院教講第一(IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	1								
再									
市野 将嗣	—								
本教授	1		古野 極調						
本教授 平成29年4月 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 - (IV) 大学院表演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	1		(37)						
専 准教授 平成29年4月 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院養護第 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IIII) 大学院実践演習 (IIII) 大学院実践演習 (IIII) 大学院実践演習 (IIII) 大学院実践演習 (IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII			(01)						
大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)		·# +/L !		TE CO C 1 C					
本学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大坐畠 智 (42) コンピュータネットワーク特殊 大学院輸講第一 (II) 大学院輸講第一 (II) 大学院輸講第一 (II) 大学院輸講第一 (II) 大学院輸講第一 (IV) 大学院業践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院主任 (IIII) 大学院主任 (IIII) 大学院主任 (IIII) 大学院主任 (IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	甲	准教授		平成29年4月					
大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) コンピュータネットワーク特徴 大学院権議第 (I) 大学院輸議第 (II) 大学院輸議第 (II) 大学院輸議第 (II) 大学院養護第 (II) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院主張記述 (III) 大学院主述 (III) 大学院主述 (IIII) 大学院主述 (IIIII) 大学院主述 (IIII) 大学院主述 (IIIII) 大学院主述 (IIIII) 大学院主述 (IIIII) 大学院主述 (IIIII) 大学院主述 (IIIIII) 大学院主述 (IIIIIIIII) 大学院主述 (IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	1								
大学院実践演習 (IV)									
大坐畠 智	1								
専 本教授 本教授 平成29年4月 大学院輪講第 (II) 大学院輪講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院工作									
専 准教授 工成29年4月 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(III) 大学院工作	1		十小白 知						
専 准教授 平成29年4月 大学院報講第 (W) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	1		人主由 省 (42)						
専 准教授 平成29年4月 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	1		(42)						
大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	l _	.,,							
大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III)	専	准教授		平成29年4月					
大学院実践演習 (Ⅲ)	1								
	1								
大学院実践演習(IV)	1								
					大学院実践演習 (IV)				

			1						
			大学院輪講第一(I)						
	岩本 貢 (40)		大学院輪講第一(Ⅱ)						
	(40)		大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ)						
専 准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)						
			大学院実践演習(Ⅱ)						
			大学院実践演習 (皿)						
			大学院実践演習(IV)						
	<i>u</i>		大学院輪講第一(I)						
	佐藤 寛之 (36)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)						
	(30)		大学院輪講第一(IV)						
専 准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)						
			大学院実践演習(Ⅱ)						
			大学院実践演習(Ⅲ)						
			大学院実践演習(IV)						
	水野 統太		大学院輪講第一(I)						
	(41)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)						
_	(41)	_ ,,,,,,,	大学院輪講第一(IV)						
専 准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)						
			大学院実践演習(Ⅱ)						
			大学院実践演習(Ⅲ)						
\vdash			大学院実践演習 (IV) 代数学基礎論						
.	大野 真裕		大学院輪講第一(I)						
'	(51)		大学院輪講第一(Ⅱ)						
			大学院輪講第一(Ⅲ)						
専 准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)						
			大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (Ⅱ)						
			大学院実践演習(Ⅲ)						
			大学院実践演習 (IV)						
			代数学特論						
1	榎本 直也 (36)		現代代数学						
	(30)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)						
			大学院輪講第一(Ⅲ)						
専 准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)						
			大学院実践演習(I)						
			大学院実践演習(Ⅱ)						
			大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						
			数理統計学基礎						
3	天野 友之		大学院輪講第一(I)						
	(38)		大学院輪講第一(Ⅱ)						
± 14.44			大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ)						
専 准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)						
			大学院実践演習 (Ⅱ)						
			大学院実践演習(Ⅲ)						
			大学院実践演習(Ⅳ)						
I .	久野 雅樹		認知科学特論 大学院輸講第一(I)			ļ	ļ		
'	(52)		大学院輪講第一(Ⅱ)						
			大学院輪講第一 (Ⅲ)						
専 准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			ļ	ļ		
 			大学院実践演習(I)			ļ	ļ		
			大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)						
			大学院実践演習 (IV)						
			コミュニケーション論特論						
	大河原 一憲		大学院輪講第一(I)						
	(41)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)						
専 准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)						
7 作教汉		⊤ルムッササ月	大学院実践演習(I)			ļ	ļ		
 			大学院実践演習(Ⅱ)			ļ	ļ		
			大学院実践演習(Ⅲ)						
			大学院実践演習 (IV)		 -∔			<u> </u>	
.	计 → 35=0		大学院輪講第一(I)						
'	江木 啓訓 (39)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)						
[<u> </u>	(00)	T-400 - 1 =	大学院輪講第一(IV)			ļ	ļ		
専 准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				ļ		
				1				l '	ı
	1		大学院実践演習(Ⅱ)		J	ì	'	1	ļ
I			大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						

				大学院輪講第一(I)			
		横川 慎二		大学院輪講第一(Ⅱ)			
		(47)		大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ)			
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅲ)			
				大学院実践演習 (IV)			
				データマイニング			
		山本 渉 (48)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)			
		(40)		大学院輪講第一(Ⅱ)			
専	講師		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
4	יוים אם		十级20千4万	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(Ⅲ)			
				大学院実践演習 (IV)			
		西 康晴		ソフトウェア品質学 大学院輪講第一(I)			
		(46)		大学院輪講第一(Ⅱ)			
		, ,		大学院輪講第一 (Ⅲ)			
専	講師		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
				大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)			
				大学院兼議第一(IV)			
		川喜田 佑介		大学院輪講第一(I)			
		(39)		大学院輪講第一(Ⅲ)			
専	B+i ≠/r		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
4	助教		十成29年4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)			
				大学院輪講第一(I)			
		小泉 直也		大学院輪講第一(Ⅱ)			
		(35)		大学院輪講第一 (Ⅲ)			
専	B+i ≠/r		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
₩	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(Ⅲ)			
				大学院実践演習 (IV) 大学院輪講第一 (I)			
		清 雄一		大学院輪講第一(Ⅱ)			
		(35)		大学院輪講第一(Ⅲ)			
由	D+1 ≠/-	, ,	平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(Ⅲ)			
				大学院実践演習(Ⅳ) 大学院輪講第一(I)			
		松吉俊		大学院輪講第一(I)			
		(36)		大学院輪講第一(Ⅲ)			
専	H+ ≠/-		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
分	助教		十八人3千4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(Ⅲ)			
				大学院実践演習(Ⅳ) 大学院輪講第一(I)			
		若月 光夫		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)			
		石月 九天 (51)		大学院輪講第一(Ⅲ)			
	마	\-·/	ᄑᄼ	大学院輪講第一 (IV)			
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習(皿)			
				大学院実践演習 (IV)			
# 10	#1-1	山口 耕平	TE CO C 4 C	幾何学基礎論			
兼担	教授	(62)	平成29年4月	J === rvcuitt			
<u> </u>							
34-JF	#/_1	梶浦 篤	T +204 - 1 =	国際社会の政治・経済			
兼担	教授	(56)	平成29年4月				
* '-	+// !-	阿部 浩二		現代社会と倫理			
兼担	教授	(60)	平成29年4月	-3 <u>-3 </u>			
	An 10-	久藤 衡介	-	解析学特論			
兼担	教授	(44)	平成29年4月	17〒171 丁二1寸 同間			

女授 佐々木 啓子 (62) 女授 史 杰 (54) 女授 安部 博文 (63) 女授 本間 高弘 (52)	平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月	教育学特論 大学院技術英語						
文授 (54) 文授 安部 博文 (63) 本間 高弘 (52)								
(63) 女授 本間 高弘 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
(52)								
	平成29年4月	知的財産権特論						
教授 渡邊 昌良 (61) (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
数授 米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ERL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験 オープンイノベーションスクール I						
対授 鈴木 勝 (57)	平成29年4月	オープンイノベーションスタール E EIL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
女授 肖 鳳超 (51)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
放授 藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
数授 田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレブレナー実践論						
女授 桂川 眞幸 (54)	平成29年4月	オープンイノペーションスクール I オープンイノペーションスクール E						
数授 新 誠一 (62)	平成29年4月	リアルタイム制御系設計基礎論						
_{数短} 石田 晴久	平成29年4月	解析学基礎論数理解析学						
佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
島田 宏 (55)	平成29年4月	ERL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験						
客本 洋子 (50)	平成29年4月	ERL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験						
安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
数担 笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造						
か宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造						
古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクール I オープンイノベーションスクール目						
教授 CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I						
教授 小木曽 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計応用						
教授 伊東 裕也 (57)	平成29年4月	数理解析学						
一女一女一女一女一女一孝一孝一孝一孝一孝一孝一孝	He	(61)	(61)	(61)	(61)	(61)	(61)	(61)

								1	1
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論					
兼任	講師	岡田 和則 (55)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)					
		折原 良平 (54)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III)					
兼任	講師		平成29年4月	大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II)					
				大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I)					
兼任	講師	山川 宏 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)					
NIC III	штиг		1 ///	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)					
		石川 冬樹 (37)		大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II)					
兼任	講師	(37)	平成29年4月	大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II)					
				大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ) 大学院輪講第一(I)					
兼任	講師	川村 隆浩 (47)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)					
NK IT	마구마		+1%20-4471	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)					
		栗原 恒弥 (58)		大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II)					
兼任	講師	(36)	平成29年4月	大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I)					
兼任	禁師	布施 哲治 (46)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)					
NK III	DAY DIT		+1,0,20-4-7,7	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)					
		Ved Prasad Kafle (46)		大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II)					
兼任	講師	(40)	平成29年4月	大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II)					
				大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I)					
兼任	講師	松林 達史 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)					
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV)					
ı					1	1	1	1	1

兼任	講師	山田 隆亮 (51)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理			
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理			
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	長谷部美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	Derr, Jonathan (52)	平成29年4月	大学院技術英語			
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			

兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	山田 節夫 (50)	平成29年4月	実践ソフトウェア開発療論Ⅱ			
兼任	講師	尾内 理紀夫 (67)	平成29年4月	マルチメディアコンピューティング特論			
兼任	講師	北田 皓嗣 (34)	平成29年4月	会計情報システム			
兼任	講師	山田 哲弘 (33)	平成29年4月	経営計画			
兼任	講師	山田 俊皓 (33)	平成29年4月	金融工学特論			
兼任	講師	藤川 裕晃 (63)	平成29年4月	経営システム工学特論			

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>影置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>家更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、 変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、 及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <mark>認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。A<u>C教員審査を受けずに専任</u> 教員として授業等を<u>担当することは出来ません。</u>
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専仟教員数

(2)	成色生十上のか	X O IL IN XX
完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
20	14	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計 画		Į	見在(報告	書提出	時)の状況		現在	(報告書提出	時)の完成	は年度時の計	·画
教 授	准教授	講	師	助教	計	教 授	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)
23	23	2		12	60	23	29	2	5	59	23	29	2	5	59
(23)	(29)	(2)		(5)	(59)						[0]	[6]	[0]	[△7]	[△1]
研究指導 員数		指導補 負数		義のみ担 の教員数		研究指導教 数		員 研究指導補 講助教員数 当			研究指導教員 数	員 研究指導 教員		のみ担当の 教員数	
55		5		0		59		0	0		59	0		0	
(59)		0		0					v		[4]	[△5]	[0]	/

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ③ 年齢構成

	年齢構成	
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就	忧任)の理由
			必修	〇〇概論	1		
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2	のため家	忧任辞退(27)
			必修	☆☆演習	3		
2	准教授			該当	まし	のため 家 	优任辞退(29)
京	优任を辞:	退した教員数	担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修 〇〇 科目	必修 〇〇 科目
	00		選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択 〇〇 科目	選択 〇〇 科目
	00	λ	自由	〇〇 科目	自由 〇〇	科目 自由 〇〇 科目	自由 〇〇 科目
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計 〇〇 科目	計 〇〇 科目

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」

 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教	員氏名	必修・選択・自由の別	担当予	·定科目	後任補充	状況			辞任	等の	理由		
				必修	00	概論	1								
1	教授	00	00	選択	**	基礎	2				თ	ため	辞任 (27)		
				必修	☆☆	演習	3								
2	准教授					核当な	なし					ため (D)	辞任(29)		
	辞任し	した教員数	Ţ	担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)		②の合計	数 (b)		③の合計	·数(c)	
				必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00	科目
				選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00	科目
	00		人	自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00	科目
				計	00	科目	計	00	科目	計	00	科目	計	00	科目

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)										
辞任等した教員	員数	担当科目数の)合計 (a) + (b) + (c)	①の台	計数 (a)	(2	②の合詞	計数(b)	③の合計数 (c)					
									0	科目	必修	〇〇 科目				
			≣ 3	を当な	: l ::				0	科目	選択	〇〇 科目				
00			D 2	~ —·	5				0	科目	自由	〇〇 科目				
		計	00	科目	計	OO #	目	計	00	科目	計	〇〇 科目				

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区	分	j	留 意	事	項	等	履	行	状	況	未履行事項 の実旅	質について 西計画
設置	時					〇〇意見						
(ОО年О(0月)											
設置計画原												
 調 査 (△△年 設置計画表 						該当	なし					
調 査	時					改善意見						
設置計画履行 調 査 (●●年2	時	ᆂᄪᆖᅲ	^{学部等} ●学科	(00	D学	〇〇意見						

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士前期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

	設	置	時	の	計	画			変更内容	• 状況,	今後	の見通	しなど
記入例)													
① 修了要件单位	4												科目(1科
124単位													象表」参照)
							該当	<i>ナ</i> こ1					
② 施設・設備							以 二	かし					室、自習室を
a 講義室〇室													,図書も〇〇冊
b 自習室〇室	<u> </u>)m)						増書した	0				
c 図書〇〇冊	}												

- 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

- c 委員会の審議事項等
 - (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
 - (2) 学生授業評価の実施に関すること
 - (3) シラバス及び成績評価に関すること
 - (4) 教育環境の整備に関すること
 - (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育カ向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

〇 設置計画履行状況報告書							
a ホームページに公表の有無	(有		無)		
b 公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)		

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- () 書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<帽	情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)>	\wedge°	ージ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	12
4.	既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	13
5.	教員組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	15
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	32
7.	その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	33

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備考
学 長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専 攻 長	チョウ キ 張 熙 (平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません) 。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の		備考		
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	1
情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻 (博士前期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係理学関係	2年	150人	300人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

_						ī	
`	報告年度	平成 2	8 年度	平成2	9 年度	平均入学定員	備考
区	分	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	超 過 率	VHI 75
		人 1!	人 50	人 1	人 50		
Α	入学定員	(-	(-)		-)		
		L -	[-] [-]				
		269	_	235			
	志願者数	(2)	(-)	(2)	()		
		[30]	[-]	[35]	[]		
		251	_	223		1	
	受験者数	(2)	(-)	(2)	()	4 40/4	
		[26]	[-]	[33]	[]	1. 13倍	
		223	_	186		1	
	合格者数	(1)	(-)	(2)	()		
		[16]	[-]	[20]	[]		
		171	_	169		1	
ı	B 入学者数	(1)	(-)	(2)	()		
	[13]	[-]	[16]	[]			
7	【学定員超過率 B∕A	1.	14	1.	12		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成28年度		平成29年度		/±±	考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	備	5
	171	_	169			
1 年次	[13]	(-)	[16]	[]		
	(-)	(-)	(-)	()		
			170			
2年次	/		[12]	[]		
			(-)	()		
	1	71	33	39		
計	[1	3]	[:	28]		
	(-	-)	(-	-)		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。),短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退学	学者数(内訳))	主な退学理由	入学者数に 対する退学者数
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)
平成28年度	171 人	1 1	平成28年度	1人	0 人	•就職(1人)	0.58 %
入学者	1/1 人	1 人	平成29年度	0 人	0 人		0.38 %
平成29年度 入学者	169 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	340 人	1 人					0.29 %

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)>

(1) 授業科目表

					単位数	ζ		専任教員	員等の	配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	授	授	師	教	手		:
		大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1					兼1	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29)教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
		幾何学基礎論	1•2前		2		1						
		解析学基礎論	1・2前		2			1					
		代数学基礎論	1・2前		2			1					
		技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2							兼1	
		国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						
		日本とアジアの近代史	1・2後		2							兼1	
	大 学	科学技術の歴史	1・2後		2			1					
	大学院基礎教	現代社会と倫理	1・2後		2		1					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	育科目	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で 対応(28)
		幾何学特論	1・2後		2		1						
		解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		教育学特論	1・2後		2		1						
		大学院輪講第一 (I)	1・2前	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
	大学院	大学院輪講第一(Ⅱ)	1・2後	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
	輪講	大学院輪講第一(Ⅲ)	1・2前	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
		大学院輪講第一(IV)	1・2後	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
	大学院技 術 英 語	大学院技術英語	1・2前	2			6 4	7 to ⇔		3		兼1	教育内容充実のため、専任教授6名、専任准教授7名、専任助教3名、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授5名、助教3名及び兼任1名で対応(28)
		ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	1					兼任教員の負担の軽減のため、兼任教員4名で対 応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると 共に兼任教員6名を追加(28)
		知的財産権特論	1・2後		2		1						兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8 名で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1•2通		2		2	2					
大学院実	大学院産学連	大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任 准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授 1名で対応(28)
践教	携	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					
育科	科 目	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1					兼3	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3
目		経営実践特論	1・2前		1					1		兼2	名で対応(28) 教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2 名で対応(28)
		1 工是前線	1 . 03%		0		1					姜1	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1
		I T最前線	1・2後		2		1					兼1	名で対応(28)
		実システム創造	1・2後		2		1	4				兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 4名、兼任教員1名で対応(28)
		データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
		データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)

						単位数	ά		専任教員	員等の	配置		
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
	<u> </u>				修	択	由	授	授	師	教	手	
			オープンイノベーションスクール I	1・2前		1		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
													教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授
			オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1				1名で対応(28)
									2				より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大学院インターンシップ	1・2前		2		1	1				専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応 (28)
													より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大学院インターンシップ(海外)	1・2前		2		1	2 1				専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応
									1				(28)
			大学院インターンシップ(長期)	1 024					2				より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			大字院インターンンップ(長期)	1・2前		4		1	1				専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応 (28)
			大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2前		4		1	2 1				より教育内容に即した担当教員への変更(29) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応
									T				(28)
			大学院海外語学研修 I	1・2前		1			1				教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1				教育内容充実のため、科目を追加(29)
								42	42		11		
			大学院実践演習(I)	1・2前	1			41 42	41 42		12 11		
			大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)	1·2後 1·2前	1 1			41 42	41 42	1	12 11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分
			大学院実践演習 (IV)	1・2後	1			41	41	1	12		割し、半期1単位4科目に変更(28)
			大学院実践演習	1・2通	4			42 41	42 41		11 12		
		専						36	33		14		
		門科	情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1				
		目	計算機アーキテクチャ基礎論 応用解析基礎論	1・2前 1・2前		2 2		1 1					
		1	アルゴリズム基礎論	1・2前		2		1	1				
			応用アルゴリズム論	1・2後		2		1					
			ハイパフォーマンスコンピューティング基礎論	1・2後		2		1					
			シミュレーション理工学基礎論	1・2後		2		1					
			離散最適化基礎論	1・2後		2		1	1				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
	① 情		連続最適化基礎論 知識データ工学特論	1・2後 1・2前		2		1					
	報数		ハイパフォーマンスコンピューティング特論	1・2前		2		1					
	理		並列分散システム特論	1・2後		2			1				
	工学		シミュレーション理工学特論	1・2後		2			1				
	プロ		アルゴリズム特論	1・2後		2			1				
	グラ		応用解析学特論 知能情報特論	1・2後 1・2後		2 2		1 1					
	Ĺ		理論計算機科学特論	1・2前		2		1	1				
			ソフトウエア基礎特論	1・2前		2			1				
		専	計算機構特論	1・2前		2		1					
		門		1・2後									より教育内容に即した担当教員への変更。それ に伴い開講学期の変更(29)
		科目	ソフトウェアセキュリティ特論	1 · 2前 1 · 2後		2			1 1				#1 専任権教授が平成28年度に転出のため、同准教 授が兼任教員として対応。それに伴い開講学期
		Π		1 * 4恢									校が兼任教員として対応。それに伴い開講字期 を変更(28)
			リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1					
			制御系設計応用ベイズ的人工知能特論	1・2後 1・2前		4 2		1	1				
			統計的機械学習特論	1・2前 1・2後		2		1	1				
								1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			システムソフトウェア特論	1・2前		2		1	1				兼1 専任教授が平成27年度に退職のため、客員准教 授へ変更(28)
大			基盤ソフトウェア特論	1・2後		2			1				
大学院			並列処理論第一	1・2前		2		1					
専			並列処理論第二	1・2後		2		40	1		4.4	1	
門教育	2		1 NV mb cb plo Nd TET					42 41	42 41		11 12		
科目	コン		大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II)	1・2前 1・2後	1 1			42 41	42 41		11 12		大学院担当資格取得等のための変更(29)
Ħ	ピュ		大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)	1・2前 1・2後	1 1			42 41	42 41	1	11 12		教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)
	1		大学院実践演習	1·2版 1·2通	4			42	42		11		B. C. T ///12 TIB FILE (A. C.
	タサ	専						41 36	41 33		12 14		
	イエ	17	情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1				
	ンス		計算機アーキテクチャ基礎論	1・2前		2		1					
	プ	1	アルゴリズム基礎論 応用アルゴリズム論	1・2前 1・2後		2 2		1	1				
	ログニ		ルンパファーマンスコンピューティング基礎論	1・2後 1・2後		2		1					
	ラム		プログラム言語基礎論	1·2版 1·2前		2		1					
			離散最適化基礎論	1・2後		2		1	1				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
			連続最適化基礎論	1・2後		2		1					
• '	-	•	•	-	•	•	-	=	=		-	-	•

						単位数	汝		専任教員	員等の	配置			
科 E 区 S			授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助		備考
					修	択	由	授	授	師	教	手		
			ヒューマンインタフェース特論	1・2後		2							兼1	
			知識データ工学特論	1・2前		2		1						
			ハイパフォーマンスコンピューティング特論 並列分散システム特論	1・2前		2		1	1					
			业列分取シヘテム行調 アルゴリズム特論	1・2後 1・2後		2 2			1 1					
			知能情報特論	1・2後		2		1	1					
			ソフトウェア基礎特論	1・2前		2		1	1					
			計算機構特論	1・2前		2		1						
														より教育内容に即した担当教員への変更。それ
			ソフトウェアセキュリティ特論	1・2後 1・2前		2			1				兼 1	に伴い開講学期の変更(29) 専任准教授が平成28年度に転出のため、同准教
	_	_		1・2後					1				7.11.1	授が兼任教員として対応。それに伴い開講学期
		専門	画像認識システム特論	1・2後		2		1						を変更(28)
	禾	科	マルチメディアコンピューティング特論					1					** 1	
		п	情報ネットワーク特論	1・2後		2							兼1	
				1・2後		2		1						
			ネットワークアプリケーション特論	1・2後		2			1					
			リアルタイム制御系設計基礎論	1•2前		4		1						
			制御系設計応用	1・2後		4			1					
			ネットワークコンピューティング特論	1•2前		2			1					
			計算機ネットワーク特論	1・2後		2		1						
			音声対話処理	1・2後		2		1						
			アルゴリズム工学特論	1・2前		2			1					
			データ工学原論 1	1・2前		2			1					
			データ工学原論 2	1・2前		2		1						
								42	42		11			
			十分吃中吃冷烟 (I)	1 04				41	41		12			
			大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ)	1・2前 1・2後	1			42 41	42 41		11 12			大学院担当資格取得等のための変更(29)
			大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(W)	1・2前	1			42	42	1	11			教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)
			大学院実践演習(IV) 大学院実践演習	1・2後 1・2通	1 4			41 42	41 42		12 11			刮し、干朔1年位4件日に変更(28)
	卓	專						41 36	41 33		12 14			
	月	明		.,							11			
	不	計	情報・ネットワーク工学専攻基礎	1•2前		2		1	1					
]]	Ι	情報伝送基礎	1・2前		2			1					
			情報通信ネットワーク	1・2前		2		1					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、同教授が 兼任教員として対応(29)
														兼仕教員として対応(29)
			データ圧縮基礎	1•2前		2		1						
3			回路システム基礎	1・2後		2			2					
情			集積回路基礎	1・2前		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
報通			集積回路設計特論	1・2前		2		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名へ変更(29)
信			マイクロ波回路設計特論	1・2前		2		1						(A)
工学			環境電磁工学特論	1・2前		2		1	1					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授
プロ								1	1					1名へ変更(29)
グ			無線通信システム特論	1•2前		2		1	1					
ラム			情報理論特論	1・2後		2		1						
			情報光工学特論	1・2後		2			1					
	=	東	宇宙通信工学特論	1・2後		2			1					
	F	明	光通信システム特論	1•2後		2		1						
	利 F	目	CMOS集積回路設計学特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	I	п	センシング工学特論	1・2後		2			1					
			マルチメディア信号処理特論	1・2前		2				1				
									,	1				
			信号解析学特論	1・2前		2			1					
			リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
大 学			制御系設計応用	1•2後		4			1					
大 学 院 専			情報幾何学特論	1・2後		2		1	1					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 1名で対応(28)
門														1.4口 人 刈 心 (40)
教 育	+	-	量子情報数理特論	1・2前		2			1					
科			大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ)	1・2前 1・2後	1 1			42 41 42	42 41 42		11 12 11			大学院担当資格取得等のための変更(29)
			大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1			41 42 41	41 42 41	1	12 11 12			教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分
④ 電			大学院実践演習(IV) 大学院実践演習	1・2後 1・2通	1 4			42 41 26	42 41 23		11 12 14			割し、半期1単位4科目に変更(28)
子					1	0					**			
情 報	卓	寻	情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1					
報学プ	1 年	門科	情報通信ネットワーク	1・2前		2		1						専任教授が平成29年度に転出のため、同教授が 兼任教員として対応(29)
口		1												本 上代貝C レ (刈ル (47)
グラ		1	データ圧縮基礎	1•2前		2		1						
4			回路システム基礎	1・2後		2			2					
			集積回路基礎	1・2前		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
			ディジタル信号処理基礎	1・2前		2		1	1					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授
				T 200		-	<u> </u>	1	1					1名へ変更 (29)

				単位数	ţ		専任教員	員等の	配置			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考	
			修	択	由	授	授	師	教	手		
	集積回路設計特論	1•2前		2		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教 1名へ変更(29)	数 授
	情報光工学特論	1・2後		2			1					
	センシング工学特論	1・2後		2			1					
	マルチメディア信号処理特論	1・2前		2				1				
	信号解析学特論	1・2前		2			1					
	伝送工学特論	1・2前		2			1					
	専 電磁波環境観測技術特論	1・2後		2		2	1					
	門 科 生体電磁工学特論	1・2後		2			1					
	目 非線形システム特論	1・2後		2			1					
	ヒューマンインタフェース特論	1・2後		2							兼1	
	固体照明工学特論	1・2後		2		1					教育内容充実のため、科目を追加(29)	
	音響システム特論	1・2前		2			1					
	リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
	制御系設計応用	1・2後		4			1					
	情報データ解析論	1・2前		2		1						
	データ解析最適化論	1・2後		2			1					

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 兼任, 兼担の教員が担当する授業科目については, 備考欄に担当する教員数を「兼O」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	状	況	ļ					備		考		
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択	自	B	Ħ		計			1/用		75		
	科目		科目		科目		科目		科目		科目		科	目		科目							
	9		127		0		136		21		135			0		156	;						
									12]	[8]	[0]	[20]							

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						
						_

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単	位	数	配当年次	一般•	専門	必修・選択	未開講の理由	代替措置の有無
1										
2					該当	+>	I			
3					談二	み	し			

- (注) · 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分					内					容			備考
(1)		区	分		専		用	共	用		共用する 学校等の			計		
校		校纟	き敷 均	<u>t</u>		11	5, 433 m ²		0	m²		0	m²	1	15, 433 m ²	
TX		運動	場用地	ļ.		3	88, 187 m ²		0	m [®]		0	m ²	ţ	38, 187 m ²	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	-		15	53, 620 m ²		0	m [‡]		0	m [‡]	1	53, 620 m [°]	
等:		そ	の他	ļ.		3	84, 685 m ²		0	m²		0	m²	;	34, 685 m ²	
		合	計	-		18	38, 305 m ²		0	m [*]	4 m + 3	0	m [*]	1	88, 305 m ²	
					専		用	共	用	Ė	共用する 学校等の	り専用		計		
(2) 校			舎			g	90, 163 m ²		0	m [®]		0	m [*]	!	90, 163 m ²	
					(90,	163 m ²)	(0m²)	(1	0m²)	(163 m ²)	
				講	義室		演習	室	実験実	(習室	情報	処理学習		語学学	習施設	
(3) 教		室	等			0室		46室		55室		L 1741 . C	4室	- ₽ п ⊥ т~\	0室	
							ಸc≣ಒ⇔ ಕೂ	生のなむ			(補耳	助職員 		甫助職員	人)	
(4) 専	任教	員研究	室		情報理工	学研		录・ネットワーク .	工学専攻(博		室 12		数		
				<u> </u>	图 書		士前期 学術					12	'			
(5)	新	f設学:			ュ ち外国書〕		テ m 〔うちタ		電子ジャ		視聴:	覚資料	機械・器	具札	票 本	
(0)		の名種			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	₩	(,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	種	〔うちタ			点		点	点	
図		理工学		315, 01	8 [109, 39	4)	8, 887 [6, 091]	3, 899 [3, 889]	2,	896	0		0	大学全体
書・		i・ネットワ : (博士 程)		(315, 01	8 [109, 394	1))	(8, 887 [6, 091〕)	(3, 899 [3, 889〕)	(2,	896)	(0)		(0)	
設 備		-1		315, 01	8 [109, 39	4)	8, 887 [6, 091]	3, 899 [3, 889]	2,	896	0		0	
		計		(315, 01	8 [109, 394	1))	(8, 887 [6, 091〕)	(3, 899 [3, 889〕)	(2,	896)	(0)		(0)	
(6) 図		書	館		面		積		閲覧座	区席 数		収	納可	能	冊 数	
(U) 🗵			מא				7, 323	Bm [*]			621				368, 000	大学全体
(7) 体		育	館		面		積						設の概要			
						1	3, 077	m [®] 多摩川に チェリ-	運動場(陸上 −場)、プー	競技場、サ ル、屋外競	対場(デ	・ラグビー 3道場、5	-場、テニス - ニスコート	.コート ⁴ · 7 面)	4面、アー	大学全体
		経費	Σ		分		引設年度	完成年度		分	開設	前年度	開設年度	£ 5	完成年度	
(8) 経費の		の見 積り			研究費等		千円		_	購入費		千円		T	千円	-
程質の 積り及 維持方	び_				費 等		千円	1		購入費		千円		· H	千円	
の 概	要	学生 1	J	第	1 年次 ————————————————————————————————————		第2年次		3年次	第4年			5 年次	第	6年次	
	-	納付		U H 0 2	手 円	. +mr ===		円	千円		千円		千円		千円	
	\dashv	一字生	納付金	以外の約	維持方法の	概要	!									

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については,上段に完成年度の予定数値を,下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信:	大	学										•	備	考	
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入定	学員	収定	容員	学位又 は称号	平均入 ⁵ 定員 超過率		開語	设度	所	在	地				
	年		人	年	次		人		ſ	卋									
情報理工学域					人														
I 類(情報系)	4		210	3年2 9			858	学士	1.0)4	平成28年	度	東京都調	布市調 5 番地	布ヶ丘 1 1 1号	一般プ 程) で			
Ⅱ類(融合系)	4		245	3年2 10		1	000	学士 ^(工学)	1.0)4	平成28年	度		同上		の大排用して	ており	り、ブ	(学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年2 10			960	学士 ^(工学)	1.0)4	平成28年	度		同上		定員制の状況	兄を負	集計す	ける
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年 3			126	学士 ^(工学)	1.0	00	平成28年	度		同上		ことが、単類で	I 類、 をまっ	Ⅱ 判 とめ」	頁、 ヒげ
情報理工学部																いる。			
総合情報学科	4		_	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成2	28年	学生	募集
情報・通信工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
知能機械工学科	4		_	-		-	-	学士 (工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
先進理工学科	4		_	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		_	-		-	-	学士 (工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																			
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 1	9	平成28年	度	東京都調 丁目	布市調 5 番地					
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 1	3	平成28年	度		同上					
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学)(理学) (学術)	1.0)2	平成28年	度		同上					
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0. 9)4	平成28年	度		同上					
総合情報学専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集
情報・通信工学 専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
知能機械工学専攻	2		_	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集
先進理工学専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集

情報理工学研究科									
(博士後期課程) 情報学専攻	3	13	_	39	博士	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク	3	18	-	54	(学術) 博士 (工学)(理学)		平成28年度	月5番地 1 号 	
工学専攻 機械知能システム	3	12	_		(学術) 博士 (工学)(理学)		平成28年度	同上	
学専攻					(学術) 苗 十				
基盤理工学専攻	3	16	-	48	(工学)(理学) (学術)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	_	_	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	_	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	_	-	-	修士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	_	博士	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	_	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	— 平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部,学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について,それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合,<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし,</u> <u>「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。</u>

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)>

(1) 担当教員表

		設置	時	の 計 画					変	更	状 況			
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 4 (年 齢		就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)		就任予定年月	担当授業科目名	備	考
専	教授	村松 正 (51)	和	平成29年4月	大学院技術英語 連続最適化基礎論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院業践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)									
専	教授	植野 真 (51)	臣	平成29年4月	大学院技術英語 ペイズ的人工知能特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院乗践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									
専	教授	大森 [(54)	THE	平成29年4月	大学院技術英語 2 大学院技術英語 2 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院乗践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)									
専	教授	芳原 容 (49)	英	平成29年4月	大学院技術英語 電磁波環塊報測技術特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院東建演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									
専	教授	小林 II (51)	<u> </u>	平成29年4月	情報・キットワークエ学等取品組 応用アルゴリズム論 大学院輪講第 - (I) 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (IV) 大学院乗銭演習 (IV) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV)									
専	教授	佐藤 [(52)	_ _	平成29年4月	計算機アーキテクチャ基極地 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									

1				応用解析基礎論	1		
		山本 野人		大学院輪講第一(I)			
		(57)		大学院輪講第一(Ⅱ)			
				大学院輪講第一 (皿)			
	#4.177		TI # 00 / 1 / I	大学院輪講第一 (IV)			
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習 (皿)			
				大学院実践演習 (IV)			
				ハイパフォーマンスコンピューティング基礎論			
		山本 有作		大学院輪講第一(I)			
		(50)		大学院輪講第一(Ⅱ)			
		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)			
				大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習(Ⅱ)			
				大学院実践演習 (Ⅲ)			
				大学院実践演習 (IV)			
-	-			シミュレーション理工学基礎論			
		仲谷 栄伸		大学院輪講第一(I)			
		(54)		大学院輪講第一(I)			
		(04)		大学院輪講第一(Ⅲ)			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
				大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習 (Ⅱ)			
				大学院実践演習 (Ⅲ)			
				大学院実践演習 (IV)			
1		□+ ++		離散最適化基礎論	1		
1		岡本 吉央		大学院輪講第一(I)	1		
		(40)		大学院輪講第一(Ⅱ)			
				大学院輪講第一(Ⅲ)			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
٠,	2,7,7		1 79020 1 173	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習 (II)			
				大学院実践演習 (Ⅲ)			
				大学院実践演習 (Ⅳ)			
				知識データ工学特論			
		兼岩、憲		大学院輪講第一(I)			
		(46)		大学院輪講第一(II)			
				大学院輪講第一(皿)			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)			
4	秋		十,%20千十万	大学院実践演習(I)			
				大学院実践演習 (II)			
				大学院実践演習 (Ⅲ)			
				大学院実践演習 (IV)			
				ハイパフォーマンスコンピューティング特論			
		成見哲		大学院輪講第一(I)			
		(47)		大学院輪講第一(Ⅱ)	1		
				大学院輪講第一(Ⅲ)	1		
専	≯ /1□		亚成20年4日	大学院輪講第一(Ⅳ)	1		
号	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)	1		
1				大学院実践演習(I)	1		
1					1		
1	1			大学院実践演習 (III)	1		
				大学院実践演習(Ⅳ)	1		
1							
				計算機構特論			
		伊藤 大雄					
		伊藤 大雄 (55)		計算機構特論			
		伊藤 大雄 (55)		計算機構特論 大学院輪講第一(I)			
<u>+</u>	#L1=	伊藤 大雄 (55)	TI C 00 C 1 C	計算機構特論 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II)			
専	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV)			
事	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(I)			
専	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV)			
専	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(I)			
專	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(III) 大学院東建演習(II) 大学院東建演習(II) 大学院東建演習(III)			
專	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院集践習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II)			
專	教授	(55)	平成29年4月	計算機構特論 大學院輸講第一(I) 大學院輸講第一(II) 大學院輸講第一(II) 大學院集議第一(IV) 大學院集践演習(II) 大學院集践演習(II) 大學院集践演習(II) 大學院集践演習(IV) 並列処理論第一			
專	教授	(55) 	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院報講第一(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 並列処理論第一 大学院報講第一(I)			
專	教授	(55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 並列処理論第一 大学院轉講第一(II)			
專		(55) 		計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 並列処理論第一 大学院構講第一(II) 大学院輸講第一(II)			
専	教授	(55) 	平成29年4月	計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 並列処理論第一 大学院轉講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II)			
		(55) 		計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 並列処理論第一 大学院構講第一(II) 大学院輸講第一(II)			
		(55) 		計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 並列処理論第一 大学院轉講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II)			
		(55) 		計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(III) 大学院東建演習(II) 大学院実建演習(II) 大学院実建演習(II) 大学院東建演習(II) 大学院輸講第一(III) 大学院輸講第一(III) 大学院輸講第一(III) 大学院輸講第一(III) 大学院輸講第一(IIII)			
		(55) 		計算機構特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院與践演習(IV) 並列処理論第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II)			

							•	T
				プログラム言語基礎論				
		岩崎英哉		大学院輪講第一(I)				
		(57)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
	27.12		1 774-1 177	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (III)				
				大学院実践演習 (IV)				
				情報ネットワーク特論				
		小花 貞夫		大学院輪講第一(I)				
		(63)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一 (IV)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				計算機ネットワーク特論				
		吉永、努		大学院輪講第一(I)				
		(53)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				音声対話処理				
		南 泰浩		大学院輪講第一(I)				
		(54)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(= 1,		大学院輪講第一(Ⅲ)				
	٠, ١٠٠		T-100 - 10	大学院輪講第一 (IV)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (Ⅳ)				
		1111111 71		データ圧縮基礎				
		川端 勉 (61)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
		(01)						
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				集積回路基礎				
1		野﨑 眞次		大学院輪講第一(I)				
1		(63)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
1				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
1			1 .//	大学院実践演習(I)				
1				大学院実践演習 (II)				
1				大学院実践演習(Ⅲ)				
1				大学院実践演習 (IV)				
\vdash				集積回路設計特論				
1		石橋 孝一郎		大学院輪講第一(I)				
1		石橋 孝一郎 (59)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
1				大学院輪講第一(Ⅲ)				
_	#1.17		T +00 + 1 =	大学院輪講第一(IV)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
1								
1				大学院実践演習 (Ⅱ)				
1				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		****		マイクロ波回路設計特論				
1		和田 光司		大学院輪講第一(I)				
		(48)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
1				大学院実践演習(I)				
1				大学院実践演習(Ⅱ)				
1				大学院実践演習 (Ⅲ)				
1				大学院実践演習 (IV)				
	1							

						1		
				光通信システム特論				
		來住。直人		大学院輪講第一(I)				
		(57)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	1 人1又		十,%20千十万	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				CMOS集積回路設計学特論				
		範 公可		大学院輪講第一(I)				
		(52)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (皿)				
専	*/- t==		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
寸	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
				固体照明工学特論				
		内田 和男		大学院輪講第一(I)				
		(57)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (Ⅲ)				
l			_ 544-4-	大学院輪講第一 (IV)				
専	教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
—	\vdash			情報データ解析論	 -			
		森田 啓義		大学院輪講第一(I)				
		(61)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(01)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一(IV)				
専	教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
-				大学院輪講第一(I)		+		
		橋本 猛		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(64)		大学院輪講第一 (皿)				
				大字院輪講弟一(IV)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (Ⅱ)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (Ⅱ)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(Ⅲ)				
専	教授	藤井 威生	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)				
専	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習(IV)				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院国際プロジェクト				
専	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院随際プロジェクト 無線通信システム特論 大学院補講第一(I)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院もあるシステム特論 大学院構講第 (I) 大学院構講第 (I)				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	教授		平成29年4月	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術英語 大学院随際プロジェクト 無線通信システム特論 大学院構講第 (II) 大学院構講第 (II)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術英語 大学院もあるシステム特論 大学院報講第 (I) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術英語 大学院随際プロジェクト 無線通信システム特論 大学院構講第 (I) 大学院構講第 (II) 大学院構講第 (II)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術英語 大学院もあるシステム特論 大学院報講第 (I) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院園原プロジェクト 無線画店システム特論 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(III) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院東践演習(II)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術英語 大学院輔護第一(II) 大学院輔講第一(II) 大学院輔講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院東践演習(II) 大学院東践演習(II)				
				大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院・技術英語 大学院技術英語 大学院も 大学院も 大学院も 大学院も 大学院も 大学院も は 大学院も は 大学院も は 大学院も は 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院も は に 「II) 大学院 は に 「II) 大学院 は に 「II) 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院 大学院				
		(42)		大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報調第 (I) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)				
		(42)		大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術の支語 大学院輸講第 - (II) 大学院輸講第 - (II) 大学院報講第 - (IV) 大学院製護演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院業践演習(II) とステムソフトウェア特績 大学院輸講第 - (II)				
		(42)		大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院現 (IV) 大学院も (IV) 大学院も (IV) 大学院報講第 - (IV) 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 - (IV)				
		(42)		大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 大学院技術英語 大学院技術の支語 大学院輸講第 - (II) 大学院輸講第 - (II) 大学院報講第 - (IV) 大学院製護演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院業践演習(II) とステムソフトウェア特績 大学院輸講第 - (II)				
専	教授	(42)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院現 (IV) 大学院も (IV) 大学院も (IV) 大学院報講第 - (IV) 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 - (IV)				
		(42)		大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院時期 (IV) 大学院時期 (IV) 大学院輸講第 (II) 大学院輸講第 (II) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II)				
専	教授	(42)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院開発 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院輸講第 (IV) 大学院製践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 (IV)				
専	教授	(42)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技術 英語 大学院園際プロジェクト 無線通信システム特論 大学院輸講第 - (II) 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院報講第 - (II) 大学院報講第 - (III)				
専	教授	(42)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院職職プロジェクト 無線通信システム特論 大学院輸講第 (II) 大学院輸講第 (II) 大学院業践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II)				
専	教授	(42)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技術 英語 大学院園際プロジェクト 無線通信システム特論 大学院輸講第 - (II) 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院報講第 - (II) 大学院報講第 - (III)				
専	教授	久野 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院職職プロジェクト 無線通信システム特論 大学院輸講第 (II) 大学院輸講第 (II) 大学院業践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II) 大学院報講第 (II)				
専	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV)				
専	教授	久野 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技術英年(IV) 大学院院技術第一 (I) 大学院輸講第一 (IV) 大学院報酬の (IV) 大学院教養所 (IV) 大学院教養所 (IV) 大学院教養所 (IV) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院教養講第 (II) 大学院教養講第 (II) 大学院教養講第 (IV) システムが輸講第 (IV) 大学院教養講第 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (II) 大学院教養講第 (IV)				
専	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院技術英 (IV) 大学院技術英 (IV) 大学院技術英 (IV) 大学院も (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第 (IV) とステムソフトウェア特線 大学院報講第 (IV) とステムソフトウェア特線 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院課践演習 (IV) 大学院課題演習 (IV) 集積回路設計特施 大学院報講第 (IV)				
専	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) システム特論 大学院輪講第 (IV) システムリフトウェア特論 大学院輪講第 (IV) システムソフトウェア特論 大学院輪講第 (IV) システムソフトウェア特 大学院輪講第 (IV) システムソフトウェア特 大学院輪講第 (IV) システムリフトウェア特 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院書談演習 II) 大学院実践演演習 II) 大学院実践演演習 II) 大学院実践演演習 II) 大学院書談演習 II) 大学院書談演習 III)				
専	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技 (IV) 大学院院 (IV) 無経通信 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院轉載講第 (IV) 大学院轉載講第 (IV) 大学院轉載講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV)				
專專	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技術 (IV) 大学院院 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) システムりコーパー 大学院輪講第 (IV) システムを持続 大学院輪講第 (IV) システムを持続 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院練講第 (IV) 大学院練講第 (IV) 大学院練講第 (IV) 大学院練講演 (IV) 大学院編講第 (IV)				
專專	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院時 (IV) 大学院時 (IV) 大学院時 (IV) 大学院輪講第 第 (IV) 大学院輪講第 第 (IV) 大学院轉 (IV) 大学院輪講第 第 (IV) 大学院報講第 第 (IV) 大学院報講第 (IV)				
專專	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院院技術 (IV) 大学院院 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) 大学院輪講講第 (IV) システムりコーパー 大学院輪講第 (IV) システムを持続 大学院輪講第 (IV) システムを持続 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院輪講第 (IV) 大学院練講第 (IV) 大学院練講第 (IV) 大学院練講第 (IV) 大学院練講演 (IV) 大学院編講第 (IV)				
専	教授	(42) 久野 靖 (60)	平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院時 (IV) 大学院時 (IV) 大学院時 (IV) 大学院輪講第 第 (IV) 大学院輪講第 第 (IV) 大学院轉 (IV) 大学院輪講第 第 (IV) 大学院報講第 第 (IV) 大学院報講第 (IV)				

						,	,	1
				幾何学基礎論				
		山口 耕平 (62)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
		(02)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				解析学特論				
		久藤 衡介		大学院輪講第一(I)				
		(44)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(皿)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院技術英語				
		川野 秀一		統計的機械学習特論				
		(35)		大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
-	+ +			大学院技術英語	-			
		古賀 久志		アルゴリズム工学特論				
		(46)		大学院輪講第一 (I)				
				大学院輪講第一 (Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(皿)				
				大学院実践演習(Ⅳ)				
		松浦 基晴		大学院技術英語 大学院輸講第一(I)				
		(44)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(11)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一 (IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		八木 秀樹		大学院技術英語				
		(41)		大学院輪講第一(I)				
		(41)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(皿)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
,,			[-1/]					
				大学院実践演習 (I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		6m111 #4 ±4		大学院技術英語				
		細川 敬祐 (41)		宇宙通信工学特論 大学院輪講第一(I)				
		(41)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅲ)				
守	准狄按		十八23年4月	大学院輪講第一(IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
				アルゴリズム基礎論				
		武永 康彦		大学院輪講第一(I)				
		(50)		大学院輪講第一 (Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (皿)				
車	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
"			1 .//	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (皿)				
	1 1			大学院実践演習 (IV)				
	1					i .	i .	

					 		Т	
				並列分散システム特論				
		中山泰一		大学院輪講第一(I)				
		(52)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ)				
			1 // 1 -//-	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (III)				
				大学院実践演習(IV)				
				入子院夫式/英首(IV) シミュレーション理工学特論				
		龍野 智哉		大学院輪講第一(Ⅰ)				
		(45)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(10)		大学院輪講第一(皿)				
				大学院輪講第一(IV)				
専	准教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				アルゴリズム特論				
		村尾 裕一		大学院輪講第一 (I)				
		(61)		大学院輪講第一 (Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (Ⅲ)				
由	\# \ #++∞		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習(IV)				
	T	= =		理論計算機科学特論	Ī			
		垂井 淳		大学院輪講第一(I)				
		(56)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ)				
			1 // 1 -//-	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (III)				
				大学院実践演習(IV)				
				大学院インターンシップ				
		中野 圭介		大学院インターンシップ (海外)				
		(41)		大学院インターンシップ (長期)				
		(11)		大学院インターンシップ(海外・長期)				
				ソフトウエア基礎特論				
				大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
専	准教授		平成29年4月					
				大学院輪講第一(皿)				
				大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				実システム創造				
		小宮 常康		基盤ソフトウェア特論				
		(48)		大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(IV)				
		_ ± ~ ~		並列処理論第二				
		三輪 忍		大学院輪講第一(I)				
		(39)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				入子が大式が自(IV) ネットワークアブリケーション特論				
		寺田 実		大学院輪講第一(I)				
		(58)		大学院輪講第一(I)				
		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
			_					
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
	i l			大学院実践演習 (IV)				
	1	· ·				ii	•	

				1	 		ı	,
		w., 44+44		キットワークコンピューティング特別 大学院輪講第一 (I)				
		Wu 策力木格 (37)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)				
		(37)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一(IV)				
専	准教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (Ⅳ)				
		*r ^> 11/2 *		データ工学原論 1				
		新谷 隆彦 (47)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
		(47)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一(IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (I)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(Ⅳ)				
		韓承鎬		情報伝送基礎 大学院輪講第一(I)				
		(41)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (III)				
専	准		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	准教授		十八人29十4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				回路システム基礎				
		西 一樹		大学院輪講第一(I)				
		(55)		大学院輪講第一 (II)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
			1 774-1 177	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				回路システム基礎				
		小島 年春		無線通信システム特論				
		(56)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅲ)				
4	/E7X JX		一次20千4万	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		石川 亮		集積回路設計特論 大学院輪講第一(I)				
1		ロバ 元 (43)		大学院輪講第一(I)				
1		·/		大学院輪講第一(Ⅲ)				
_	₩#L120		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
1				大学院実践演習 (IV)				
—				環境電磁工学特論				
1		萓野 良樹		大学院輪講第一(I)				
1		(38)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
1				大学院輪講第一 (Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
1				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
1				大学院実践演習(IV)				
				センシング工学特論				
1		高橋。弘太		大学院輪講第一(I)				
		(56)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
1				大学院輪講第一 (Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
1				大学院実践演習 (I)				
1				大学院実践演習 (Ⅱ)				
1				大学院実践演習 (Ⅲ)				
<u></u>				大学院実践演習 (IV)		 		

								,
				情報幾何学特論				
		鈴木 淳		大学院輪講第一(I)				
		(40)		大学院輪講第一 (II)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
				量子情報数理特論				
		小川 朋宏		大学院輪講第一(I)				
		(47)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(皿)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				+ #MP+ rb 98 24 33 (T)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				ディジタル信号処理基礎				
		鷲沢 嘉一		大学院輪講第一(I)				
		(37)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
1				大学院実践演習 (皿)	1	1	1]
1				大学院実践演習 (IV)	1	1	1]
1	1				 +	1		
1				伝送工学特論	1	1	1]
		安藤 芳晃		大学院輪講第一(I)				
		(44)		大学院輪講第一 (II)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
			1 774=- 1 177	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大字院美銭演官(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
				生体電磁工学特論				
		木寺 正平		大学院輪講第一(I)				
		(38)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
			1 774=- 1 177	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				非線形システム特論				
		田中 久陽		大学院輪講第一(I)				
		(50)		大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)	1	1	1]
1				大学院実践演習(I)	1	1	1]
1				大学院実践演習 (II)	1	1	1	
I					ĺ	Ì		
1				大学院実践演習(Ⅲ)	1	1	1	
1				大学院実践演習 (IV)	1	1	1	
1	 			音響システム特論	 +	1		
1		HZ++ ++ -			1	1	1	
1		野村 英之 (43)		大学院輪講第一(I)	1	1	1	
1		(43)		大学院輪講第一(Ⅱ)	1	1	1	
1				大学院輪講第一 (皿)	1	1	1	
	.,,			大学院輪講第一 (IV)	ĺ	1		
専	准教授		平成29年4月		1	1	1	
1				大学院実践演習(I)	1	1	1]
1				大学院実践演習 (II)	1	1	1	
1					1	1	1	
1				大学院実践演習 (Ⅲ)	1	1	1	
1				大学院実践演習 (IV)	1	1	1	
				実システム創造	1	1		
1		笠井 裕之		大学院インターンシップ	1	1	1	
1		고기 代化			1	1	1	
I		(45)		大学院インターンシップ (海外)	ĺ	1		
1				大学院インターンシップ (長期)	1	1	1	
1				大学院インターンシップ(高外・長期)	1	1	1]
1				データ解析最適化論	1	1	1	
1					1	1	1	
1			_	大学院輪講第一(I)	1	1	1	
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅱ)	1	1	1	
1					1	1	1]
1				大学院輪講第一(皿)	1	1	1	
1				大学院輪講第一 (IV)	1	1	1]
1				大学院実践演習(I)	1	1	1	
1					1	1	1	
1				大学院実践演習 (II)	1	1	1	
1				大学院実践演習(Ⅲ)	ĺ	1		
1						1	ĺ	1
		l		大学院実践演習 (IV)				

	_			1	1			1	
本記様					大学院輪講第一(I)				
平成29年			保木 邦仁		大学院輪講第一(Ⅱ)				
平成29年			(41)		大学院輪講第一(皿)				
東 生物が			(,						
本名の	専	准教授		平成29年4月					
大型									
本表的					大学院実践演習 (II)				
山崎 国					大学院実践演習 (Ⅲ)				
山崎 国					大学院実践演習 (IV)				
山崎 国	-								
平成29年4月 平成									
単元									
			(43)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	I _			T-100 - 1 -	大学院輪講第一 (IV)				
本意報 大田田 大田 大田 大田田 大田 大田田 大田田 大田田 大田田 大田田 大田田 大田	専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習 (1)				
京学									
東京									
安選 安一 (34)					大学院実践演習(皿)				
安定 安元					大学院実践演習 (IV)				
平成29年4月 平成29年1日 平成29年1日 平成29年1日 平成29年1日 平成29年1日 平成29年4月 平成29年1日 平成					大学院技術英語				
平成29年4月 平成29年1日 平成29年1日 平成29年1日 平成29年1日 平成29年1日 平成29年4月 平成29年1日 平成			安達 宏一		大学院国際プロジェクト				
本			(34)		大学院輪講第一(I)				
專 查包括 平成29年4月 大學經過報度(2) 大學經過期度(2) 大學經過期度(2) <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>大学院輪講第一(Ⅱ)</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>					大学院輪講第一(Ⅱ)				
本意理技術 (1)					大学院輪講第一(皿)				
中華	専	准教授		平成29年4月	大学院輪灣第一 (IV)				
中東 裕也 (57) 平成29年4月 下午平成29年1日 下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午下午	1								
中東 裕也									
# 本					大学院実践演習 (II)				
中東 名也 (57) 中成29年4月 大学時間第一 (1) 大学時間第一					大学院実践演習 (皿)				
伊東 裕也 (57)					大学院実践演習 (IV)				
伊東 裕也 (57)					信号解析学特論				
本物技術等			伊東 裕也						
平成29年4月 平成									
平成29年4月 平成			, ,		大学院輪講第一(皿)				
中	l .								
京学院東接京第(13 大学院東接京第(17 大学院東接京第(17 大学院東接京第(17 17 18 18 18 18 18 18	専	准教授		平成29年4月					
中 本教授									
本学院支援語言 (37) 中成29年4月					大学院実践演習(Ⅱ)				
本事 本数技					大学院実践演習 (皿)				
本					大学院実践演習 (IV)				
本									
専 連枚技			冨澤 一郎						
車 本教授					大学院輪講第一(Ⅱ)				
平成29年4月					大学院輪講第一(皿)				
平成29年4月	l			_ 500-4-	大学院輪灣第一 (IV)				
本学院実践清音 (3) 大学院実践清音 (3) 大学院実践清音 (3) 大学院実践清音 (3) 大学院実践清音 (3) 大学院表践清音 (1) 大学院展集第一 (1) 大学院展集第一 (3) 大学院展集第一 (4) 大学院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院	専	准教授		平成29年4月					
本教授									
本学院美麗清章 (IV)					大学院実践演習 (II)				
専 推教授					大学院実践演習 (皿)				
専 推教授					大学院実践演習 (IV)				
専 推教授					解析学基礎論				
専 准教授			石田 晴久						
車 連	1		(48)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
本					大学院輪講第一 (皿)				
本	1 _	·# +≠L 1==		T C C C C C C C C C C C C C C C C C C C					
大学院実践演習 (II)	専	准教授		平成29年4月					
本教授	1								
大学院実践演習 (IV)	1								
本教授 一本教授 下成29年4月 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院業議書 (II) 大学院業議書 (IV) 大学院業議書 (IV) 大学院業議書 (IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院輸講第一(IV) 大学院業議書 (II) 大学院業議書 (III) 大学院業議書 (IIII) 大学院業議書 (IIII) 大学院業議書 (IIII) 大学院業議書 (IIIII) 大学院業議書 (IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	1				大学院実践演習(Ⅲ)				
再	1				大学院実践演習 (IV)				
再					大学院輪講第一(I)				
専 推教授	1		石橋 功至						
専 本教授	1								
専 本教授 平成29年4月 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV) 大学院権講第 (IV) 大学院権講第 (II) 大学院権講第 (II) 大学院権講第 (II) 大学院権講第 (IV) 大学院報講第 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院主張 (IIII) 大学院主張 (III) 大学院主張 (IIII) 大学院主張 (IIIII) 大学院主	1		(37)						
中	亩	准教垺		平成20年4日	大学院輪講第一 (IV)				
大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV)	₹	/正 / 入] 又		1 2047月	大学院実践演習(I)				
大学院実践演習 (IV) 大学院実践演習 (IV)	1				大学院実践演習 (Ⅱ)				
大学院実践演習 (IV)	1								
小田 弘	1								
専 講師 小田 弘 (57) 大学院輪講第 (I) 大学院輪講第 (II) 大学院輪講第 (II) 大学院輪講第 (II) 大学院業践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院工作 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院工作 (II) 大学院主席 (II) 大学院主席 (II) 大学院工作 (II) 大学院主席 (II) 大学院工作 (II) 工作 (II)	1	 				$\sqcup \bot$			
専 (57) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院業践演習(I) 大学院業践演習(II) 大学院業践演習(II)	1		dom 27						
専 講師 平成29年4月 大学院輪講第 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	1		小世、弘						
専 講師 平成29年4月 大学院輪議第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	1		(57)						
・サ 計算 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)	1				大学院輪講第一 (III)				
大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)	毐	護師		平成29年4日	大学院輪講第一 (IV)				
大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)	4	DI-3 Cili		1 10020477	大学院実践演習(I)				
大学院実践演習 (III)	1								
	1								
— AMAD → Print District Distr	1								
	L				大学院実践演習 (Ⅳ)				

	-			[Wat /mat			1	I .	
		湯 素華		大学院技術英語 大学院輪講第一(I)					
		汤 系華 (41)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)					
		(41)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専具	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				大学院技術英語					
		関 新之助		大学院輪講第一(I)					
		(35)		大学院輪講第一(Ⅱ)					
				大学院輪講第一 (Ⅲ)					
専具	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
4 1	列狄		十八人23十4万	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
		KITCHWAN NATTADONO		大学院技術英語					
		KITSUWAN NATTAPONG (38)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)					
		(36)							
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
専り	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
-+				大学院輪講第一(I)					
		伊藤 毅志		大学院輪講第一(I)					
		(52)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専り	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
4	19J TX		1 /2/20 1/1	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				大学院輪講第一(I)					
		小野 哲		大学院輪講第一(II)					
		(34)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
, ,	-53.3%		1 75025 1 171	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				大学院輪講第一(I)					
		栗原 正純		大学院輪講第 一 (II)					
				大学院輪講第一(Ⅲ)					
		(51)							
専り	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
	.,,,,,		1 774-1 177	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)		1			
-+				大学院輪講第一(I)		1			
		小山 大介		大学院輪講第一(II)					
		(49)							
		(49)		大学院輪講第一(III)					
専り	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
1				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)		1			
				大学院実践演習 (IV)					
-+				大学院輪講第一(I)	+				
		宣播 田田		大学院輪講第一(I)					
		高橋 里司							
		(31)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
専り	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
	-91 TA		1 1220 - 77	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
1				大学院実践演習(皿)					
				/ 1 / / / / / / / / / / / / / / / / / /					
				大学院実践演習(IV)					
		:#D = ++		大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I)					
		津田 卓雄		大学院実践演習 (IV) 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II)					
		津田 卓雄 (36)		大学院実践演習 (IV) 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III)					
事 5	助数		亚成20年4日	大学院実践演習 (IV) 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II)					
専具	助教		平成29年4月	大学院実践演習 (IV) 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III)					
専具	助教		平成29年4月	大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)					
専具	助教		平成29年4月	大学院実践演習(IV) 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IIV) 大学院輸講第一(IV) 大学院東建演習(I) 大学院実践演習(II)					
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(IV) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV)					

				大学院輪講第一 (I)				
		中鹿 亘		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(31)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	功狄		十八人23十4万	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院輪講第一(I)				
		藤田 秀之		大学院輪講第一 (II)				
		(41)		大学院輪講第一 (III)				
				大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
兼担	教授	Jeffreys Atsuko M.	平成29年4月	大学院技術英語				
W 1E	拟汉	(55)	十八人23千4万					
44.15	بىد	新誠一	T-100 - 4 -	リアルタイム制御系設計基礎論				
兼担	教授	(62)	平成29年4月					
		柳井 参크		画像物件シュフェノ社会				
兼担	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論				
		(40)						
兼担	教授	柳澤正久	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論				
NV1	3212	(64)	1 10020 - 171					
** 10	+/_ 1.77	由良憲二	T-200 - 4 D	大学院総合コミュニケーション科学				
兼担	教授	(61)	平成29年4月					
		TE 117 15 AD						
兼担	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際科学技術コミュニケーション論				
		(36)						
兼担	教授	田野俊一	平成29年4月	IT最前線				
NV1=	3X1X	(58)	1 100 20 7 17 1	実システム創造				
***	#L177	梶浦 篤	亚 + 00 年 4 日	国際社会の政治・経済				
兼担	教授	(56)	平成29年4月					
		阿部 浩二		環太平洋圏の社会と文化				
兼担	教授	(60)	平成29年4月	東 太十井画の社会と大化				
		(00)						
兼担	教授	山田、裕一	平成29年4月	幾何学特論				
		(48)						
並 4口	新 ⁻	佐々木 啓子	亚成20年4日	教育学特論				
兼担	教授	(62)	平成29年4月					
1		安部 博文		ベンチャービジネス特論				
兼担	教授	(63)	平成29年4月	- / 、 C / 小八时间				
		\/				 	<u> </u>	
		1 88						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論				
		(52)						
兼担	教授	渡邊 昌良	平成29年4月	先端技術開発特論				
水担	拟技	(61)	一次23年4月					
				ETL(Elementary Teaching Laboratory)				
	-، بيد	米田 仁紀		Eff. (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験				
兼担	教授	(56)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールI				
				オーブンイノベーションスクール目				
1		₩ T Date						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験				
		(07)		心地:战小评战符测关额				
兼担	教授	田村、元紀	平成29年4月	データサイエンティスト特論				
사고	双汉	(61)	1 100447	データアントレブレナー実践論				
—								
** 15	#/L1	桂川 眞幸	T + 00 + 1 =	オープンイノベーションスクールI				
兼担	教授	(54)	平成29年4月	オーブンイノベーションスクール目				
<u></u>								

兼担	准教授	Lucantonio Damian (60)	平成29年4月	大学院技術英語			
兼担	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアセキュリティ特論			
兼担	准教授	小木曽 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計応用			
兼担	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	情報光工学特論			
兼担	准教授	松本 光春 (39)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト			
兼担	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造			
兼担	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造			
兼担	准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論			
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史			
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論			
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ERL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験			
兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ERL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験			
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクール: オープンイノベーションスクールミ			
兼担	准教授	CH00 Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I			
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論			
兼任	講師	荻野 長生 (62)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院集建演習(I) 大学院集建演習(I) 大学院集建演習(II) 大学院集建演習(II)			
兼任	講師	樫木 勘四郎 (63)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院集践演習(I) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(III)			
兼任	講師	田 光江 (57)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(III)			

							1	ı	,
				大学院輪講第一(I)					
		李 還幇		大学院輪講第一(Ⅱ)					
		(52)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
		(02)		大学院輪講第一(IV)					
兼任	講師		平成29年4月						
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				大学院輪講第一(I)					
		磯崎 隆司		大学院輪講第一(II)					
		(45)		大学院輪講第一 (III)					
*# /T	講師		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
水江	라마		十成23年4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習(IV)					
				大学院輪講第一(I)					
		末田 欣子		大学院輪講第一 (II)					
		(48)		大学院輪講第一 (皿)					
		, ,		大学院輪講第一 (IV)					
兼任	講師		平成29年4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習(Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				大学院輪講第一(I)					
		鈴木 一哉		大学院輪講第一 (II)					
		単サ バ							
		(44)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
兼任	講師		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
NK IT	HL2 H-II-		1 790.20 171	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (Ⅱ)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
				大学院輪講第一(I)	-+				
		++ 40-							
		本庄 利守		大学院輪講第一(II)					
		(43)		大学院輪講第一(Ⅲ)					
兼任	≘無台本		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)					
来江	講師		平成29年4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習(IV)					
				大学院輪講第一(I)					
		柳生 智彦		大学院輪講第一(Ⅱ)					
		(46)		大学院輪講第一 (Ⅲ)					
				大学院輪講第一 (IV)					
兼任	講師		平成29年4月	大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)					
				大学院実践演習 (Ⅲ)					
				大学院実践演習 (IV)					
兼仟	講師	HIGUCHI SONIA	平成29年4月	大学院技術英語					
-11/11	H. 7 H.I.	(48)	171	j					
					$-\!\!\!\!+$				
		名中 排炉		ヒューマンインタフェース特論					
兼任	講師	角田 博保 (66)	平成29年4月	・ションアンエーへ行編					
		(00)		j l					
—					-+				
**	=#- 4	尾内理紀夫		マルチメディアコンピューティング特論					
兼任	講師	(67)	平成29年4月						
		, ,		j					
兼 红	講師	大木 英司	平成29年4月	情報通信ネットワーク					
ᆥ	마유미비	(48)	一次49 十4月	j l					
					$\bot\!\!\!\bot$				
		- m.a - " '							
兼仟	講師	高野倉 雅人	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理					
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	HITHIP	(43)	1 120E0-L-11]	j					
					$-\!\!\!\!+$				
Ī		*= #=		ᄪᄼᆉᇫᆡᇫᆓ					
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理					
		(44)		j					
—				 	+				
		澤田 ゆかり		環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	(56)	平成29年4月						
Ī		(00)		j l					
				1	-+				
* /r	=誰かて	丹羽 泉	₩ # 00 / 4 P	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	(60)	平成29年4月	j l					
L				<u> </u>			 <u> </u>	<u></u>	

兼任	講師	長谷部 美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	李 孝徳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論			
<u> </u>							

兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論			

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <mark>認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任 教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」, 変更書を提出予定 の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 () 書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
26	18	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計画			現で	在(報告	書提出	時)の状況		現在(報告書提出時)の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講	師	助教	計	教授	ŧ)	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)	
34	32	1		15	82	32		37	1	11	81	32	37	1	11	81	
(32)	(37)	(1)		(11)	(81)							[△2]	[5]	[0]	[△4]	[△1]	
研究指導 員数		指導補 (員数		義のみ担 の教員数		研究指導数	拿教員	研究排 助教		講義のみ担 当の教員数		研究指導教 数	員 研究指導 教員		。 あみ担当の 教員数		
75		7		0		81)	0		81	0		0		
(81)		0)		(0)		01		Ì		<u> </u>		[6]	[△7		[0]		

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ③ 年齢構成

	年齢構成	
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時 (上 記(B))の教 員うち、定年を 延長して採用す る教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任	£辞退(未就	任)の理由				
			必修	〇〇概論	1							
1	教授	00 00) ◎◎ 選択 ◆◆基礎 ②のため就任辞退(27)									
			必修	☆☆演習	3							
2	准教授	Δ2		該当な	ぼし		のため就 集計 (B)	任辞退(29))			
京	优任を辞:	退した教員数	担当科目数の合言	† (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計	上数 (b)	③の合計	大数 (c)			
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目			
			選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目			
	00	λ	自由	〇〇 科目	自由 OO	科目自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目			
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計	〇〇 科目	計	〇〇 科目			

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」

 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予	定科目	後任補充	状況		辞任等の)理由		
			必修	00	概論	1						
1	教授	00 00	選択	**	基礎	2			・・・・・のため	辞任 (27)		
			必修	☆☆	演習	3						
2	准教授	ΔΔ		該	核当な	ぼし			…のため	D辞任 (29)		
	辞任し	した教員数	担当科目数の合詞	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)	②の合計	十数(b)	③の合計	数 (c)	
			必修	00	科目	必修	OO 科	Ⅱ 必修	〇〇 科目	必修	00	科目
			選択	00	科目	選択	OO 科	∄ 選択	〇〇 科目	選択	00	科目
	00	λ	自由	00	科目	自由	OO 科	目 自由	〇〇 科目	自由	00	科目
			計	00	科目	計	OO 科	目 計	00 科目	計	00	科目

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)							
辞任等した教	員数	担当科目数の食	合計 (a) + (b) + (c)	①の合計	十数(a)	②の合計	数(b)		③の合計数 (c)		
								00	科目	必修	〇〇 科目	
			該	当な	:1.			00	科目	選択	〇〇 科目	
00			H/\	. — •	•			00	科目	自由	〇〇 科目	
		計	00	科目	計	〇〇 科目	計	00	科目	計	〇〇 科目	

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区分	>	留意	事 項	等	履	行 划	: 況	未履行事項について の実施計画
設置時	ŧ			〇〇意見				
(00年00)	月)							
設置計画原								
調査				該当	なし			
設置計画腹行和 調 査	時			改善意見				
設置計画履行料 調 査 (●●年2月	時 科、●	学部等 ●学科)	が設置す (〇〇学 の~す	〇〇意見				

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - · 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

	設	置	時	の	計	画			変更内容	・ 状況,	今後の見	見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 124単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室							該当					科目(1科 象表」参照) 室、自習室を 、図書も〇〇冊
b 自習室〇室 c 図書〇〇冊)m)						増書した	o			

- (注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

- c 委員会の審議事項等
 - (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
 - (2) 学生授業評価の実施に関すること
 - (3) シラバス及び成績評価に関すること
 - (4) 教育環境の整備に関すること
 - (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育カ向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

0 1	设置計画履行状況報告書					
а	ホームページに公表の有無	(有		無)
b	公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士前期課程) 注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- ()書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

< 栈	幾械知能システム学専攻(博士前期課程)>	√ ∘	ージ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	12
4.	既設大学等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	13
5.	教員組織の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	15
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	27
7.	その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	28

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載して ください。
- (4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専 攻 長	クボキ タカシ 久保木 孝 (平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の		備考		
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	III 75
情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士前期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係理学関係	2年	105人	210人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

	報告年度	平成28年原	平成29年度	平均入学定員	備考
区	分	春季入学 その他の	学期 春季入学 その他の学	超過率	加 方
Α	入学定員	人 105 (-) [-]	人 人 / 105 (-) [-]		
	志願者数	145 1 (-) (- [8] [1	165) (1) (] [21] [)	
	受験者数	140 1 (-) (- [7] [1	155) (1) (] [16] [1. 02倍	
	合格者数	129 1 (-) (- [6] [1	126) (1) (] [10] [)	
į	B 入学者数	103 1 (-) (- [6] [1	112) (1) (] [9] [)	
7	【学定員超過率 B∕A	0.99	1.06		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、<u>計算の際は「入学定員超過率」と同様</u>にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	告年度 平成28年度		平成29年度		備考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
	103	1	112	1	
1 年次	[6]	[1]	[9]	[1]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	
			102		
2年次	/		[6]	()	
			(-)	()	
	10	04	2	15	
計	[7]	[16	6]	
	(-	-)	(-	-)	

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳))	主な退学理由	入学者数に 対する退学者数	
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)	
平成28年度	103 人	1 人	平成28年度	1人	0 人	•就職(1人)	0.97 %	
入学者	103 🔨		平成29年度	0 人	0 人		0.97 90	
平成29年度 入学者	113 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %	
合 計	216 人	1 人					0.46 %	

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士前期課程)>

(1) 授業科目表

					単位数	女		専任教員	員等の	配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准	講	助	助		備考
	E27			修	択	由	授	教 授	師	教	手		
		大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1					兼1	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1 名で対応(28)
		幾何学基礎論	1・2前		2		1						
		解析学基礎論	1・2前		2			1					
		代数学基礎論	1・2前		2			1					
		技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2							兼1	
		国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						
		日本とアジアの近代史	1・2後		2							兼1	
	大 学	科学技術の歴史	1・2後		2			1					
	院基礎教育	現代社会と倫理	1・2後		2		1					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	科目	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で 対応(28)
		幾何学特論	1・2後		2		1						
		解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		教育学特論	1・2後		2		1						
		大学院輪講第一 (I)	1・2前	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院	大学院輪講第一(Ⅱ) -	1・2後	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	輪講	大学院輪講第一(Ⅲ) 	1・2前	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
		大学院輪講第一(IV)	1・2後	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
	大学院技術 英語	大学院技術英語	1・2前	2			1 3	4 1				兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 4名、兼任教員1名で対応
		ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	1				兼4 兼6	兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任 教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない (29) より教育内容に即した担当教員への変更すると 共に兼任教員6名を追加(28)
		知的財産権特論	1・2後		2		1					兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8 名で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2通		2		2	2					
大学院実践	大学院産学連	大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任 准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授 1名で対応(28)
実践教育科	連携科目	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					A SAMPLED
目		国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1					兼3	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3 名で対応(28)
		経営実践特論	1・2前		1					1		兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2 名で対応(28)
		IT最前線	1・2後		2		1					兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1 名で対応(28)
		実システム創造	1・2後		2		1	4				兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 4名、兼任教員1名で対応(28)
		データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
		データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
		オープンイノベーションスクール I	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)

	△					単位数	Į.		専任教員	員等の	配置		
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
			オープンイノベーションスクール I	1・2前	修	択 1	由	授 	授 1	師	教	手	教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授
									1				1名で対応(28)
			大学院インターンシップ	1・2前		2		1					
			大学院インターンシップ (海外)	1・2前		2		1					
			大学院インターンシップ (長期)	1・2前		4		1					
			大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2前		4		1					
			大学院海外語学研修 I	1・2前		1			1				教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1				教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ) 大学院実践演習	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	1 1 1 1 4			25 22 25 22 25 22 25 22 25 22 21	15 18 15 18 15 18 15 18 16		9 10 9 10 9 10 9 10 9		大学院担当資格取得等のための変更 (29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分 割し、半期1単位4科目に変更 (28)
		専明	機械知能システム学専攻基礎	1・2前		2		2 1	1 2				より教育内容に即した担当教員へ変更(29) より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
		科目	熱工学基礎	1・2前		2		2 1	1				
			流体工学基礎 バイオメカニクス基礎	1・2前 1・2前		2 2		1 1					
			材料強度学基礎	1・2前 1・2前		2		1	1				
			生産加工学基礎	1・2前		2		1					
			計測工学基礎	1・2前		2		2 1	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(29)
			ロボット工学基礎	1・2前		2		1	1				教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 1名で対応(28)
	① 計		制御系設計学基礎	1・2前		2			1				古代教授の色相較迷のため、古代教授(女)と亦
大	測		センサ信号処理学特論	1・2後		2		1 2					専任教授の負担軽減のため、専任教授1名に変 更。なお、学生の教育に支障はない(29)
大学院	制御	専門	生体計測工学特論	1・2後		2		2 1	1				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
専門が	シス・	科目	ロバスト制御工学特論	1・2後		2		1	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
教育科	テムプ		組込み制御システム学特論	1・2後		2		1	1				
目	ノログ	<u>А</u>	リアルタイム制御系設計基礎論 制御系設計応用	1・2前 1・2後		4		1	1				
	ラム		知覚システム特論	1・2前		2			1				
			感覚運動システム特論 メカトロニクス特論	1・2前 1・2後		2		1	1				
			ロボット応用工学特論	1・2後		2		2	1				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
			ロボット機構制御特論	1・2後		2		1 2					
			運動計測学特論	1・2後		2			1				
		専	バーチャルリアリティ特論 コンピュータビジョン特論	1・2後 1・2後		2 2		2	1				
		門科1	ロボット情報工学特論	1・2後		2		2					
		目Ⅱ	設計システム工学特論 知的生産システム特論	1・2後 1・2後		2 2		1 1	1 4				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
		B	機械情報学特論	1・2後		2		1					
			力学系現象特論計算力学特論	1・2後 1・2後		2 2		1 1	1				
			ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1					
			Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2前		2		1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院国際協働学術研修 大学院国際協働学術研修(長期)	1・2前 1・2前			2 4	1 1					教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29)
_1	② 先		大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習(IV)	1・2前 1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	1 1 1 1 4		±	25 22 25 22 25 25 22 25	15 18 15 18 15 18 15		9 10 9 10 9 10 9		大学院担当資格取得等のための変更 (29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更 (28)
大学院専門	端ロボティ	専			4			22 21 2	18 16		9 10 9		より教育内容に即した担当教員へ変更(29)
教育	クス	9門科	機械知能システム学専攻基礎	1・2前		2		1 2	2 1				より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
科目	プロ	目 I	熱工学基礎 流体工学基礎	1・2前 1・2前		2 2		1 1					
	グラ		バイオメカニクス基礎	1・2前		2		1					
	ム		材料強度学基礎 生産加工学基礎	1・2前 1・2前		2 2		1	1				
			計測工学基礎	1・2前		2		2	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(29)
			ロボット工学基礎	1 • 2前		2		± 1	1				教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
			制御系設計学基礎	1・2前		2		1	1				- 3011 7日 70 70 70 70 70 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
I	1	1		1111	1		ı		1 ~	. 1		. !	; I

						単位数	t		専任教員	員等の	配置		
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
		1			修	択	由	授	授	師	教	手	-
			メカトロニクス特論	1・2後		2		2	1				
		専	ロボット応用工学特論	1・2後		2		1	1				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
		門科	ロボット機構制御特論	1・2後		2		2					
		日	運動計測学特論 バーチャルリアリティ特論	1・2後 1・2後		2 2			1				
			コンピュータビジョン特論	1・2後 1・2後		2		2	1				
		A	ロボット情報工学特論	1・2後		2		2					
			リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1					
			制御系設計応用	1・2後		4			1				
			設計システム工学特論	1・2後		2		1	1				
			知的生産システム特論	1・2後		2		1	1				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
			機械情報学特論力学系現象特論	1・2後 1・2後		2 2		1	1				
			計算力学特論	1・2後		2		1	1				
		門科	ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1					
		目	センサ信号処理学特論	1・2後		2		1					専任教員の負担軽減のため、専任教員1名に変
		Π	- 1 / 1	1 20				2					更。なお、学生の教育に支障はない(29)
		В	生体計測工学特論	1・2後		2		2 1	1				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
			ロバスト制御工学特論	1・2後		2	Ī	1	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
			組込み制御システム学特論	1・2後 1・2後		2		1	1				あり秋月17日に即した担当教具个変史(20)
			知覚システム特論	1・2仮 1・2前		2	Ī	1	1				
			感覚運動システム特論	1・2前		2	Ī	1	Ī				
			Advanced Robotics and Mechatronics	1・2前		2		1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
			Engineering 大学院国際協働学術研修	1・2前			2	1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院国際協働学術研修(長期)	1・2前 1・2前			4	1					教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29)
			A TOTAL MARKET MARKET (XAM)	1 200			1	25	15		9		ANTITUDA VICES (ATTACEMACE)
								22 25	18		10		
			大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ)	1・2前 1・2後	1			22	15 18		9 10		大学院担当資格取得等のための変更(29)
			大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)	1・2前 1・2後	1			25 22	15 18		9		教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)
			大学院実践演習	1・2後 1・2通	1 4			25 22	18 15		10 9		割し、干期1単位4件日に変更(28)
								22 21	18 16		10 Q		
								2	1				
			機械知能システム学専攻基礎	1•2前		2		1	2				より教育内容に即した担当教員へ変更(29) より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
		門科	atch NC atcounts					2	1				6 7 W H 1 1 1 (CAP O TELL 1 1 W A X X X 1 1 0)
		目	熱工学基礎	1・2前		2		1					
		Ι	流体工学基礎	1・2前		2		1					
			バイオメカニクス基礎	1・2前		2		1					
			材料強度学基礎	1・2前		2			1				
			生産加工学基礎	1•2前		2		1					
			計測工学基礎	1・2前		2		2 1	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(29)
			ロボット工学基礎	1・2前		2		1	1				教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
								-					(H. 1919)
	3	-	制御系設計学基礎	1・2前		2			1				
大	機械		設計システム工学特論	1・2後		2		1	1				
学院	シ	専	知的生産システム特論	1・2後		2		1	4				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
専門	ステ		機械情報学特論	1・2後		2	Ī	1	Ī				
教	ムプ	目	力学系現象特論	1・2後		2	Ī	1	1				
育科	ノロゲ	II	計算力学特論	1・2後		2	Ī	1	Ī				
目	グラ	A	ナノトライボロジー特論	1・2後		2	Ī	1	Ī				
	4		リアルタイム制御系設計基礎論	1•2前		4	Ī	1	Ī				
			制御系設計応用	1・2後		4	Ī		1				
			メカトロニクス特論	1・2後		2			1				
			ロボット応用工学特論	1・2後		2		2	1				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
			ロボット機構制御特論	1・2後		2		1 2					
			運動計測学特論	1・2後		2	Ī		1				
			バーチャルリアリティ特論	1・2後		2	Ī		1				
		専門	コンピュータビジョン特論	1・2後		2	Ī	2	*				
			ロボット情報工学特論	1・2後 1・2後			Ī		Ī				
		目				2		2					専任教員の負担軽減のため、専任教員1名に変
		$\overline{}$	センサ信号処理学特論	1・2後		2		2					更。なお、学生の教育に支障はない(29)
		В	生体計測工学特論	1.0%		0		2	,				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
			工件可例工子附調	1・2後		2		1	1				号は唯教反の弁仕に伴い、教佼2名に发更(29)
			ロバスト制御工学特論	1・2後		2	Ī	1	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
			組込み制御システム学特論	1・2後		2		1	1				5. 7. 9. 9. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
						2	Ī	1	_				
			知覚システム特論	1・2前			Ī	4	1				
			感覚運動システム特論	1・2前		2	Ī	1	Ī				
			Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2前		2	Ī	1	Ī				教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院国際協働学術研修	1・2前			2	1	Ī				教育内容充実のため、科目を追加(29)
			大学院国際協働学術研修(長期)	1・2前			4	1					教育内容充実のため、科目を追加(29)

				単位数	ζ		専任教員	員等の	配置		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
			修	択	由	授	授	師	教	手	

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て (兼任, 兼担教員が担当する科目を含む。) を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	状	況					備		考		
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択	自	由		計			1/用		75		
	科目		科目		科目		科目		科目		科目		科目		科目	1						
	8		120		0)	128		17		127		(6	150)						
								[9]	[7]	[6]	[22]							

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単(位	数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,	代替措置の有無
1									
2					該当	<i>+</i> >1			
3					祕二	なし			

- (注) · 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分				Þ	4						容				備考
(1)		区	分		専	用		共	用			用する '校等の			Ē	t		
校		校舎	計敷 地	<u>t</u>		115, 430	3 m²		0	m²			0	m [®]		115, 4	33 m²	
TX.		運動	場用地	}		38, 187	7 m²		0	m [*]			0	mi		38, 1	87 m ²	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	-		153, 620) m [‡]		0	m²			0	m [*]		153, 6	20 m²	
等		そ	の他	ļ.		34, 685	m [*]		0	m [‡]			0	m ²		34, 6	85 m [*]	
		合	計	-		188, 305	m		0	m²		· 四 + 7		m [®]		188, 3	05 m ²	
				-	専	用		共	用			用する校等の			Ē.	 		
(2) 校	:		舎			90, 163	3 m ²		0	m²			0	m [*]		90, 1	63 m ²	
					(90, 163		(0m²)		(0m²)	(0, 163		
(a) #F		_		講	義室	7	宝 習	室	実験	実習室		情報处	1理学習		語学等	学習施		
(3) 教		室	等		(0室		5室		7:	3室	/ + 	THE .	2室	±- 1		0室	
						立亡≒几	当如生	の夕折				(補助	室	人) (補助職	. 貝	人)	
(4) 専	任教	員研究	室		情報理工	学研究科		知能シス	ステム学専:	攻			<u>業</u> 7	n	数			
				3	图 書		士前期 学術雑						,					
(5)	亲	新設学 音			- 1 ち外国書〕		・ハー うち外国		電子ジ	ャーナル	L	視聴覚	資料	機械・器	具	標	本	
		の名称	小			⊞		種		小国書〕			点		点		点	
図	情報	します。 機械を	学研究の能がな	315, 01	8 [109, 39	4) 8,8	87 [6,	091]	3, 899 [[3, 889]		2, 8	96	0		0		大学全体
書•	テム学	漢字文 学専攻 か期課利	(博士	(315, 01	8 [109, 394	(8, 8	87 [6,	091])	(3, 899 [[3, 889])	(2, 8	96)	(0)		(0))	
設 備		計		315, 01	8 [109, 39	4) 8,8	87 [6,	091]	3, 899 [[3, 889]		2, 8	96	0		0		
		āl		(315, 01	8 [109, 394	(8, 8	87 [6,	091])	(3, 899 [[3, 889])	(2, 8	196)	(0)		(0))	
(6) 図		書	館		面	積			閲覧』	座 席 数	女		収	納可	能	₩	数	
							7, 323 m	า้				621				36	8, 000	大学全体
(7) 体	:	育	館		面	積		夕庭川、	電動場 (味					設の概要	7 - 1	4 क	7	
		1							運動場(陸」 −場)、プ−		小競技							大学全体
		経費	<u> </u>		分	開設年		完成年月				開設前		開設年		完成年		
(8) 経費の		積り			研究費等		千円			購入費			刊		F/ 		千円	
積り及 維持方	び i法				7. 費 等 		千円	1		購入費		· ·	千円		千円	5 C F	千円 	
の概	要	学生 1 り 納付			1 年次 	第23	+次 千円	-	3年次 ———— 千円		4年	· 次 千円		5 年次 ———— 千円		第6年	火 —— 千円	
				い外の約	推持方法の	概要	T I	1	干鬥			十円		一			77	
		子 注:	MJ 17 立立。	レスフトUJボ	性付力法の	1以女												

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信	大	学									備	•	考
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編定	学員	収定	容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開年	設度	所	在	地			
	年		人	2	年次		人		倍								
情報理工学域					人												
I 類(情報系)	4		210	3年 (·次)		858	学士 ^(工学)	1. 04	平成	28年度		布市調 5 番地	間布ヶ丘1 也1号	一般入 程) で	は学	域全体
Ⅱ類(融合系)	4		245		次 0		1000	学士 ^(工学)	1. 04	平成	28年度		同上		の大括用して	おり	、入学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年 1	次 0		960	学士 ^(工学)	1. 04	平成	28年度		同上	•	定員超	を集	計する
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30		·次 }		126	学士	1. 03	平成	28年度		同上		ことが め、I 型類を た状況	類、 まと	Ⅱ類、 め上げ
情報理工学部															いる。		
総合情報学科	4		-	-	-		-	学士 (工学)	-	平成	22年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		停止		生募集
情報・通信工学科	4		-	-	-		-	学士 ^(工学)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年亨	生募集
知能機械工学科	4		-	-	-		_	学士 ^(工学)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年学	生募集
先進理工学科	4		_	-	-		_	学士 ^(工学)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年学	生募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		-	-	-		_	学士 (エ学)	-	平成	22年度		同上			年学	生募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)								<i>1</i> — 1									
情報学専攻	2		110	-	-		220	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 19	平成	28年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地				
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-	_		300	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 13	平成2	28年度		同上				
機械知能システム 学専攻	2		105	-	-		210	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 02	平成	28年度		同上				
基盤理工学専攻	2		135	-	-		270	修士 (工学)(理学) (学術)	0. 94	平成	28年度		同上				
総合情報学専攻	2		-	-	-		-	修士 ^{(工学) (理学)} (学術)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年学	生募集
情報・通信工学 専攻	2		-	-	-		-	修士 (工学) (理学) (学術)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年学	生募集
知能機械工学専攻	2		-	-	-		-	修士 (工学)(理学) (学術)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年学	生募集
先進理工学専攻	2		-	-	-		-	修士 (工学)(理学) (学術)	-	平成	22年度		同上		平成28 停止	年学	生募集

情報理工学研究科									
(博士後期課程) 情報学専攻	3	13	_	39	博士	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク	3	18	-	54	(学術) 博士 (工学)(理学)		平成28年度	月5番地 1 号 	
工学専攻 機械知能システム	3	12	_		(学術) 博士 (工学)(理学)		平成28年度	同上	
学専攻					(学術) 苗 十				
基盤理工学専攻	3	16	-	48	(工学)(理学) (学術)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	_	_	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	_	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	_	-	-	修士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	_	博士	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	_	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	— 平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部,学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について,それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合,<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし,</u> <u>「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。</u>

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士前期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時	の計画					変	更	状 況			
専任・					専任・								
兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)	就	t任予定年月	担当授業科目名	備	考
		青山 尚之 (58)		大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (英期) 大学院インターンシップ (海外・美期) ロボット応用工学特論									
再	教授		平成29年4月	大学院国際協學等係研修 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									
専	教授	宮脇 陽一 (43)	平成29年4月	大学院東路演習 (I) 大学院報題與中部日本 (AE) 計測工学基礎 大学院輪講第 - (I) 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (IV) 大学院輪講第 - (IV) 大学院東建演習 (I) 大学院東建演習 (II) 大学院東建演習 (II)									
専	教授	大川 富雄 (51)	平成29年4月	熱工学基礎 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II)									
専	教授	前川 博 (64)	平成29年4月	流体工学基礎 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									
專	教授	久保木 孝 (52)	平成29年4月	生産加工学基礎 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院集践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									
專	教授	桐本 哲郎 (63)	平成29年4月	計測工学基礎 センサ信号処理学特論 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院集践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)									

					 		ı	
				ロボット工学基礎				
		明愛国		大学院輪講第一(I)				
		(54)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
-				生体計測工学特論				
		小池 卓二		大学院輪講第一(I)				
		(50)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(00)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一(IV)				
専	教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				生体計測工学特論				
		正本 和人		大学院輪講第一(I)				
		(42)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
-47	3X1X		1 13220 17]	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		金子 修		ロバスト制御工学特論 大学院輪講第一(I)				
		亚丁 (47)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(47)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一(IV)				
専	教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		*r =-b		組込み制御システム学特論				
		新誠一		リアルタイム制御系設計基礎論				
		(60)						
		(62)		大学院輪講第一(I)				
		(62)		大学院輪講第一 (Ⅱ)				
	サ 1空	(62)	亚成20年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III)				
専	教授	(62)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)				
専	教授	(62)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)				
専	教授	(62)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV)				
専	教授	(62)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)				
専	教授	(62)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚運動システム特論				
専	教授	阪口 豊	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚重要システム特績 大学院輔講第一(I)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚重動システム特論 大学院輔講第一(II)				
専	教授	阪口 豊	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II)				
専		阪口 豊		大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚重動システム特論 大学院輔講第一(II)				
	教授教授	阪口 豊	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院輸講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II)				
		阪口 豊		大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚運動システム特論 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(III)				
		阪口 豊		大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚運動システム特論 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV)				
		阪口 豊		大学院輸講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚運動システム特線 大学院輸講第一(II) 大学院報講第一(II) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III)				
		阪口 豊		大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(IV) 感覚運動システム特論 大学院輸講第一(II) 大学院職講第一(II) 大学院職講第一(III) 大学院職講第一(IV) 大学院職講第一(IV) 大学院職講第一(IV) 大学院集隆演習(II) 大学院集隆演習(III)				
		阪口 豊 (53)		大学院輪講第 - (I) 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (IV) 感覚運動システム特論 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (IV) 大学院東陸演習 (II) 大学院東陸演習 (II) 大学院東陸演習 (II)				
		版口 (53) 内田 雅文		大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(II) 大学院東陸演習(IV) 感覚運動システム特論 大学院輸講第一(II) 大学院職講第一(II) 大学院職講第一(III) 大学院職講第一(IV) 大学院職講第一(IV) 大学院職講第一(IV) 大学院集隆演習(II) 大学院集隆演習(III)				
		阪口 豊 (53)		大学院輪請第一(II) 大学院報請第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV) 感覚運動システム特論 大学院輪請第一(II) 大学院輪請第一(II) 大学院輪請第一(III) 大学院報議第一(IV) 大学院報議第一(IV) 大学院報議第一(IV) 大学院報議第一(IV) 大学院報議第回(II) 大学院報議第回(II) 大学院報議第回(II)				
専	教授	版口 (53) 内田 雅文	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 泰変運動システム特論 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院輪講第一(II)				
		版口 (53) 内田 雅文		大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院報講第第 (III) 大学院報講第第 (III) 大学院報講第第 (III) 大学院報講第第 (IIII) 大学院輔講第第 (IIII) 大学院輔講第第 (IIII				
専	教授	版口 (53) 内田 雅文	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院表践演習『(II) 大学院報講第第一(III) 大学院報講第第一(III) 大学院報講第第一(III) 大学院報講第第一(IIII) 大学院報講第第一(IIII) 大学院報講第第一(IIII				
専	教授	版口 (53) 内田 雅文	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(III) 大学院報講第一(IIII) 大学院報講第一(IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII				
専	教授	版口 (53) 内田 雅文	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院報講第一(II) 大学院報講第一(III) 大学院報講第 (III) 大学院実践演演習(III) 大学院報講第 (III) 大学院報講				
専	教授	版口 (53) 内田 雅文	平成29年4月	大学院輸講第一(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習 (IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院報講第一(IV) 大学院集践漢習(II) 大学院集践漢習(II) 大学院集践漢習(II)				
専	教授	阪口 (53) 内田 取文 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II) 大学院報講第一(II) 大学院報號演第一(II) 大学院集践演第 (II) 大学院集践演第 (II) 大学院集践演第 (II) 大学院集践演第 (II) 大学院集践演第 (II) 大学院籍輪講第 (II) 大学院籍輪講第 (II) 大学院籍輪講第 (II) 大学院籍輪講第 (II) 大学院報輪講第 (II) 大学院集践演第 (II) 大学院集践演				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院報請第一(IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第四 (II) 大学院報請第第四 (II) 大学院報請第第四 (II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院課題演習 (II) 大学院報請第第一(II) 大学院課題演習 (II) 大学院課題演選 (II) 大学院課題演選 (II) 大学院課題 (II) 大学院課題 (II)				
専	教授	阪口 (53) 内田 取文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院報請第第一(II) 大学院課該演習 (II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第 (III) 大学院報請第第 (III) 大学院報請第第 (III) 大学院報請第第 (III) 大学院報請第第 (III) 大学院報請第第 (III)				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第 (I) 大学院実践演習 (I) 大学院報請第 (I) 大学院報請第 (I) 大学院輪請第 (I) 大学院輪請第 (I) 大学院輪請第 (I) 大学院報請第 (I) 大学院報請第 (I) 大学院報請第 (I) 大学院表述 (I) 大学院報請第 (I) 大学院報請第 (I) 大学院報請第 (I) 大学院報請第 (II) 大学院轉載請第 (II) 大学院轉載請第 (II) 大学院轉載請第 (II) 大学院轉載請第 (II) 大学院轉載請第 (II)				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院輪請第一(IV) 大学院実践漢書 (II) 大学院実践漢書 (II) 大学院実践漢書 (II) 大学院実践漢書 (IV) 「原文理輪請第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院輪請第第一(IV) 大学院轉議該漢書 (III) 大学院輪請第第一(IV) 大学院轉議該第				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院報請第一(IV) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(IV) 口ボツ院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(IIII) 大学院報請請第一(IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院報請第一(IV) 大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「「「「「「「「「「「」」」 「「「「「」」 「「「「「」」 「「「「「「				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院報請第一(IV) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院実践漢言 (I) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(IV) 口ボツ院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(IV) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(II) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(III) 大学院報請第第一(IIII) 大学院報請請第一(IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII				
専	教授	版口 豊 (53) 内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院輪請第一(II) 大学院報請第一(IV) 大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院実践漢第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「大学院報請第第 (IV) 「「「「「「「「「「「」」」 「「「「「」」 「「「「「」」 「「「「「「				

								,	
		144.11		ロボット機構制御特論		ŀ		ļ	
		横井 浩史		大学院輪講第一(I)		ŀ		ļ	
		(53)		大学院輪講第一(Ⅱ)		ŀ		ļ	
				大学院輪講第一(Ⅲ)		ŀ		ļ	
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)		ŀ		ļ	
4	1 入1又		十九25千7万	大学院実践演習(I)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習 (II)		ŀ		ļ	
						ŀ		ļ	
				大学院実践演習 (Ⅲ)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習 (IV)				!	
				コンピュータビジョン特論					
		金子 正秀		ロボット情報工学特論		ŀ		ļ	
		(63)		大学院輪講第一(I)		ŀ		ļ	
				大学院輪講第一(Ⅱ)		ŀ		ļ	
				大学院輪講第一(Ⅲ)		ŀ		ļ	
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)		ŀ		ļ	
l -						ŀ		ļ	
				大学院実践演習(I)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(Ⅱ)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(Ⅲ)				!	
				大学院実践演習 (IV)				!	
				コンピュータビジョン特論					
		長井 隆行		ロボット情報工学特論		ŀ		ļ	
		(47)		大学院輪講第一(I)		ŀ		ļ	
		(,		大学院輪講第一(Ⅱ)		ŀ		ļ	
				大学院輪講第一(Ⅲ)		ŀ		ļ	
専	教授		平成29年4月						
4	7人1文		〒 %∠३+4月	大学院輪講第一 (IV)					
				大学院実践演習(I)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(Ⅱ)					
				大学院実践演習(Ⅲ)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習 (IV)		ŀ		ļ	
				設計システム工学特論	\vdash				
		増田 宏		改計システム工学特舗 大学院輪講第一(I)				ļ	
		155) (55)		大学院輪講第一(I)		ŀ		ļ	
		(33)		大学院輪講第一(Ⅲ)		ŀ		ļ	
						ŀ		ļ	
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(I)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(Ⅱ)				ļ	
				大学院実践演習(Ⅲ)				ļ	
				大学院実践演習 (IV)		ŀ		ļ	
				知的生産システム特論	$\vdash \vdash$				
		森重 功一		対的生産システム特舗 大学院輪講第一(I)		ŀ		ļ	
		林里 切一 (47)		大学院輪講第一(I)		ŀ		ļ	
		(47)				ŀ		ļ	
				大学院輪講第一(Ⅲ)		ŀ		ļ	
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(I)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習 (Ⅱ)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習(Ⅲ)		ŀ		ļ	
				大学院実践演習 (IV)		ŀ		ļ	
					$\vdash \vdash$				
		宮嵜 武		力学系現象特論 大学院輪講第一(I)					
		呂市 氏 (61)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)		ļ			
		(01)		大学院輪講第一(Ⅱ)		ļ			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)		ļ			
				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習(Ⅱ)		ļ			
				大学院実践演習 (III)		ļ			
				大学院実践演習 (IV)					
					$\vdash \vdash$				
		新谷 一人		計算力学特論 大学院輪講第一(I)					
		新谷 一人 (64)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)		ļ			
		(04)							
				大学院輪講第一(Ⅲ)		ļ			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)		ļ			
l "				大学院実践演習(I)					
				大学院実践演習 (II)		ļ			
				大学院実践演習(皿)					
						ļ			
				大学院実践演習(IV)	igsquare				
				大学院輪講第一(I)					
		稲葉 敬之		大学院輪講第一(Ⅱ)					
		(60)		大学院輪講第一(Ⅲ)		ļ			
		(00)		大学院輪講第一 (IV)		ļ			
#	教授		平成29年4月						
専				大学院実践演習(I)	1				
帯	7717								
- 特	77.7			大学院実践演習 (I)	, ,	l		ļ	
中	7/12			大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ)					
特 	7212								

							ľ	T
		四十 每		機械知能システム学専攻基礎				
		田中 繁 (59)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
		(39)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				バイオメカニクス基礎				
		岡田 英孝		大学院輪講第一(I)				
		(48)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				機械情報学特論				
		高田。昌之		大学院輪講第一(I)				
		(58)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院技術英語				
		千葉 一永		大学院輪講第一(I)				
		(40)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院技術英語				
		田中、基康		大学院輪講第一(I)				
		(34)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(皿)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習 (I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院技術英語				
		Matuttis Hans-Georg		力学系現象特論				
		(50)		大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(Ⅲ)				
4	准狄按		一次23年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ)				
1				大学院実践演習(I)				
1				大学院実践演習 (II)				
1				大学院実践演習 (皿)				
<u></u>				大学院実践演習 (IV)		 		
				機械知能システム学専攻基礎		 		
1		菅 哲朗		大学院輪講第一(I)				
1		(38)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (皿)				
				大学院実践演習 (IV)		 		
		10.41		材料強度学基礎				
		松村 隆		大学院輪講第一(I)				
		(53)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習 (I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
1				大学院実践演習 (IV)				
-							•	

		,		1			ı	
				ロボット工学基礎				
		小泉 憲裕		大学院輪講第一(I)				
		(41)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
**	在扒区		十八人20千十八	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				制御系設計学基礎				
		小木曽 公尚		制御系設計応用				
		(41)		大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				知覚システム特論				
		佐藤 俊治		太学院輪講第一(I)				
		(44)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(44)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		企本 共 士		メカトロニクス特論				
		金森 哉吏 (52)		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)				
		(32)						
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (III)				
				大学院実践演習 (IV)				
		++		パーチャルリアリティ特論				
		杉 正夫 (42)		大学院輪講第一(I)				
		(42)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ)				
.,			1 774=- 1 177	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
		4+1-b '-		設計システム工学特論				
		結城 宏信		大学院輪講第一(I)				
		(50)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
7	· F 1×1×		1 122477	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (Ⅳ)				
			- 	大学院技術英語		 		
		姜 銀来		大学院輪講第一(I)				
		(37)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一 (Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	准叙技		下水43千4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				組込み制御システム学特論				
		澤田 賢治		大学院輪講第一(I)				
		(35)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
	1			大学院輪講第一 (IV)				
	.,,							
専	准教授		平成29年4月	+ AMPO 00 00 WITH / - 1			i	
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II)				
専	准教授		平成29年4月					
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習 (Ⅱ)				

				I.=			1	
		++ Al		運動計測学特論				
		安藤 創一		大学院輪講第一(I)				
		(42)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	准拟汉		一次23千4万	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(Ⅳ)				
				大学院輪講第一(I)				
		総点 公田フ						
		饗庭 絵里子		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(36)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
			T-100 - 1 -	大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(Ⅳ)				
				大学院輪講第一(I)				
		41.m 24						
		秋田 学		大学院輪講第一 (II)				
		(36)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
	-1.10			大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院輪講第一(I)	- 1			
		# ** #						
		井上 洋平		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(37)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
	·		T-100 - 1 -	大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院輪講第一(I)	1			
		榎木 光治		大学院輪講第一(II)				
		(36)		大学院輪講第一(皿)				
専	D++ #/-		亚出20年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院輪講第一(I)				
		梶川 翔平		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(28)		大学院輪講第一 (III)				
		(20)						
専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
-7	27.17		1 /2020 171	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(皿)				
				大学院実践演習(IV)				
	\vdash							
				大学院輪講第一(I)				
		孫 光鎬		大学院輪講第一 (II)				
		(34)		大学院輪講第一 (皿)				
				大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
	 			大学院輪講第一(I)				
		東郷 俊太		大学院輪講第一 (II)				
		(31)		大学院輪講第一 (皿)				
	l			大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (皿)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院輪講第一(I)	+			
		中村 友昭		大学院輪講第一 (II)				
		(32)		大学院輪講第一 (皿)				
	l			大学院輪講第一 (IV)				
専	助教		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
							I	İ
				大学院実践演習(Ⅳ)	J			

		*** ×		大学院輪講第一(I)				
		舩戸 徹郎 (37)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	助教	\-·/	平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	1917		十,%20十十万	大学院実践演習(I) 大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(IV)				
兼担	教授	奥 浩昭	平成29年4月	大学院技術英語				
水垣	スズ	(62)	1 1%44十十万					
		佐々木 成朗		ナノトライボロジー特論				
兼担	教授	(49)	平成29年4月					
兼担	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	大学院総合コミュニケーション科学				
兼担	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際科学技術コミュニケーション論				
		(56)						
兼担	教授	田野 俊一	平成29年4月	IT最前線				
水垣	7人1又	(58)	1 1944年4月	実システム創造				
·-	#/ I-	山口 耕平		幾何学基礎論				
兼担	教授	(62)	平成29年4月	75 FT 1 25 NC IIII				
		担法 佐						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済				
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
		(00)						
兼担	教授	山田、裕一	平成29年4月	幾何学特論				
NIC 3	200	(48)	1 //0=0 1 .//					
** 10	+/_1==	久藤 衡介	T-200-1-1	解析学特論				
兼担	教授	(44)	平成29年4月					
		佐々木 啓子		教育学特論				
兼担	教授	(62)	平成29年4月	双月子 何酬				
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論				
		(02)						
兼担	教授	渡邊 昌良	平成29年4月	先端技術開発特論				
		(61)						
兼担	教授	米田 仁紀	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験				
水担	拟坟	(56)	一 /X43 年 4月	オーブンイノベーションスクール! オーブンイノベーションスクール!!				
	te: 1	鈴木 勝	_ n	ETL(Elementary Teaching Laboratory)				
兼担	教授	(57)	平成29年4月	危機・限界体験特別実験				
		74 E +2						
兼担	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト				
兼担	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト				
		(74/						
兼担	教授	田村 元紀	平成29年4月	データサイエンティスト特論				
		(61)	1 .//	データアントレブレナー実践論				
** +ID	学さ	桂川 眞幸	亚라20左4묘	オーブンイノベーションスクールI				
兼担	教授	(54)	平成29年4月	オーブンイノベーションスクールE				
]			ļ	

教授	樋口 幸治 (65)	平成29年4月	組込み制御システム学特論						
准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造						
准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造						
准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	解析学基礎論						
准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論						
准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ERL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験						
准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ERL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・服界体験特別実験						
准教授	安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造						
准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造						
准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノペーションスクール! オープンイノペーションスクールミ						
准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I						
助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						
講師	小峯 一晃 (49)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)						
			大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						
講師	松井 恵美子 (46)	平成29年4月	大学院技術英語						
講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
	that the the the the the the the the the th	# 数 授 (65) # 数 授 (65) # 数 授 (65) # 数 授 (49) # 数 授 (48) # 数 授 (49) # 数 授 (48) # 数 授 (49) # 数 授 (48) # 数 授 (49) # 数 成 (49) # 数	#教授 (65)	# 後数授	# 数段 (65)	# 表	# 数数	# (65)	### (45)

兼任	講師	長谷部 美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論					
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論					
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論					
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論					
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論					
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論					
				1	i		l	1	1

兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論			

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、 変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、 及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <mark>認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任 教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」, 変更書を提出予定 の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 () 書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
19	13	3
名	名	名

(注)・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計画			現在(報行	古書提出	時)の状況		現在	(報告書提出	時)の完成	ば年度時の計	·画
教 授	准教授	講	師	助教	計	教 授	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)
20	17	0		10	47	25	14	0	9	48	25	14	0	9	48
(25)	(14)	(0)		(9)	(48)						[5]	[△3]	[0]	[∆1]	[1]
研究指導 員数		指導補 (員数		義のみ担 の教員数		研究指導 数			講義のみ担 当の教員数		研究指導教員 数	員 研究指導 教員		のみ担当の 教員数	
44		3		0		48		0	0		48	0		0	
(48)		0)		(0)		10		•	Ţ		[4]	[△3]	[0]	

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ③ 年齢構成

	年齢構成	
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任	E辞退(未就	任)の理由				
			必修	1								
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2		のため就	任辞退 (27))			
			必修	☆☆演習	3							
2												
京	优任を辞	退した教員数	担当科目数の合言	+ (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計	·数 (b)	③の合計	十数 (c)			
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目			
	00		選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目			
	00	Α	自由	〇〇 科目	自由 〇〇	科目 自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目			
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計	〇〇 科目	計	〇〇 科目			

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」

 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予	定科目	後任補充	状況		辞任等(り理由			
			必修	00	概論	1							
1	教授	00 00	選択	**	基礎	2		のため辞任 (27)					
			必修	☆☆	演習	3							
2	准教授	ΔΔ		該	核当な	ぼし			…のたる	か辞任 (29)			
	辞任し	した教員数	担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)	②の合計	数 (b)	③の合計	数 (c)		
			必修	00	科目	必修	00 科目	必修	OO 科E	必修	00	科目	
			選択	00	科目	選択	00 科目	選択	OO 科E	選択	00	科目	
	00	Α	自由	00	科目	自由	00 科目	自由	OO 科E	自由	00	科目	
			計	00	科目	計	00 科目	計	00 科目	計	00	科目	

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A	後任補充状況の集計(B)+(D)									
辞任等した教	員数	担当科目数の食	合計 (a) + (①の合計	十数(a)	②の合計	数(b)		③の合計数 (c)		
											〇〇 科目
			該	当な	:1.			00	科目	選択	〇〇 科目
00	00 12-6-0							00	科目	自由	〇〇 科目
		計	00	科目	計	〇〇 科目	計	00	科目	計	〇〇 科目

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	等	履	行丬	伏 況	未履行事項について の実施計画
設置時		〇〇意見				
(〇〇年〇〇月)						
設置計画						
調 査 (△△年 ———		該当	なし			
設置計画復行认况 調 査 時 (口口年2月)		改善意見				
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	ス四記学如生 (〇〇学	〇〇意見				

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>) と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、<u>報告年度を(</u>) <u>書き</u>で付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - · 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士前期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例)	
① 修了要件単位	科目(1科
1 2 4 単位	また。 第表」参照) 1なし
② 施設・設備	室、自習室を
a 講義室〇室	,図書も〇〇冊
b 自習室〇室(Om)	増書した。
c 図書〇〇冊	

- (注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

- c 委員会の審議事項等
 - (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
 - (2) 学生授業評価の実施に関すること
 - (3) シラバス及び成績評価に関すること
 - (4) 教育環境の整備に関すること
 - (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、 他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、 体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく,学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

0 1	設置計画履行状況報告書					
а	ホームページに公表の有無	(有	-	無)
b	公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士前期課程)

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- () 書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<星	基盤理工学専攻(博士前期課程)>	^°-	-ジ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	12
4.	既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	13
5.	教員組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	15
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・	•	28
7.	その他全般的事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	29

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。
- (4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
	フクダ タカシ		
学 長	福田		
	(平成26年4月1日)		
	タノ シュンイチ		
研究科長	田野 俊一		
	(平成29年4月1日)		
	ニシオカ ハジメ	_	
専 攻 長	西岡 一		
	(平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の	Ī	設置時の計画							
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	備考					
情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士前期課程)	工学関係 理学関係	2年	135人	270人	基礎となる学部等 情報理工学域					
修士(工学)(理学)(学術)										

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

	報告年度	平成28年度	平成2	9年度	平均入学定員	備	考
区	分	春季入学 その他の	₩ 春季入学	その他の学期	超 過 率	VĦ	77
А	入学定員	人 135 (—) [—]	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	人 35 -) -]			
	志願者数	143 — (1) (— [3] [—	168) (—)] [4]	()			
	受験者数	136 — (1) (— [2] [—	164) (—)] [4]	()	0. 94倍		
	合格者数	131 — (1) (— [2] [—	154) (—)] [4]	()			
I	3 入学者数	113 — (1) (— [2] [—	142) (—)] [4]	()			
7	、学定員超過率 B/A	0. 83	1.	05			

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成2	8 年度	平成2	9年度	備	考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		45
	113	_	142			
1 年次	[2]	(-)	[4]	[]		
	(-)	(-)	(-)	()		
			112			
2年次	/		[2]	[]		
			(-)	()		
	1	13	2	54		
計	[:	2]	[6]		
	(-	-)	(-	-)		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退学	退学者数(内訳) -年度 退学者数 退学者数の うち留学生数		主な退学理由	入学者数に 対する退学者数
対象年度			退学した年度				の割合 (a/b)
平成28年度	113 人	1 人	平成28年度	1人	0 人	・その他(1人)	0.88 %
入学者	113 人	- ~	平成29年度	0 人	0 人		0.00 90
平成29年度 入学者	141 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	254 人	1 人					0.39 %

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職・学生個人の心身に関する事情・家庭の事情・除籍・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士前期課程)>

(1) 授業科目表

	斗目	12 MP 24 F				ζ			員等の配置 港 即 即					
	区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選	自由	教	准教授	講師	助	助壬		備考	
		大学院総合コミュニケーション科学	1・2前	11含	択 2	由	授 1	授	師	教	手	26.4	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29)教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)	
		幾何学基礎論	1・2前		2		1						名 で対応 (28)	
		解析学基礎論	1・2前		2			1						
		代数学基礎論	1・2前		2			1						
		技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2							兼1		
		国際社会の政治・経済	1 • 2前		2		1							
- - -	大 学	日本とアジアの近代史	1・2後		2							兼1		
	基	科学技術の歴史	1・2後		2			1						
1 1 1	7.林	現代社会と倫理	1・2後		2		1					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)	
	目	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で 対応(28)	
		幾何学特論	1・2後		2		1							
		解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)	
		代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更 (28)	
		教育学特論	1・2後		2		1							
		大学院輪講第一(I)	1•2前	1			31 30 31	33 28		6 7			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
J	大 学 院 輪 講	大学院輪講第一(Ⅱ)	1・2後	1			31 30 31 31	33 28		6 7			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
7		大学院輪講第一(Ⅲ)	1•2前	1			30 31 31	33 28		6 7			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
		大学院輪講第一(IV)	1・2後	1			30 31 4	33 28		6 7			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28) より教育内容に即した担当教員への変更(29)	
大 徘	大学院技 析 英 語	大学院技術英語	1・2前	2			3 2	1 2				兼1	教育内容充実のため、専任教授3名、専任准教授 2名、兼任教員1名で対応(28)	
		ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	1				兼4 兼6	兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任 教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない (29) より教育内容に即した担当教員への変更すると 共に兼任教員6名を追加(28)	
		知的財産権特論	1・2後		2		1					兼7 兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8 名で対応(28)	
		先端技術開発特論	1・2後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)	
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2通		2		2	2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任	
		大学院国際プロジェクト	1•2前		2		2 4 2	2 1 2					推教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授	
+	学	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					1名で対応 (28)	
大学院実践	院 産 学	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1					兼3	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3 名で対応(28)	
教育	科	経営実践特論	1・2前		1					1			教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2 名で対応(28)	
科目	目	IT最前線	1・2後		2		1						教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1 名で対応(28)	
		実システム創造	1・2後		2		1	4				兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授 4名、兼任教員1名で対応(28)	
		データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
		データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
		オープンイノベーションスクール I	1•2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)	
		オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)	

	₹ F				-	単位数	Ź		専任教員	等の西	配置			
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講師	助教	助手	備考	
			大学院インターンシップ	1・2前	,,_	2		1	2				専任教授の負担軽減のため、専任准教授2 応(28)	名で対
			大学院インターンシップ(海外)	1・2前		2		1	2				- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	名で対
			大学院インターンシップ(長期)	1・2前		4		1	2				専任教授の負担軽減のため、専任准教授2	名で対
													応(28) 	名で対
			大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2前		4		1	2				応(28)	
			大学院海外語学研修 I	1・2前		1			1				教育内容充実のため、科目を追加(29)	
			大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1				教育内容充実のため、科目を追加(29)	
			大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	1 1 1 1 4			31 30 31 30 31 30 31 30 31	33 33 33 33 28		6 7		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単 割し、半期1単位4科目に変更(28)	位を分
			基盤理工学専攻基礎	1・2前		2		1	3 4				より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			先端半導体デバイス基礎	1・2後		2		1	1					
			光・量子エレクトロニクス基礎	1・2前		2		1						
		目 I	光デバイス工学基礎	1・2前		2		1						
			量子物理工学基礎	1・2前		2		1						
			固体物性論基礎	1・2前		2		1						
			分子細胞生物学基礎	1・2前		2			1					
			生体情報学基礎	1・2前		2		1	1				より教育内容に即した担当教員への変更(28)
			集積回路基礎	1・2前		2		1						
			量子エネルギー科学 環境材料学特論	1・2後 1・2前		2		1						
			ナノフォトニクス特論	1・2前		2		1	2					
	1		光通信システム特論	1・2後		2		1						
	電子工		ナノエレクトロニクス特論	1・2前		2		1						
	上学プ		超伝導デバイス特論	1・2後		2		1						
	ログ		計算物理学特論	1・2後		2		1	1 2				専任准教授の昇任に伴い、専任教授1名、 教授2名で対応(29)	専任准
	ラム		集積回路設計学特論	1・2後		2		1	1				専任准教授の昇任に伴い、専任教授1名で対	対応 (29)
			光通信デバイス特論	1・2後		2		1						
			物理工学特論	1・2前		2							兼1	
大			固体照明工学特論	1・2後		2		1	1				専任准教授の昇任に伴い、専任教授1名で対	寸応 (29)
大学院専門		専	ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1						
界 門 数		科	リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
教育科		II	制御系設計応用	1・2後		4			1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任	准教授
目			ナノ光科学ラボワーク	1・2前		4		2	1				1名で対応(28)	
			超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任 1名で対応(28)	准教授
			飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任 1名で対応(28)	准教授
			極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任 1名で対応(28)	准教授
			宇宙天文物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任 1名で対応(28)	准教授
			国際文化言語学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任 1名で対応(28)	准教授
			顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				************************************	准教授
			グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1				数育内容充実のため、専任教授2名、専任 1名で対応(28)	准教授
			大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV) 大学院実践演習	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2 通	1 1 1 1 4			31 30 31 30 31 30 31 30 31	33 33 33 33 28		6 7		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単 割し、半期1単位4科目に変更(28)	位を分

						単位数	ţ		専任教員	算等の関	配置		
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
			United to the Control of the Control		修	択	由	授	授 3	師	教	手	T
			基盤理工学専攻基礎	1・2前		2		1	4				より教育内容に即した担当教員への変更(29)
			先端半導体デバイス基礎	1・2後		2		1					
	② *	専門	光・量子エレクトロニクス基礎	1・2前		2		1					
)光工学プ	門科目	光デバイス工学基礎	1・2前		2		1					
	プロ	I	量子物理工学基礎	1・2前		2		1					
	ロ グ ラ		固体物性論基礎	1・2前		2		1					
	٨		集積回路基礎	1・2前		2		1					
			画像情報学基礎	1・2前		2			1				
			光化学	1•2前		2		1					
			応用電磁気学	1・2後		2		1	1				
			ナノフォトニクス特論 光通信システム特論	1・2前 1・2後		2 2		1	2				
			ナノエレクトロニクス特論	1・2前		2		1					
			光通信デバイス特論 固体・ソフトマターフォトニクス特論	1・2後		2		1					
			光計測特論	1・2前 1・2前		2 2		1					
			情報光工学特論	1・2後		2			1				
			生体計測工学特論	1・2後		2		2 1	+				専任准教授の昇任に伴い、専任教授2名で対応(29)
			物理工学特論	1・2前		2							兼1
			固体照明工学特論 量子情報光学特論	1・2後 1・2後		2 2		1	1 2				専任准教授の昇任に伴い、専任教授1名で対応(29)
	② 光		ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1					
	九工学	専門	リアルタイム制御系設計基礎論 制御系設計応用	1・2前 1・2後		4		1	1				
	プ	科	ナノ光科学ラボワーク	1・2版				0					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授
	ログラ	П	リノ元件子グルグーグ	1 • 2月1		4		2	1				1名で対応(28)
	ム		超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
			飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
													教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授
			極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				1名で対応(28)
			宇宙天文物理学ラボワーク	1 • 2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
			国際文化言語学ラボワーク	1•2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
													1年 (対応 (26) 教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授
			顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				1名で対応(28)
			グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)
								31					
			大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			30 31	33				
			大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)	1·2後 1·2前	1			30 31	33 33		6 7		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分
			大学院実践演習(IV) 大学院実践演習	1・2後 1・2通	1 4			30 31	33 28		·		割し、半期1単位4科目に変更(28)
大		古						30 31					
大学院専門		専門科	基盤理工学専攻基礎	1 • 2前		2		1	3 4				より教育内容に即した担当教員への変更(29)
門数			先端半導体デバイス基礎	1・2後		2		1	4				
教育科		1	光・量子エレクトロニクス基礎 光デバイス工学基礎	1・2前 1・2前		2 2		1					
目			量子物理工学基礎	1・2前		2		1					
			固体物性論基礎	1・2前		2		1					
			集積回路基礎 応用電磁気学	1・2前 1・2後		2 2		1 1	1				
			固体量子工学	1・2前		2		1	1				
			ナノエレクトロニクス特論	1・2前		2		1					
			計算物理学特論	1・2後		2		1	1 2				専任准教授の昇任に伴い、専任教授1名、専任准 教授1名で対応(29)
	3		物理工学特論	1・2前		2							兼1
	物理	専	量子情報光学特論 低温量子物性工学特論	1・2後 1・2前		2 2		1	2				
	生工学	門科口	固体量子工学特論	1・2後		2		•	1				専任教員の負担軽減のため、開講学期の変更
	チプロ	囯	ナノトライボロジー特論	1・2前 1・2後		2		1					(29)
	ログラ		統計物理工学特論	1・2後		2		1					
	ム		現代レーザー分光学特論	1・2前		2		1	1				
			原子光工学特論 凝縮体量子工学特論	1・2前 1・2後		2 2		1	1				
			電子物性特論	1・2後		2			1				
			X線結晶学特論 リアルタイム制御系設計基礎論	1・2後 1・2前		2 4		1	1				
			制御系設計応用	1・2削 1・2後		4			1				
• 1		•	•	•		•	•	•	•	•	•	• I	•

	科目					単位数	ζ		専任教員	等の	記置					
	科目 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考			
	/ /	ı			修	択	由	授	教 授	師	教	手				
			ナノ光科学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			宇宙天文物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			国際文化言語学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ) 大学院実践演習	1・2前 1・2後 1・2前 1・2後 1・2通	1 1 1 1 4			31 30 31 30 31 30 31 30 31	33 33 33 33 28		6 7		大学院担当資格取得等のための変更 (29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分 割し、半期1単位4科目に変更 (28)			
		門	<u> </u>	1・2前		2		1	3 4				より教育内容に即した担当教員への変更(29)			
			固体物性論基礎	1・2前		2		1								
		I	分子細胞生物学基礎	1・2前		2			1							
			生体情報学基礎	1・2前		2		1	1				より教育内容に即した担当教員への変更(28)			
			量子エネルギー科学	1・2後		2		1								
			光化学 生物有機化学	1・2前 1・2前		2		1	1			兼1	専任准教授の負担軽減のため、兼任教員1名で対			
			生体機能システム学基礎	1・2後		2		1	1			NIK2	応。なお、学生の教育に支障はない(29) 専任准教授転出のため、専任教授1名に変更。な お、学生の教育に支障はない(29)			
	4		生体計測工学特論	1・2後		2		2	1				専任准教授の昇任に伴い、専任教授2名で対応(29			
大	化学		X線結晶学特論	1・2後		2		1	1							
学院	化学生命		固体物性化学特論	1・2後		2		1								
専門	工		化学反応特論	1・2前		2			1							
教育科	学プ		生体情報システム学特論	1・2前		2		1								
科	ログ		化学生命工学特論	1・2前		2							兼2 兼1 教育内容充実のため、兼任教員2名で対応(28)			
目	ラム		無機物質化学特論	1・2後		2		1					₩			
			物理化学特論	1・2後		2			1							
			ゲノム生物学特論	1・2後		2			1							
		専	リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1								
		門科	制御系設計応用	1・2後		4			1							
		II	ナノ光科学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			宇宙天文物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			国際文化言語学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			
			グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授 1名で対応(28)			

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	状	況			備	考	
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択	自	由		計	VĦ	75	
	科目		科目		科目		科目		科目		科目		科目		科目			
	9		152		0		161		21		156		0		177			
								[1	2]	[4]	[0]	[16]			

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						
						_

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単	位	数	配当年次	一般・専	専門	必修・選択	未開講の理由、	代替措置の有無
1										
2					該当	<i>†</i> >1				
3					談二	みし	<u> </u>			

- (注)・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」



- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

 未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計
 =
 1
 =
 0.62

 設置時の計画の授業科目数の計 (A)
 =
 161
 =
 0.62

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分					内				7	\$			備考
(1)		区	分		Ę	Ē	用	共	用		ŧ用する Ż校等の			計		
校		校 4	き敷 均	<u>t</u>		1	15, 433 m ²		0 m	î		0 r	ที	11	5, 433 m²	
111		運動	場用地	!			38, 187 m i		0 m	ว้		0 r	ที	3	8, 187 m ²	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	-		1	53, 620 m ²		0 m	î		0 r	n	15	3, 620 m ²	
等		そ	の他	!			34, 685 m ²		0 m	î		0 m²		34, 685 m²		
		合	計	-		1	88, 305 m ²		0 m		上田士で	0 m²		18	8, 305 m ²	
					専		用	共	用			用する他の 校等の専用		計		-
(2) 校			舎				90, 163 m ²		0 m	î		0 r	n	90	0, 163 m °	
					(, 163 m ²)	(0m²)	(1	0m³)	(•	163 m [*])	
				講	義	<u> </u>	演習	室 = ==================================	実験実	望室	情報処	_见 理学習		語学学習		-
(3) 教		室	等			0室		9室		85室	(補助	融 昌	0室 人) (社	# 마 때 문	0室	
							新設学部	生の夕称		1	(相切	室		補助職員 人 ————— 数		
(4) 専	9任教員研究室				悼	報理.	工学研究科	基盤理工	学専攻			80				-
				3	図 書		(博士前									
(5)	親	新設学部等 の名称			ち外国記]	〔うちタ		国書〕 電子ジャー		 視聴覚 ナル		機械・器:	器具 標 本		
					m			種	〔うち外[国書〕		点		点	点	
図		强 理工学		315, 01	8 [109, 394]		8, 887 (6, 091]	3, 899 [3,	889]	2, 896 (2, 896)		0		0	- 大学全体
書•		盤理工学				394])	(8, 887 [6, 091〕)	(3, 899 [3,	889])			(0)		(0)	
設備		÷1		315, 01	18 [109, 394]		8, 887 (6, 091]	3, 899 [3,	889)	2, 896		0		0	
		計		(315, 01	018 [109, 394		(8, 887 [6, 091〕)	(3, 899 [3,	889])	(2, 8	396)	(0)		(0)	
(6) 図		書	館		面		積		閲覧座	席数		収	納可	能 冊	数	
(0)			ио				7, 32	3m²			621				368, 000	大学全体
(7) 体		育	館		面		積 ————		•				設の概要			
							3, 077	m [®] 多摩川 i チェリ-	運動場(陸上競 −場)、プール	技場、サ	ッカー・ 技場(弓 -	ラクヒー 道場、テ	場、テニス ニスコート	コート4 7面)	面、アー	大学全体
		経費・	Σ		分		開設年度	完成年月		分	開設前	前年度	開設年度		成年度	
(8) 経費の		積り			研究費		千円		千円 図書期			千円		P	千円	
積り及 維持方	びー				克 費	等	千円	1	F円 設備期			千円		円 # -	千円	-
の 概	要	学生 1	J	第	1年次		第2年次		3年次	第4年		第 5	年次 第6年次		-	
	-	納付		N 10 0 0)維持方法の概要			円	千円		十円	千円		千円 千円		-
		子子生	附 17金	ᅛᄽᄭ	准持力法	の概要	安									

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信:	大	学										•	備	考	
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入定	学員	収定	容員	学位又 は称号	平均入 ⁵ 定員 超過率		開語	设度	所	在	地				
	年		人	年	次		人		ſ	卋									
情報理工学域					人														
I 類(情報系)	4		210	3年2 9			858	学士	1.0)4	平成28年	度	東京都調	布市調 5 番地	布ヶ丘1 11号	一般プ 程) で			
Ⅱ類 (融合系)	4		245	3年2 10		1	000	学士 ^(工学)	1.0)4	平成28年	度		同上		の大排用して	ており	り、ブ	(学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年2 10			960	学士 ^(工学)	1.0)4	平成28年	度		同上		定員制の状況	兄を負	集計す	ける
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年 3			126	学士 ^(工学)	1.0	00	平成28年	度		同上		ことが、知知では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	I 類、 をまっ	Ⅱ 判 とめ」	頁、 ヒげ
情報理工学部																いる。			
総合情報学科	4		_	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成2	28年	学生	募集
情報・通信工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
知能機械工学科	4		_	-		-	-	学士 (工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
先進理工学科	4		_	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		_	-		-	-	学士 (工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																			
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 1	9	平成28年	度	東京都調 丁目	布市調 5 番地					
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 1	3	平成28年	度		同上					
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学)(理学) (学術)	1.0)2	平成28年	度		同上					
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0. 9)4	平成28年	度		同上					
総合情報学専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集
情報・通信工学 専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
知能機械工学専攻	2		_	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集
先進理工学専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学) (理学) (学術)	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0. 66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	_	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	_	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
							ĺ		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - 専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、</u> 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士前期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時	の計画					変	更	状 況			
専任・		#A = ",			専任・				Î	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		1	
兼担・	TIAL 27	氏 名	****			TI-10 A	氏	名	Ι.	+> C = + C =		備	考
兼任	職名	(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	兼任	職名		齢)		就任予定年月	担当授業科目名		
の別					の別								
				大学院技術英語									
		斎藤 弘樹		凝縮体量子工学特論									
		(45)		大学院輪講第一(I)									
				大学院輪講第一(Ⅱ)									
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(皿)									
-4	3X1X		1 12020 - 471	大学院輪講第一 (IV)									
				大学院実践演習(I)									
				大学院実践演習(Ⅱ)									
				大学院実践演習(Ⅲ)									
				大学院実践演習(IV)									
		樫森 与志喜		大学院技術英語 生体情報システム学特論									
		住林 子心音 (60)		大学院輪講第一(I)									
		(,		大学院輪講第一(Ⅱ)									
				大学院輪講第一(Ⅲ)									
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)									
				大学院実践演習(I)									
				大学院実践演習 (II)									
				大学院実践演習(皿)									
				大学院実践演習 (IV)									
				大学院技術英語									
		SANDHU Adarsh		大学院輪講第一(I)									
		(57)		大学院輪講第一(Ⅱ)									
				大学院輪講第一(Ⅲ)									
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)									
				大学院実践演習 (I)									
				大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)									
				大学院実践演習 (IV)									
-				基盤理工学専攻基礎									
		尾関 之康		統計物理工学特論									
		(55)		大学院輪講第一(I)									
				大学院輪講第一(Ⅱ)									
	+/_ 1.77		T + 00 + 4 F	大学院輪講第一(Ⅲ)									
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)									
				大学院実践演習(I)									
				大学院実践演習(Ⅱ)									
				大学院実践演習(Ⅲ)									
-				大学院実践演習 (IV) 先端半導体デバイス基礎	-				+				
		一色 秀夫		大学院輪講第一(I)									
		(55)		大学院輪講第一(Ⅱ)									
				大学院輪講第一 (Ⅲ)									
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)									
				大学院実践演習(I)									
				大学院実践演習 (Ⅱ)									
				大学院実践演習 (皿)									
				大学院実践演習 (IV)									
		海湟 日白		先端技術開発特論									
		渡邊 昌良 (61)		光・量子エレクトロニクス基礎 大学院輪講第一 (I)									
		(01)		大学院輪講第一(Ⅱ)									
				大学院輪講第一 (Ⅲ)									
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)									
				大学院実践演習(I)									
				大学院実践演習 (Ⅱ)									
				大学院実践演習 (III)									
				大学院実践演習 (IV)									
	·			·								1	

		山口 浩一 (56)		光デバイス工学基礎 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III)			
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (I)			
				大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV)			
専	教授	渡邊 信一 (62)	平成29年4月	量子物理工学基礎			
専	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化 固体物性論基礎			
専	教授	中村 淳 (48)	平成29年4月	ナノエレクトロニクス特論			
専	教授	水柿 義直 (49)	平成29年4月	超伝導デバイス特論			
専	教授	上野 芳康 (55)	平成29年4月	光通信デバイス特論			
専	教授	桂川 眞幸 (54)	平成29年4月	オーブンイ/ペーションスタール1 オーブンイ/ペーションスタール8 ナノ光科学ラボワーク 原子光工学特論 超精密計測学ラボワーク 飛翔体工学ラボワーク 極地物理学ラボワーク			
				宇宙天文物理学ラボワーク 国際文化言語学ラボワーク 顕微物理工学ラボワーク グローバルラボワーク			
専	教授	平野 誉 (53)	平成29年4月	光化学			
専	教授	富田 康生 (61)	平成29年4月	選体・ソフトマターフォトニクス特証			
専	教授	西岡 — (56)	平成29年4月	光計測特論			
専	教授	石田 尚行 (53)	平成29年4月	固体物性化学特論			
専	教授	奥野 剛史 (50)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV)			
専	教授	沈 青 (50)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV)			
専	教授	美濃島 薫 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV)			
専	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	大学院籍講第一(I) 大学院籍講第一(II) 大学院籍講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV)			

_		0		1.35494-11.46-11			ı	<u></u>
				大学院技術英語				
		米田 仁紀		ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験				
Ī		木田 1_紀 (56)		危機・服界体験特別実験 オープンイノベーションスクール I				
Ī		(50)		オープンイノベーションスタールⅡ				
Ī				ナノ光科学ラボワーク				
				超精密計測学ラボワーク				
				飛翔体工学ラボワーク				
				極地物理学ラボワーク				
				宇宙天文物理学ラボワーク				
	+/_ 1777		T-200 - 4 D	国際文化言語学ラボワーク				
専	教授		平成29年4月	顕微物理工学ラボワーク				
				グローバルラボワーク				
				大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
<u> </u>				大学院実践演習(Ⅳ)				
		小林 義男		量子エネルギー科学 大学院輪講第一(I)				
		小杯 我为 (57)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(07)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
			_					
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				計算物理学特論				
		森下一亨		大学院輪講第一(I)				
		(50)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	XIVE		· /%೭º 十7月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習(Ⅳ)				
		佐々木 成朗		ナノトライボロジー特論 大学院輪講第一 (I)				
		佐々木 成朗 (49)		大学院輪講第一(I)				
		(40)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
l .	te t			大学院輪講第一(IV)				
専	教授		平成29年4月					
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)			 <u> </u>	
				応用電磁気学				
		中川 賢一 (55)		現代レーザー分光学特論				
		(55)		大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
			_	大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (II)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(IV)				
		£△ ↓ □#		ETL(Elementary Teaching Laboratory)				
		鈴木 勝 (57)		危機・限界体験特別実験 低温量子物性工学特論				
		(37)						
				大学院輪講第一(I)				
				大学院輪講第一(Ⅱ)				
#	₩.+		₩ 라이스 4 P	大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
				大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
Ī								
Ī				大学院実践演習 (IV)				
 				生体機能システム学基礎				
Ī		狩野 豊		生体機能システム字基礎 大学院輪講第一 (I)				
		が野 豆 (47)		大学院輪講第一(I)				
		(11)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
l .	te t							
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
				大学院実践演習(I)				
Ī				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
Ī				大学院実践演習 (IV)				
								i

		加固 昌寛		無機物質化学特論 大学院輪講第一(I)				
		(54)		大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
,,	200		1 79020 1 171	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(IV)				
		岩澤 康裕		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
		石澤 原始 (71)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)				
		白田 耕藏		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(I)				
		(70)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
_	#4+177	田村 元紀	亚世20年4日	データサイエンティスト特論 データアントレブレナー実践論				
専	教授	(61)	平成29年4月	環境材料学特論				
				大学院インターンシップ				
専	准教授	志賀 智一 (45)	平成29年4月	大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期)				
,		(10)	179020 1 171	大学院インターンシップ(海外・長期)				
				画像情報学基礎 大学院インターンシップ				
専	准教授	松林 和幸 (38)	平成29年4月	大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期)				
		(00)		大学院インターンシップ(海外・長期)				
_	₩₩ ₩	古川 怜	亚世20年4日	基盤理工学専攻基礎				
専	准教授	(36)	平成29年4月					
専	准教授	白川 英樹 (51)	平成29年4月	基盤理工学専攻基礎 分子細胞生物学基礎				
専	准教授	松田 信爾	平成29年4月	生体情報学基礎				
4	- L-1/1/2	(46)	1 /2/20 1/1					
		岡田 佳子		ナノフォトニクス特論				
専	准教授	(59)	平成29年4月	77731 — 771 idum				
専	准教授	庄司 暁 (42)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論				
		(42)						
1_		大淵 泰司	T-*00 - 4 F	計算物理学特論				
専	准教授	(57)	平成29年4月					
				オープンイノベーションスタール1				
		古川 裕介 (41)		*-ブンイノベーションスクールII ナノ光科学ラボワーク				
		···/		超精密計測学ラボワーク				
専	准教授		平成29年4月	飛翔体工学ラボワーク 極地物理学ラボワーク				
				宇宙天文物理学ラボワーク 国際文化言語学ラボワーク				
				顕微物理工学ラボワーク				
				グローバルラボワーク Eff.(Elementary Teaching Laboratory)				
専	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	危機・限界体験特別実験 量子情報光学特論				
		(00)		ユン・ロガルコブリー				
*	本ギュ	清水 亮介	亚라20左4묘	量子情報光学特論				
専	准教授	(43)	平成29年4月					
専	准教授	村中 隆弘 (43)	平成29年4月	固体量子工学				
		(10)						
専	准数恒	岸本 哲夫	平成29年4月	凝縮体量子工学特論				
17	准教授	(45)	十八八八十十八十八十八十八十八十八十八八十八十八十八十八十八十八十八十八十八					
L				<u>. </u>	ļ		!	<u> </u>

						1	
専	准教授	安井 正憲 (56)	平成29年4月	X 線結晶学特論			
専	准教授	三瓶 嚴一 (56)	平成29年4月	ゲノム生物学特論			
専	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験			
専	准教授	酒井 剛 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(II) 大学院集践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
専	准教授	張 贇 (44)	平成29年4月	大学院実践演習(IV) 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IIV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IIV)			
専	准教授	瀧 真清 (44)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IIV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III) 大学院実践演習(IV)			
専	准教授	渡邉 恵理子 (39)	平成29年4月	大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(I) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
専	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	基盤理工学專攻基礎情報光工学特論 大学院輸講第一(I) 大学院輸講第一(II) 大学院輸講第一(IV) 大学院集議第一(IV) 大学院集建演習(II) 大学院集建演習(II) 大学院集建演習(II)			
専	准教授	白川 晃 (46)	平成29年4月	応用電磁気学 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院集践演習(I) 大学院集践演習(II) 大学院集践演習(II)			
專	准教授	伏屋 雄紀 (40)	平成29年4月	固体量子工学特論 大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(III) 大学院報講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(III)			
專	准教授	森永 実 (51)	平成29年4月	限代レーザー分光字特論 大学院輪講第 - (I) 大学院輪講第 - (II) 大学院輪講第 - (II) 大学院報講第 - (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (II)			

							•	
				原子光工学特論				
		中村。信行		大学院輪講第一(I)				
		(48)		大学院輪講第一 (II)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
4	在扒区		一,从20千十万	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (Ⅳ)				
				電子物性特論				
		中村 仁		大学院輪講第一(I)				
		(49)		大学院輪講第一(Ⅱ)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
- 17	准软技		十八2344月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習(IV)				
				化学反応特論				
		曽越 宣仁		大学院輪講第一(I)				
		(45)		大学院輪講第一 (II)				
				大学院輪講第一(Ⅲ)				
-	₩₩ ₩₩		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				物理化学特論				
		山北 佳宏		大学院輪講第一(I)				
		(49)		大学院輪講第一 (II)				
				大学院輪講第一 (皿)				
-	₩₩ ₩₩		亚世00年4日	大学院輪講第一 (IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習 (Ⅱ)				
				大学院実践演習 (Ⅲ)				
				大学院実践演習 (Ⅳ)				
				大学院輪講第一(I)				
		桑原 大介		大学院輪講第一 (II)				
		(53)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
,,			1 //02-0 1 .//	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
-				大学院実践演習 (IV) 大学院輪講第一 (I)				
		小久保 伸人		大学院輪講第一(I)				
		(46)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
				大学院輪講第一 (IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (IV)				
				大学院輪講第一(I)				
		曽我部 東馬		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(42)		大学院輪講第一 (Ⅲ)				
専	`件 ## +亚	·	平成29年4月	大学院輪講第一 (IV)				
守	准教授		十成29年4月	大学院実践演習(I)				
				大学院実践演習(Ⅱ)				
				大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習 (Ⅳ)				
		,		大学院輪講第一(I)	Ţ			
		丹治 はるか		大学院輪講第一(Ⅱ)				
		(37)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
専	准教授		平成29年4月	大学院輪講第一(IV)				
1				大学院実践演習 (I)				
				大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ)				
				大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)				
-				大学院実践演省(IV) 大学院輪講第一(I)	 			
Ī		Nayak Kali Prasanna		大学院輪講第一(I) 大学院輪講第一(II)				
I		(35)		大学院輪講第一(Ⅲ)				
l _	l.,	(00)		大学院輪講第一(IV)				
専	准教授		平成29年4月	大学院実践演習(I)				
Ī				大学院実践演習(II)				
Ī				大学院実践演習(Ⅲ)				
Ī				大学院実践演習 (IV)				
#	B+ ≠+	牧 昌次郎	亚라20左4모	経営実践特論				
専	助教	(50)	平成29年4月					
<u> </u>	<u> </u>			<u> </u>		 		

日か (38)								
	専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
特別	専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(IV)			
京倉川 正樹	専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
増加 増加 一	専	助教	戸倉川 正樹 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
兼担 教授 本住 直人	専	助教		平成29年4月	大学院輪講第一(II) 大学院輪講第一(IV) 大学院輪講第一(IV) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II) 大学院実践演習(II)			
兼担 教授 第 公司	兼担	教授		平成29年4月	集積回路基礎			
東担 教授 (52) 平成29年4月 兼担 教授 内田 和男 (57) 平成29年4月 東担 教授 新 誠一 (62) 平成29年4月 東担 教授 小池 卓二 (50) 平成29年4月 東担 教授 正本 和人 (42) 平成29年4月 東担 教授 由良 憲二 (61) 平成29年4月 兼担 教授 西野 哲朗 (58) 平成29年4月 兼担 教授 西野 哲朗 (58) 平成29年4月 東北 教授 田野 俊一 平成29年4月 「工最前線 実ンステム創造 東ンステム創造 兼担 教授 田野 俊一 (58) 平成29年4月 幾何学基礎論	兼担	教授		平成29年4月	光通信システム特論			
兼担 教授 (57) 平成29年4月 兼担 教授 新 誠一 (62) 平成29年4月 兼担 教授 小池 卓二 (50) 平成29年4月 兼担 教授 正本 和人 (42) 平成29年4月 業担 教授 由良 高二 (61) 平成29年4月 兼担 教授 西野 哲朗 (58) 平成29年4月 兼担 教授 西野 哲朗 (58) 平成29年4月 兼担 教授 田野 後一 (58) 平成29年4月 兼担 教授 田野 後一 (58) 平成29年4月 兼担 教授 山口 耕平 東京29年4月 幾何学基礎論	兼担	教授		平成29年4月	集積回路設計学特論			
東担 教授 (62) 千成29年4月 東担 教授 小池 卓二 (50) 平成29年4月 土株計測工学特論 東担 教授 正本 和人 (42) 平成29年4月 東担 教授 由良 憲二 (61) 平成29年4月 東担 教授 西野 哲朗 (58) 平成29年4月 東担 教授 田野 俊一 (58) 平成29年4月 東田 教授 田野 俊一 (58) 平成29年4月 東沙ステム創造 東田 教授 山口 耕平 (10年4月) 農門学基礎論	兼担	教授		平成29年4月	固体照明工学特論			
兼担 教授 (50) 平成29年4月 兼担 教授 正本 和人 (42) 平成29年4月 兼担 教授 由良 憲二 (61) 平成29年4月 *** 本担 教授 西野 哲朗 (58) 平成29年4月 *** #担 教授 田野 俊一 (58) 平成29年4月 I T最前線 実システム創造 *** #担 教授 田野 俊一 (58) 平成29年4月 機何学基礎論	兼担	教授		平成29年4月	リアルタイム制御系設計基礎論			
#担 教授 由良 憲二 平成29年4月 *** 平成29年4月 *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	兼担	教授		平成29年4月	生体計測工学特論			
兼担 教授 西野 哲朗 平成29年4月 WMM 平成29年4月	兼担	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論			
兼担 教授 田野 俊一	兼担	教授		平成29年4月	大学技能会コミュニケーション科学			
本日 教校 (58) 十成29年4月 実システム創造	兼担	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際科学技術コミュニケーション論			
兼担 教授 山口 耕平 平成29年4月 幾何学基礎論	兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T最前線 実システム創造			
	兼担	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	幾何学基礎論			
兼担 教授 梶浦 篤 (56) 平成29年4月 国際社会の政治・経済	兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済			
兼担 教授 山田 裕一 _{平成29年4月} 幾何学特論	兼担	教授		平成29年4月	幾何学特論			

				, ,		1	_	
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論				
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論				
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼担	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト				
兼担	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト				
兼担	准教授	上原 寿和子 (43)	平成29年4月	大学院技術英語				
兼担	准教授	小木曽 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計応用				
兼担	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造				
兼担	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造				
兼担	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	解析学基礎論				
兼担	准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論				
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史				
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論				
兼担	准教授	安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト				
兼担	准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造				
兼担	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造				
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I				
兼任		TERASHIMA, Alexandra V	平成29年4月	大学院技術英語				
兼任		Krivobok Vladimir (37)	平成29年4月	物理工学特論				
兼任		米澤 宣行 (61)	平成29年4月	生物有機化学				
兼任		星野 学 (36)	平成29年4月	化学生命工学特論				
兼任		加治 大哉 (42)	平成29年4月	化学生命工学特論				
						1	1	

兼任	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理					
兼任	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理					
兼任	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	長谷部美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化					
兼任	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論					
兼任	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論					
兼任	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論					
	 l		ı	 1	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	1

兼任	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論			

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>家更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <mark>図可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任 教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専仟教員数

(2)	成色生十上のか	X T L M M M
完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
24	16	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計 画		Į	見在(報告	書提出	時)の状況		現在	(報告書提出	時)の完成	対年度時の計	画
教 授	准教授	講	師	助教	計	教 授	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)
27	29	0		7	63	32	33	0	6	71	32	33	0	6	71
(32)	(33)	(0)		(6)	(71)						[5]	[4]	[0]	[△1]	[8]
研究指導 員数		旨導補 員数		義のみ担 の教員数		研究指導教 数			講義のみ担 当の教員数		研究指導教員 数	研究指導 教員	補助 講義	のみ担当の 教員数	
61		2		0		70		0	1		70	0		1	
(70)		0)		(1)		70			•		[9]	[0]	[1]	

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の 5 月 1 日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1 名減の場合: Δ 1)

(2) - ③ 年齢構成

	年齢構成	
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上記(B))の教 員うち、定年を 延長して採用す る教員数
65	2	2
歳	名	名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任	E辞退(未就	任)の理由	
			必修	〇〇概論	1				
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2		…のため就	任辞退 (27))
			必修	☆☆演習	3				
2	准教授	Δ2		該当な	ぼし		のため就	任辞退(29))
京	优任を辞	退した教員数	担当科目数の合言	+ (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計	·数(b)	③の合計	数 (c)
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
			選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
	00	Α	自由	〇〇 科目	自由 〇〇	科目 自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
			計	〇〇 科目	計 00	科目計	〇〇 科目	計	〇〇 科目

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」

 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予	定科目	後任補充	状況		辞任等0)理由		
			必修	00	概論	1						
1	教授	00 00	選択	**	基礎	2			のため	5辞任 (27)		
			必修	☆☆	演習	3						
2	准教授	ΔΔ		該	核当な	ぼし			…のた&	5辞任(29)		
	辞任し	した教員数	担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)	②の合計	十数 (b)	③の合計	数 (c)	
			必修	00	科目	必修	00 科目	必修	OO 科目	必修	00	科目
			選択	00	科目	選択	00 科目	選択	OO 科目	選択	00	科目
	00	Α	自由	00	科目	自由	00 科目	自由	OO 科目	自由	00	科目
			計	00	科目	計	00 科目	計	OO 科目	計	00	科目

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A	後任補充状況の集計(B)+(D)									
辞任等した教	辞任等した教員数 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) ①の合計数 (a) ②の合計数									③の合言	十数(c)
								00	科目	必修	〇〇 科目
			該	当な	:1.			00	科目	選択	〇〇 科目
00			H/\	. — •	•			00	科目	自由	〇〇 科目
		計	00	科目	計	〇〇 科目	計	00	科目	計	〇〇 科目

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区分	>	留意	事 項	等	履	行 划	: 況	未履行事項について の実施計画
設置時	ŧ			〇〇意見				
(00年00)	月)							
設置計画原								
調査				該当	なし			
設置計画腹行和 調 査	時			改善意見				
設置計画履行料 調 査 (●●年2月	時 科、●	学部等 ●学科)	が設置す (〇〇学 の~す	〇〇意見				

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - · 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士前期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

	設	置	時	の	計	画			変更内容	• 状況,	今後	後の見道	通しなど
記入例)													
① 修了要件单位													科目(1科
124単位													象表」参照)
							■4 14	なし					
② 施設・設備								かし					室, 自習室を
a 講義室〇室													,図書も〇〇冊
b 自習室〇室		m)						増書した	0				
c 図書〇〇冊	}												

- (注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

c 委員会の審議事項等

- (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
- (2) 学生授業評価の実施に関すること
- (3) シラバス及び成績評価に関すること
- (4) 教育環境の整備に関すること
- (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。 (記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

〇 設置計画履行状況報告書				
a ホームページに公表の有無	(有	· 無)	
b 公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月 30日)	

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻(博士後期課程)

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- () 書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<帽	情報学専攻(博士後期課程)>	^ °	ージ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	1C
4.	既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	11
5.	教員組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	13
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・	• •	21
7.	その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		22

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。
- (4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備考
学 長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専 攻 長	ヨシウラ ヒロシ 吉浦 裕 (平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の		設置時の計画	Ī	備考
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	III 75
情報理工学研究科 情報学専攻 (博士後期課程)	工学関係 理学関係	3年	13人	39人	基礎となる学部等 情報理工学域
修士(工学)(理学)(学術)					

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

	報告年度	平成28年原	支	平成2	9 年度	平成 3	0 年度	平均入学定員	備考
区	分	春季入学 その他の	学期春	季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	超 過 率	ин <i>1</i> 5
А	入学定員	人 13 (-) [-]	人	13 (–	人 B -) -]	\ ([人)]		
	志願者数	12 3 (4) (3 [2] [—) (18 3) 5]	()	()	()		
	受験者数	12 3 (4) (3 [2] [—) (18 3) 5]	()	()	()	1. 23倍	
	合格者数	11 3 (3) (3 [2] [—) (18 3) 5]	()	()	()		
E	3 入学者数	11 3 (3) (3 [2] [—) (18 3) 5]	()	()	()		
J	、学定員超過率 B/A	1.07		1. 3	38				

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、<u>計算の際は「入学定員超過率」と同様</u>にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成2	8 年度	平成2	9年度	平成 3	0 年度	·	考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		5
	11	3	18	1				
1 年次	[3]	[0]	[5]	[-]	[]	[]		
	(-)	(-)	(-)	(-)				
			10					
2年次			[2]	[]	[]	[]		
			(-)	()	()	()		
					_			
3年次	_	/			[]	[]		
				_	()	()		
		4		9	_	-		
計		3]	L	7]	L]		
	(-	–)	(-	-)	()		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数

 を記入してください。
 - ・()内には、<u>留年者の状況について、内数で</u>記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退当	学者数(内訳))	主な退学理由	入学者数に 対する退学者	
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)	
			平成28年度	3 人	1 人	・仕事の都合(2人)・その他(1人)		
平成28年度 入学者	14 人	3 人	平成29年度	0 人	0 人		21.42	%
			平成30年度	人	人			
平成29年度	18 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00	%
入学者	10 人	0	平成30年度	人	人		0.00	90
平成30年度 入学者	Д	0 人	平成30年度	Д	人		#DIV/0! 9	%
合 計	32 人	3 人					9.37 %	6

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士後期課程)>

(1) 授業科目表

,	#I P			Ļ	単位数			専任教員	_				
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助工		備考
		技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前	修	択 2	由	授	授	師	教	手	兼1	<u> </u>
		国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1					178	
		日本とアジアの近代史	1・2・3後		2		1					兼1	
		科学技術の歴史	1・2・3後		2			1				NK1	
					_			1					専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教
		現代社会と倫理	1・2・3後		2		4					兼1	名で対応。なお、学生の教育に支障はない(2
	大 学												
	院 基	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1					兼15	
	礎	NATITE OF THE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OF THE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OF	1 2 000				1					AKIO	
	教 育												
	科目	幾何学特論	1・2・3後		2		1						
		解析学特論	1・2・3後		2		,	,					バランスのとれた学習機会を提供するため、
		万年7月 十一十寸 前囲	(隔年開講) 1・2・3後				1	1					開講に変更(28)
			1・2・3後										ジニンフのしわれ台頭機入れ相供よりれば
		代数学特論	(隔年開講) 1・2・3後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、 開講に変更(28)
		教育学特論	1・2・3後		2		1						
							0.5	00					
	大学院 輪 講	大学院輪講第二	1~3通	4			25 27	20 17		4			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	7110 1777						26	22					人们加工可具相联内中心/2000发天(80)
													兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、 数員4名で対応したお、学生の教育に支障は
		ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	1				兼4 兼6	教員4名で対応。なお、学生の教育に支障は (29)
												УКО	(29) より教育内容に即した担当教員への変更する に兼任教員6名を追加(28)
													兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で
		知的財産権特論	1・2・3後		2		1						応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教
													で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2・3後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2					
大		経営実践特論	1・2・3前		1					1		兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教
学院	大												で対応(28) 数本内容を守のため、東月粉短1名 兼月粉
実践	学院	IT最前線	1・2・3後		2		1					兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教 で対応(28)
教	産	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
育科	学連												
目	携 科	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	目	オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加
													教育内容充実のため、専任教授2名、専任准
		オープンイノベーションスクールIV	1・2・3前		1		2	1					名で対応(28)
		オープンイノベーションスクールV	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准 名で対応(28)
		大学院インターンシップ	1・2・3前		2		4	1					40 C 対心 (26) より教育内容に即した担当教員への変更 (29
		大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前		2		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29
		大学院インターンシップ(長期)					_						
		大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2・3前		4		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29
			1・2・3前		4		1	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29
		大学院海外語学研修 I	1・2・3前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
		大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
	専	現代代数学	1・2・3後 (隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
	門 科		(州行十一)刑 高再丿										
大	目 I	数理解析学	1・2・3後		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)
学			(隔年開講)	<u> </u>									
院専		メディア論特論	1・2・3前		2		1						
門教	#	認知科学特論 画像認識システム特論	1・2・3前		2		,	1					
育	BB	画像認識システム特論 認知プロセス論特論	1・2・3後		2		1						
科目	科	学習工学特論	1・2・3前		2 2		1						教育内容充実のため、科目を追加(28)
	п	視覚情報処理特論	1・2・3例		2		1	1					2A D 1 147 / 11 A V / 11 A V / 12 A A A A A A A A A A A A A A A A A A
		コミュニケーション論特論	1・2・3後		2			1					
			- 10	1	1	Ì	İ	İ	I	I	Ì	1	:
		計算機科学特論	1・2・3後		2		1						

					単位数	ζ		専任教員	[等の]	配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准	講	助	助		備考
	区分			修	択	由	授	教 授	師	教	手		
		マルチメディアコンピューティング特論	1・2・3後		2							兼1	
		マルチエージェントシステム特論	1・2・3前		2		1						
		サービス・サイエンス特論	1・2・3前		2		1						
		金融工学特論	1・2・3前		2							兼1	
		生体システム工学特論	1・2・3後		2		1						
		経営システム工学特論	1・2・3前		2							兼1	
		言語認知システム特論	1・2・3前		2		1						
		人間工学特論	1・2・3後		2			1					
		生産システム特論	1・2・3後		2		1						
		システム信頼性特論	1・2・3前		2		1						
		コンテンツセキュリティ特論	1・2・3前		2		1						
		ネットワークセキュリティ特論	1・2・3前		2			1					
		雕散情報構造特論	1・2・3後		2			1					
		ソフトウェアセキュリティ特論	1・2・3後 1・2・3前 1・2・3後		2			1 1					より教育内容に即した担当教員への変更。それに (年) 開講学期の変更 (29) 専任准教授が平成28年度に転出のため、同准教授 が兼任教員として対応。それに伴い開講学期を変 更(28)
		暗号理論特論	1・2・3後		2		1						
		創造的情報メディア論	1・2・3前		2		1						
		インテリジェントシステム特論	1・2・3後		2			1					
	車	対話型システム特論	1・2・3後		2		1						
	門	ヒューマンインタフェース特論	1・2・3前		2			1					
大	科目	ロボットソフトウェア特論	1・2・3前		2		1						
大学院	II	知能ロボティクス特論	1・2・3後		2			1					
専		システム設計特論 1	1・2・3後		2		1						
門教		システム設計特論 2	1・2・3前		2			1					
教育科		人工知能と複雑ネットワーク	1・2・3前		2		1						
科目		時空間情報科学特論	1・2・3後		2			1					
		リスクマネジメント論	1・2・3前		2		1						
		ゲーム理論	1・2・3後		2			1					
		ネットワークアーキテクチャ論	1・2・3前		2		1						
		コンピュータネットワーク特論	1・2・3後		2			1					
	専門上	情報学特論	1・2・3前	2			25 27 26	20 17 22		1			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	級科目												

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可 以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画					変	更	状	7	兄				備考
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	ì	巽	択	自		由		計		7 7 7
	科目		科目		科目		科目		科目	1		科目			科目		ŧ	科目	
	2		60		0		62		2	2		67			0			69	9
								[0]	[7]	[0]	[7]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2	現代代数学	2	1・2後	専門		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単	位	数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由	代替措置の有無
1									
2					該当	<i>+</i> >1			
3									

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分					内				!				備考
(1)		区	分		専		用	共	用		≒用する 学校等の			計		
+六		校舎	敷坩	t		1	15, 433 m ỉ		0 r	n [†]		0	m	115,	433 m ²	
校		運動	場用地]			38, 187 m i		0 r	ที		0	mi	38,	187 m²	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	_		1	53, 620 m ²		0 r	ที่		0	m ²	153,	620 m ²	
等		そ	の他]			34, 685 m ²		0 r	n ²		0	mi	34,	685 m ²	
		合	計	-		1	88, 305 m i		0 r		- m 7	0	m [*]	188,	305 m ²	
					専		用	共	用		≒用する 学校等の			計		
(2) 校			舎				90, 163 m ²		0 r	n		0	m [*]	90,	163 m ²	
					(90,	163 m ²)	(0m²)	(0m²)	(3 m³)	
>				講	義室		演	室 室	実験実	習室	情報処	1理学習		語学学習)		
(3) 教		室	等			0室		25室		35室			4室		0室 	
							♦८ =0.324 40	# 0 2 H			(補助			助職員	人)	
(4) 専	任教	員研究	室		†	青報耳		等の名称 科 情報学	草専攻			室 74	数 	X	室	
	情報理工字研究 (博士後					期課程) 雑誌				14	+		至			
(5)	親	f設学音			ち外国書	ì		↑E III	電子ジャ		視聴覚	資料	機械・器具	標	本	
(0)		の名称	<u>r</u>		<i>57</i> 1 L L .	, #	()),	種	〔うち外			点		点	点	
図	情報	设理工学 情報学	研究	315, 01	8 [109, 39	94]	8, 887 (6, 091]	3, 899 [3		2, 8		0		0	大学全体
書・	17	博士後程)	期課	(315, 01	8 [109, 39	4])	(8, 887 [6, 091])	(3, 899 [3	, 889])	(2, 8	396)	(0)	((0)	
設 備				315, 01	8 [109, 39	94)	8, 887 (6, 091]	3, 899 [3	, 889)	2, 8	96	0		0	
		計		(315, 01	8 [109, 39	4])	(8, 887 [6, 091])	(3, 899 [3	,889])	(2, 8	396)	(0)	((0)	
(6) 図		書	館		面		積		閲覧座	席数		収	納可	能 冊	数	
(0) 🗵			K 6				7, 32	3m²			621			3	368, 000	大学全体
(7) 体		育	館		面		積						設の概要			
(17)	3, 077							m [*] 多摩川道 チェリー	運動場(陸上第 −場)、プーノ	競技場、サ レ、屋外競	ッカー・ 技場(弓	ラグビー 道場、ラ	-場、テニス: -ニスコート	コート4面 7面)	i、アー	大学全体
		経費	Σ	Σ	分	ß	開設年度	完成年月	区	分	開設前	前年度	開設年度	完成	发年度 ————	
(8) 経費の		の見 積り	教員 1	人当り	研究費等		千円	7	+	購入費		千円		PH -	千円	
程質の 積り及 維持方	びし			I	克 費 等		千円			購入費		千円		円	千円	
の概	要	学生 1		第	1 年次		第2年次		3年次	第4年		第	5 年次	第6年		
	F	納付					1	一門	千円		千円		千円		千円	
	_	学生組	衲付金	以外の約	维持方法の)概要										

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については,上段に完成年度の予定数値を,下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信	大	学										備		考
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入記	学員	収 定	容員	学位又 は称号	平均入 定員 超過 ²	Į.	開年	設 度	所	在	地			
	年		人	年			人			倍								
情報理工学域					人													
I 類(情報系)	4		210	3年》 9	欠		858	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		一般入記 程) でに		
Ⅱ類 (融合系)	4		245	3年》 10		1	000	学士 (工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		の大括り用してお	3り、	入学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年》 10			960	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		定員超過の状況で	を集言	†する
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年》 3			126	学士 ^(工学)	1.	00	平成2	!8年度		同上		ことがで め、I 類 を表 た状況	頂、I まとぬ	I 類、 b上げ
情報理工学部																いる。		
総合情報学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学科	4	-	-	-		_	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	_		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4	-	-	-		_	-	学士 (工学)	-		平成2	2年度		同上		 平成28: 停止	年学	生募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																		
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1.	19	平成2	!8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地	調布ヶ丘 1 1 号			
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	13	平成2	!8年度		同上				
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	02	平成2	!8年度		同上				
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0.	94	平成2	!8年度		同上				
総合情報学専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学専攻	2	-	-	-		_		修士 (工学) (理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学専攻	2	-	-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集

情報理工学研究科									
(博士後期課程) 情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学) (理学)	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
┃ 情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-		(学術) 博士 (工学)(理学)	0. 66	平成28年度	同上	
世界では、 機械知能システム 学専攻	3	12	-		(学術) 博士 (エ学)(理学)	0. 95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-		(学術) 博士 (工学)(理学)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	(学術) 博士 (工学)(理学)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
 情報・通信工学 専攻	3	-	-	_	(学術) 博士 (工学)(理学)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集
知能機械工学専攻	3	-	-	_	(学術) 博士 (工学) (理学)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	(学術) 博士 (工学)(理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学) (学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)		平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	_	博士	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。</u>

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士後期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時	の 計 画				茤	Ę <u></u>	更 状 況		
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
専	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T最前線 ^{創造的情報メディア論} 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	兼子 正勝 (63)	平成29年4月	メディア論特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	坂本 真樹 (47)	平成29年4月	認知プロセス論特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	柏原 昭博 (52)	平成29年4月	学習工学特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	計算機科学特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	髙玉 圭樹 (47)	平成29年4月	マルチェージェントシステム物館 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	椿 美智子 (56)	平成29年4月	サービス・サイエンス特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	板倉 直明 (55)	平成29年4月	生体システムエ学特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	内海 彰 (51)	平成29年4月	言語認知システム特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	生産システム特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	田中 健次 (60)	平成29年4月	システム信頼性特論 リスクマネジメント論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	吉浦 裕 (60)	平成29年4月	コンテンツセキュリティ特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	太田 和夫 (62)	平成29年4月	暗号理論特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	広田 光一 (52)	平成29年4月	対話型システム特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	末廣 尚士 (61)	平成29年4月	ロボットソフトウェア特論 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	大須賀 昭彦 (58)	平成29年4月	システム設計特論 1 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	栗原 聡 (51)	平成29年4月	人工知能と複雑ネットワーク 大学院輪講第二 情報学特論							
専	教授	加藤 聰彦 (61)	平成29年4月	*ットワークアーキテクチャ論 大学院輪講第二 情報学特論							

					1	T	T	ı .
専	教授	﨑山 一男 (45)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
専	教授	庄野 逸 (48)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
専	教授	羽田 陽一 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
専	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	山口 和彦 (55)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (馬邦) 大学院インターンシップ (馬邦) 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	髙橋 裕樹 (50)	平成29年4月	視覚情報処理特論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	梶本 裕之 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	水戸 和幸 (42)	平成29年4月	人間工学特論				
専	准教授	高田 哲司 (46)	平成29年4月	ネットワークセキュリティ特論				
専	准教授	石上 嘉康 (50)	平成29年4月	離散情報構造特論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアセキュリティ特論				
専	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	インテリジェントシステム等論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	野嶋 琢也 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二情報学特論				
専	准教授	工藤 俊亮 (39)	平成29年4月	知能ロボティクス特論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	システム設計特論 2 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	山本 佳世子 (48)	平成29年4月	時空間情報科学特論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	岩﨑 敦 (43)	平成29年4月	ゲーム理論				
専	准教授	大坐畠 智 (42)	平成29年4月	コンピュータネットワーク特論 大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	岩本 貢 (40)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
専	准教授	佐藤 寛之 (36)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				

				, ,	 	1	
専	准教授	橋本 直己 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二情報学特論			
専	准教授	松本 光春 (39)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論			
専	准教授	水野 統太 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論			
専	准教授	山田 哲男 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論			
専	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論 現代代数学			
専	准教授	久野 雅樹 (52)	平成29年4月	認知科学特論			
専	准教授	大河原 一憲 (41)	平成29年4月	コミュニケーション論特論 大学院輪講第二 情報学特論			
専	准教授	横川 慎二 (47)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論			
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済			
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	現代社会と倫理			
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論			
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論			
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論			
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ER (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 オープンイノペーションスクールロ オープンイノペーションスクールル オープンイノペーションスクールル オープンイノベーションスクールル			
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験			
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレブレナー実践論			
兼担	教授	桂川 眞幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクール車 オープンイノベーションスクール取 オープンイノベーションスクールV			
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史			
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory)			
					 •	•	

兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)				
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクール型 オープンイノベーションスクール型 オープンイノベーションスクールV				
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I				
兼担	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	数理解析学				
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論				
兼任	講師	岡田 和則 (55)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
兼任	講師	折原 良平 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
兼任	講師	石川 冬樹 (37)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
兼任	講師	川村 隆浩 (47)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論				
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理				
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理				
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	長谷部美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
				ıl	 _1	l	l	1

		ı			1			
兼任	講師	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	Derr, Jonathan (52)	平成29年4月	大学院技術英語				
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	尾内 理紀夫 (67)	平成29年4月	マルチメディアコンピューティング特論				
兼任	講師	山田 俊皓 (33)	平成29年4月	金融工学特論				
兼任	講師	藤川 裕晃 (63)	平成29年4月	経営システム工学特論				

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任 教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書 (AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
9	6	3
名	名	名

(注)・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時(の	計画		Į	見在(報告	書提出	時)の状況		現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講(師	助教	計	教 授	准教授	講館	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)
23	22	0		1	46	23	24	0	0	47	23	24	0	0	47
(23)	(24)	(0)		(0)	(47)						[0]	[2]	[0]	[∆1]	[1]
研究指導 員数		旨導補 員数	講当	義のみ担 の教員数		研究指導教 数			講義のみ担 当の教員数		研究指導教 数	員 研究指導 教員	補助 講義数	のみ担当の 教員数	
37		9		0		39		R	0		39	8		0	
(39)		8)		(0)		00			Ū		[2]	[△1]	[0]	

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 []]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)

(2) - ③ 年齢構成

	年齢構成	
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上 記(B))の教 員うち、定年を 延長して採用す る教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入 し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未	就任)の理由					
			必修	〇〇概論	1							
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2	のため就任辞退(27)						
			必修	☆☆演習	3							
2	准教授	ΔΔ		該当な	ぼし	のため就任辞退(29) 						
京	优任を辞	退した教員数	担当科目数の合言	+ (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)					
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修 〇〇 科目	必修 〇〇 科目					
			選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択 〇〇 科目	選択 〇〇 科目					
	00	λ	自由	〇〇 科目	自由 OO	科目 自由 〇〇 科目	自由 〇〇 科目					
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計 〇〇 科目	計 〇〇 科目					

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」
 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予	定科目	後任補充	状況			辞任等	の理由			
			必修	00	概論	1								
1	教授	00 00	選択	* *	基礎	2		のため辞任 (27)						
			必修	☆☆;	演習	3								
2	准教授	ΔΔ	△△ 該当なし 該計(D)											
	辞任し	した教員数	担当科目数の合言	† (a) + (b) + (C)	①の合計	数(a)		②の合計	数 (b)	③の合計	十数 (c)		
			必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00 科	■ 必修	00	科目	
			選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00 科	選択	00	科目	
	00	Α	自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00 科	自由	00	科目	
			計	00	科目	計	00	科目	計	OO 科	目 計	00	科目	

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A) + (C)									後任補充状況の集計 (B) + (D)									
辞任等した教諭	員数	b) + (c)	①の合計数 (a) ②の合計				計数	(b)	③の合計数 (c)											
										〇 科目	必修	〇〇 科目								
			≣ 3	を当な	: l ::				•	〇 科目	選択	〇〇 科目								
00									•	〇 科目	自由	〇〇 科目								
		計	00 #	計目	計		O 科目	計	〇〇 科目											

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区	分	j	留 意	事	項	等	履	行	状	況	未履行事項 の実旅	質について 西計画
設置	時					〇〇意見						
(ОО年О(0月)											
設置計画原												
 調 査 (△△年 設置計画表 						該当	なし					
調 査	時					改善意見						
設置計画履行 調 査 (●●年2	時	ᆂᄪᆖᅲ	^{学部等} ●学科	(00	D学	〇〇意見						

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士後期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

Ī	設置	時	の	計	画			変更内容・状	況, [·]	今後の見	通しなど
記入例)											
① 修了要件単位											科目(1科
124単位 ② 施設・設備						該当	なし				象表」参照) 室、自習室を
a 講義室〇室											,図書も〇〇冊
b 自習室〇室 c 図書〇〇冊	(On	1)					増善した	- 0			

- (注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

c 委員会の審議事項等

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

- 第46回(3月2日:参加者9名)
- (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
- (2) 学生授業評価の実施に関すること
- (3) シラバス及び成績評価に関すること
- (4) 教育環境の整備に関すること
- (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、 他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、 体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

0 1	设置計画履行状況報告書						
а	ホームページに公表の有無	(有	-	無)	
b	公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)	

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻(博士後期課程)

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e — mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- ()書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<帽	「報・ネットワーク工学専攻(博士後期課程)>	\wedge	ζ-	ジ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•		3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •		7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •		11
4.	既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •		12
5.	教員組織の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•		14
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•		24
7.	その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			25

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。
- (4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変更状況	備考
学 長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専 攻 長	チョウ キ 張 熙 (平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の		役置時の計画	Ī	備考
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	IM 75
情報理工学研究科 情報・ネットワークエ学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	18人	54人	基礎となる学部等 情報理工学域
修工(工子)(垤子)(子例)					

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

	報告年度	平成	. 2	8 :	年度	£	3	平成	t 2	9 年	丰度		平成 3	0	年度		平均入学定員	備	考	
区	分	春季入	.学	その	他の:	学期	春	季入	、学	そのイ	他の学期	春	季入学	その	他の学期	Ą	超 過 率	VH	75	
А	入学定員		人 1	8		人			人 1	8	. 人									
		[-	_)			[-	-)		[)					
	志願者数	11 (4 [2)	([7 6 1)	([6 2 3)	()	()	()					
	受験者数	11 (4 [2)	(7 6 1)) [6 2 3)	()	()	()		0.66倍			
	合格者数	11 (4 [2)	(7 6 1)	(6 2 3)	()	()	([)					
E	3 入学者数	11 (4 [2)	(7 6 1)	(6 2 3)	()	()	()					
J	学定員超過率 B/A		1.	00					0.	33										

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、<u>計算の際は「入学定員超過率」と同様</u>にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成 2	8 年度	平成2	9年度	平成 3	0 年度	備	考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		与
	11	7	6	7				
1 年次	[2]	[1]	[3]	[1]	[]	[]		
	(-)	(-)	(-)	(-)				
0.575			11					
2年次			[2] (-)	()	[]	L J		
			()		()	()		
3 年次			/		[]	[]		
					()	()		
	18	8	2	.4				
計	[3	3]	[6]	[]		
	(-	-)	(-	-)	()		

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数

 を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退当	学者数(内訳)		主な退学理由	入学者数に 対する退学者	
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)	
			平成28年度	0 人	0 人			
平成28年度 入学者	18 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00	%
			平成30年度	人	人			
平成29年度	6 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00	%
入学者	٥٨	0	平成30年度	人	人		0.00	90
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	Д		#DIV/0!	%
合 計	24 人	0 人					0.00 %	6

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士後期課程)>

(1) 授業科目表

	-1				単位数	ζ		専任教員	等の配	記置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	教 授	准教授	講師	助教	助手		備考
		技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2							兼1	
		国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1						
		日本とアジアの近代史	1・2・3後		2							兼1	
		科学技術の歴史	1・2・3後		2			1				46 ,	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1
	大 学	現代社会と倫理	1・2・3後		2		1					₩C1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。
	大学院基礎教	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1						
	育科	幾何学特論	1・2・3後		2		1						
	目	解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年 開講に変更(28)
		代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年 開講に変更 (28)
	1	教育学特論	1・2・3後		2		1						
	大学院輪 講	大学院輪講第二	1~3通	4			42 41 36	26 25 32	1	4 2			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
												**	兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任 教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない
		ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	1					教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない (29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共 に兼任教員6名を追加(28)
		知的財産権特論	1・2・3後		2		1					兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応、なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名 で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2					-14 C XJ N.D. (20)
		経営実践特論	1・2・3前		1					1		兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名 で対応(28)
大学		I T最前線	1・2・3後		2		1					36	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名 で対応(28)
学院実践	大学院	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
教育	産学連	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
科目	携科	オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
	目	オープンイノベーションスクールIV	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1 名で対応(28)
		オープンイノベーションスクールV	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1 名で対応(28)
		大学院インターンシップ	1・2・3前		2		1	2 1					教育内容充実のため、専任准教授2名で対応(29)
		大学院インターンシップ (海外)	1・2・3前		2		1	2 1					教育内容充実のため、専任准教授2名で対応(29)
		大学院インターンシップ (長期)	1・2・3前		4		1	2 1					教育内容充実のため、専任准教授2名で対応(29)
		大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2・3前		4		1	2 1					教育内容充実のため、専任准教授2名で対応(29)
		大学院海外語学研修 I	1・2・3前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
L		大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
	専門科目 I	連続最適化基礎論	1・2・3後		2		1						

					単位数	ζ		専任教員	等の配	紀置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准	講	助	助		備考
	△刀			修	択	由	授	教 授	師	教	手		
		集積回路設計特論	1・2・3前		2		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名へ変更(29)
		マイクロ波回路設計特論	1・2・3前		2		1						
		環境電磁工学特論	1・2・3前		2		1	1					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授1 名へ変更(29)
大		無線通信システム特論	1・2・3前		2		1	1					·4个多更(29)
学院		情報理論特論	1・2・3後		2		1	1					
専門		情報光工学特論	1・2・3後		2			1					
教育	専	宇宙通信工学特論	1・2・3後		2			1					
科	門科	光通信システム特論	1・2・3後		2		1						
目	目	センシング工学特論	1・2・3後		2			1					
	П	マルチメディア信号処理特論	1・2・3前		2				1				
		信号解析学特論	1・2・3前		2			1					
		伝送工学特論	1・2・3前		2			1					
		電磁波環境観測技術特論	1・2・3後		2		2	1					
		生体電磁工学特論	1・2・3後		2			1					
		非線形システム特論	1・2・3後		2			1					
		ヒューマンインタフェース特論	1・2・3後		2							兼1	
		音響システム特論	1・2・3前		2			1					
		知識データ工学特論	1・2・3前		2		1						
		ハイパフォーマンスコンピューティング特論	1・2・3前		2		1						
		並列分散システム特論	1・2・3後		2			1					
		シミュレーション理工学特論 アルゴリズム特論	1·2·3後 1·2·3後		2 2			1					
		応用解析学特論	1・2・3後		2		1	1					
		知能情報特論	1・2・3後		2		1						
		理論計算機科学特論	1・2・3前		2			1					
		ソフトウェア基礎特論	1・2・3前		2			1					
		計算機構特論	1・2・3前		2		1						
		ソフトウェアセキュリティ特論	1・2・3後 1・2・3前 1・2・3後		2			1 1					より教育内容に即した担当教員への変更。それに 伴い開講学期の変更(29) 専任権教授が平成28年度に転出のため、同准教授 が兼任教員として対応。それに伴い開講学期を変 更(28)
		画像認識システム特論	1・2・3後		2		1						2 (39)
		マルチメディアコンピューティング特論	1・2・3後		2							兼1	
		情報ネットワーク特論	1・2・3後		2		1						
	専	ネットワークアプリケーション特論	1・2・3後		2			1					
١.	門 科	ベイズ的人工知能特論	1・2・3前		2		1						
大学	∃ II	統計的機械学習特論	1・2・3後		2			1					
院専門が	-	情報幾何学特論	1・2・3後		2		1	1					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授1 名で対応(28)
教育		量子情報数理特論	1・2・3前		2			1					
科目		ネットワークコンピューティング特論	1・2・3前		2			1					
1		計算機ネットワーク特論	1・2・3後		2		1						
		情報データ解析論	1・2・3版		2		1						
		データ解析最適化論	1・2・3前		2		1	1					
		音声対話処理	1・2・3後		2		1	-					
		アルゴリズム工学特論	1・2・3前		2			1					
		システムソフトウェア特論	1・2・3前		2		1 1					兼1	教育内容充実のため、専任教授1名に変更(29) 専任教授が平成27年度に退職のため、客員准教授 〜変更(28)
		基盤ソフトウェア特論	1・2・3後		2			1					
		データ工学原論1	1・2・3前		2			1					
		データ工学原論2	1・2・3前		2		1						
		並列処理論第一	1・2・3前		2		1						
		並列処理論第二	1・2・3後		2			1					
	専門上級科	情報・ネットワーク工学特論	1・2・3前	2			42 41 36	26 25 32	1	4 2			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	科目												

1					単位数	ζ		専任教員	等の配	記置		
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	授	授	師	教	手	

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任, 兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼O」と記入してください。
 - 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可 以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	状	;	況			備考
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択	É	1	由		計	畑
	科目		科目		科目		科目		科目		科目			科目		科目	
	2		72		0		74		2		76	5		0		78	
								[0]	[4]	[0]	[4]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						
						_

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単(立 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由	代替措置の有無
1								
2				該当	<i>+</i> >1			
3				祕二	みし			

- (注)・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

	該当なし	
'		

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

 未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計
 =
 1

 設置時の計画の授業科目数の計 (A)
 =
 1

 74
 =
 =

 1.35
 %

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分						内						5	 容				備考
(1)		区	分			専	J	用		共	用		共 学	用する 校等の	他の 専用			計		
校		校台	き 敷 均	t			115,	, 433 m ²			0 1	'n			0	m²		115,	, 433 m ²	
1X		運動]場用地]			38,	, 187 m ỉ			0 1	ที			0	mi		38,	, 187 m ỉ	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	_			153	, 620 m ²			0 1	'n			0	m [®]		153,	, 620 m ²	
等:		そ	の他	ļ			34,	, 685 m i			0 1	'n			0	m [‡]		34,	, 685 m [°]	
		合	計	-			188	, 305 m ²			0 1	'n		m -	0	mi		188,	, 305 m ²	
						専	ţ	用		共	用			用する 校等の				計		
(2) 校			舎				90	, 163 m ²			0 1	ที่			0	m [*]		90,	, 163 m ²	
					(90, 16	33 m²)	(0m²)		(0m²)	(-	33 m²)	
>				講	義	室		演	室 室		実験実	習室		情報処	理学習		語句	学習		
(3) 教		室	等			0	室		4	46室		5	55室	/ L-b-m 1		4室	/ 	T-1	0室	
	専任教員研究室 情							5 C = N. 224 ↔r	7 th () A	7 T/-				(補助		人)	補助	職員	人)	
(4) 専	任教	員研究	室		情報	理工学		新設学部 精報 情報			フークエ学	事			室 12	1	数			
				E	71	書	攻	<u>(博士</u> 学術	<u>後期課</u> 対雑誌	程)					12	1			王	
(5)	図								外国書)	ı İ	電子ジャ	_+	بال	視聴覚	資料	機械・	器具	標	本	
(0)		の名材	尓		3711		₩	())		種	〔うち外				点		点		点	
図		理工学		315, 01	8 (10	09, 394]	8, 887 [(6, 091))	3, 899 [3			2, 8		0			0	大学全体
書・	クエ	₹・ネッ [学専攻 後期課種	(博士	(315, 01	8 [10	9, 394)	1) ((8, 887 [(6, 091)))	(3, 899 [3	, 889)])	(2, 8	96)	(0)		((0)	
設 備				315, 01	8 [10	09, 394)	8, 887 [(6, 091))	3, 899 [3	, 889))	2, 8	96	0			0	
		計		(315, 01	8 (10	9, 394)	1) ((8, 887 [(6, 091)))	(3, 899 [3	, 889)))	(2, 8	96)	(0)		((0)	
(6) 図		書	館		面			積			閲覧座	席	数		収	納可	能	₩	数	
(0) 🗵			K6					7, 32	:3 m ²					621				;	368, 000	大学全体
(7) 体		面 積 育 館														設の概要				
(17)		3, 07								摩川道ェリー	■動場(陸上) -場)、プール	競技場 レ、屋	外競技	ッカー・ 支場 (弓	ラグビー 道場、テ	-場、テニ ⁻ ニスコー	スコー ト 7 面	- ト4面 j)	1、アー	大学全体
	区 分 経費					開記	设年度	完成	戈 年度	区	分	`	開設前	年度	開設年	度	完月			
(8) 奴弗の		の見 教員1人当り研究費等 見 積り 世 日 田 宋 書 等				千円		Ŧ	円 図書	購入費	費		千円		粣		千円			
経費の 積り及 維持方	なび			ı				千円				購入費			千円		千円		千円	
の概	要	学生 1	J	第	1 年》		第 	2年次	_	第	3年次	第	4年		第:	5年次		第64		
	-		が 対付金 千円 千 千 千 千 千 千 千 千 千 千 千 千 十 十 十 十 十 十								千円			千円		∓ F	9		千円	
	-	一学生	納付金	以外の約	推持力	法の概	既要													

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については,上段に完成年度の予定数値を,下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信:	大	学										•	備	考	
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入定	学員	収定	容員	学位又 は称号	平均入 ⁵ 定員 超過率		開語	设度	所	在	地				
	年		人	年	次		人		ſ	卋									
情報理工学域					人														
I 類(情報系)	4		210	3年2 9			858	学士	1.0)4	平成28年	度	東京都調	布市調 5 番地	布ヶ丘1 11号	一般プ 程) で			
Ⅱ類(融合系)	4		245	3年2 10		1	000	学士 ^(工学)	1.0)4	平成28年	度		同上		の大排用して	ており	り、ブ	(学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年2 10			960	学士 ^(工学)	1.0)4	平成28年	度		同上		定員制の状況	兄を負	集計す	ける
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年 3			126	学士 ^(工学)	1.0	00	平成28年	度		同上		ことが、知知では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	I 類、 をまっ	Ⅱ 判 とめ」	頁、 ヒげ
情報理工学部																いる。			
総合情報学科	4		_	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成2	28年	学生	募集
情報・通信工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
知能機械工学科	4		_	-		-	-	学士 (工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
先進理工学科	4		_	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		_	-		-	-	学士 (工学)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																			
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 1	9	平成28年	度	東京都調 丁目	布市調 5 番地					
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学)(理学) (学術)	1. 1	3	平成28年	度		同上					
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学)(理学) (学術)	1.0)2	平成28年	度		同上					
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0. 9)4	平成28年	度		同上					
総合情報学専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集
情報・通信工学 専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2	28年	学生	募集
知能機械工学専攻	2		_	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集
先進理工学専攻	2		-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成22年	度		同上		平成2 停止	28年	学生	募集

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学) (理学) (学術)	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0. 66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	_	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	_	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	_	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 ^{(工学) (学術)}	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
							ĺ		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - 専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。</u>

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士後期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時		変 更 状 況								
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備	考
専	教授	村松 正和 (51)	平成29年4月	連続最適化基礎論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	石橋 孝一郎 (59)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	和田 光司 (48)	平成29年4月	マイクロ波回路設計特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	環境電磁工学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	大濱 靖匡 (54)	平成29年4月	情報理論特論 大学院輪講第二 ^{情報・ネットワークエ学特論}								
専	教授	來住 直人 (57)	平成29年4月	光通信システム特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	芳原 容英 (49)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	兼岩 憲 (46)	平成29年4月	知識データエ学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	成見 哲 (47)	平成29年4月	ハイバ フォーマンスコンピューティング 特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	緒方 秀教 (49)	平成29年4月	応用解析学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	沼尾 雅之 (58)	平成29年4月	知能情報特論 大学院輪講第二								
専	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輪講第二 (情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	小花 貞夫 (63)	平成29年4月	情報ネットワーク特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	植野 真臣 (51)	平成29年4月	ベイズ的人工知能特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	長岡 浩司 (61)	平成29年4月	情報幾何学特論 大学院輪講第二 「情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	吉永 努 (53)	平成29年4月	計算機ネットワーク特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	森田 啓義 (61)	平成29年4月	情報データ解析論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								
専	教授	南 泰浩 (54)	平成29年4月	音声対話処理 大学院輪講第二 ^{情報・ネットワークエ学特論}								
専	教授	大森 匡 (54)	平成29年4月	データ工学原論2 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論								

専	教授	本多 弘樹 (55)	平成29年4月	並列処理論第一 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	岩崎 英哉 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	内田 和男 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	岡本 吉央 (40)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	川端 勉 (61)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	小林 聡 (51)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	佐藤 証 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	張 熙 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	仲谷 栄伸 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	野崎 眞次 (63)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	橋本 猛 (64)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	範 公可 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	山本 野人 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	山本 有作 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論 大学院輪講第二 「精報・ネットワークエ学特論			
専	教授	山尾 泰 (62)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	無線通信システム特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	久野 靖 (60)	平成29年4月	システムソフトウェア特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論			
専	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	大学院輪講第二			

		1						ı	T
		_ mz + ^		大学院インターンシップ					
由	`#+ ##+™	中野 圭介	亚世20年4日	大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期)					
専	准教授	(41)	平成29年4月	大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (高外・長期)					
				ソフトウエア基礎特論					
				大学院インターンシップ					
		笠井 裕之		大学院インターンシップ (海外)					
		(45)		大学院インターンシップ (長期)					
-	`#+ ##+™	(10)	亚世20年4日	大学院インターンシップ(海外・長期)					
専	准教授		平成29年4月	データ解析最適化論					
				大学院輪講第二					
				情報・ネットワーク工学特論					
		-w ÷		集積回路設計特論					
専	准教授	石川 亮	平成29年4月	大学院輪講第二					
		(43)		情報・ネットワーク工学符調					
				環境電磁工学特論					
		萓野 良樹		大学院輪講第二					
専	准教授	(38)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
		(00)							
				無線通信システム特論					
-	·# #L 100	小島 年春	亚世20年4日	大学院輪講第二					
専	准教授	(56)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
		Am 1	·	宇宙通信工学特論			 		
専	准教授	細川敬祐	平成29年4月	大学院輪講第二					
,,		(41)	171	情報・ネットワーク工学特論					
<u> </u>				4-1.0.1.2.4					
		宣播 引士		センシング工学特論					
専	准教授	高橋 弘太 (56)	平成29年4月	大学院輪講第二					
		(30)		infix・ホットソーク上字符譜					
-				伝送工学特論	+				
	.,,	安藤 芳晃		大学院輪講第二					
専	准教授	(44)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
		· · · /							
				生体電磁工学特論					
車	`#+ ##+™	木寺 正平	平成29年4月	大学院輪講第二					
4	准教授	(38)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
				非線形システム特論					
専	准教授	田中、久陽	平成29年4月	大学院輪講第二					
,		(50)	1 /3020 1 .73	情報・ネットワーク工学特論					
		m7++ ++ -+		音響システム特論					
専	准教授	野村 英之 ((43)	平成29年4月	大学院輪講第二					
		(40)		1944 11717 72-110m					
				並列分散システム特論					
		中山 泰一	T-100 F 4 F	大学院輪講第二					
専	准教授	(52)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
				シミュレーション理工学特論					
専	准教授	龍野 智哉	平成29年4月	大学院輪講第二					
4	在扒区	(45)	十7%25千4万	情報・ネットワーク工学特論					
		#B #							
専	准教授	村尾裕一	平成29年4月	アルゴリズム特論					
1		(61)							
<u> </u>				理論計算機科学特論	\rightarrow				
		垂井 淳		^{理誦計算機科字符誦} 大学院輪講第二					
専	准教授	垂升 <i>泽</i> (56)	平成29年4月	人子所需再毎毎一 情報・ネットワークエ学特論					
		(00)							
				ネットワークアフ゛リケーション特論					
	·# +/L !	寺田 実		大学院輪講第二					
専	准教授	(58)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
L						_	 	<u> </u>	
				統計的機械学習特論					
専	准教授	川野 秀一	平成29年4月	大学院輪講第二					
4	作扒汉	(35)	一水23年4月	情報・ネットワーク工学特論					
		M.4 .4		1±+0 66 1-30 1 1 - 1					
専	准教授	鈴木 淳	平成29年4月	情報幾何学特論					
"		(40)							
 				量子情報数理特論	+				
Ī		小川 朋宏		重于情報效理符調 大学院輪講第二					
専	准教授	小川 朋友 (47)	平成29年4月	人子阮粣再另— 情報・ネットワークエ学特論					
Ī		(47)							
				ネットワークコンピューティング特別	1				
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	Wu 策力木格		大学院輪講第二					
専	准教授	(37)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学特論					
		\= · /							
				アルゴリズム工学特論					
専	准教授	古賀 久志	平成29年4月	大学院輪講第二					
4	准狄扠	(46)	一水23年4月	情報・ネットワーク工学特論					

専	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	基盤ソフトウェア特論				
専	准教授	新谷 隆彦 (47)	平成29年4月	データ工学原論 1				
専	准教授	三輪 忍 (39)	平成29年4月	並列処理論第二 大学院輪講第二 「情報・ネットワークエ学特論				
専	准教授	武永 康彦 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	准教授	西 一樹 (55)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	准教授	韓 承鎬 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	准教授	松浦 基晴 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	准教授	八木 秀樹 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	准教授	山﨑 匡 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	准教授	伊東 裕也 (57)	平成29年4月	信号解析学特論				
専	准教授	富澤 一郎 (64)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論				
専	准教授	石橋 功至 (37)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	講師	小田 弘 (57)	平成29年4月	マルチメディア信号処理特論 大学院輪講第二 情報・ネットワークエ学特論				
専	助教	KITSUWAN NATTAPONG (38)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	助教	小山 大介 (49)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	助教	関 新之助 (35)	平成29年4月	大学院輪講第二				
専	助教	湯 素華 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二				
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済				
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論				
-					1			

		-		, ,		-	ı	<u> </u>
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論				
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論				
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	EIL (Elementary Teaching Laboratory) オープンイノペーションスクール型 オープンイノベーションスクール型				
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	オープンイノベーションスタールV ETL(Elementary Teaching Laboratory)				
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	IT最前線				
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレブレナー実践論				
兼担	教授	桂川 眞幸 (54)	平成29年4月	オープンイノペーションスクール車 オープンイノペーションスクールⅣ オープンイノペーションスクール♥				
兼担	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論				
兼担	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論				
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史				
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論				
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory)				
兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory)				
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノペーションスクール車 オープンイノペーションスクール取 オープンイノペーションスクールV				
兼担	准教授	CH00 Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I				
兼担	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	情報光工学特論				
兼担	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアゼキュリティ特論				
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論				
兼任	講師	荻野 長生 (62)	平成29年4月	大学院輪講第二				
兼任	講師	樫木 勘四郎 (63)	平成29年4月	大学院輪講第二				

				1 334 mm + A = ++ 6-6- —			
兼任	講師	田 光江 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二			
兼任	講師	李 還幇 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二			
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理			
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理			
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	長谷部美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			

兼任 講師 尾原 和貴 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 木村 友久 (61) 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 加藤 浩一郎 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 岡村 信一 (58) 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 劉 昕 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 香島 拓也 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 戸田 恒夫 (65) 平成29年4月 知的財産権特論	
兼任 講師 角田 博保 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 中 平成29年4月 中 平成29年4月 中 平成29年4月 中 平成29年4月 中 平成29年4月 中 平成29年4月	
兼任 講師 尾内 理紀夫 (67) 平成29年4月 平成29年4月	

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>家更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、 変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、 及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <mark>認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。A<u>C教員審査を受けずに専任</u> 教員として授業等を<u>担当することは出来ません。</u>
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

(2)	改巨至十上072	X O II IN M
完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
10	7	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計 画		Į	見在(報告	書提出	時)の状況		現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講	師	助教	計	教 授	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)
33	31	1		1	66	38	33	1	4	76	38	33	1	4	76
(38)	(33)	(1)		(4)	(76)						[5]	[2]	[0]	[3]	[10]
研究指導 員数		旨導補 員数		義のみ担 の教員数		研究指導教 数			講義のみ担 当の教員数		研究指導教員 数	研究指導 教員		のみ担当の 教員数	
59		7		0		69		6	1		69	6		1	
(69)	(6)		(1)		03			•		[10]	[Δ1]	[1]	

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成										
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上 記(B))の教 員うち、定年を 延長して採用す る教員数								
65	0	0								
歳	名	名								

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就	忧任)の理由						
			必修	〇〇概論	1								
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2	のため就任辞退 (27)							
			必修	☆☆演習	3								
2	准教授	ΔΔ											
京	优任を辞	退した教員数	担当科目数の合言	† (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修 〇〇 科目	必修 〇〇 科目						
			選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択 〇〇 科目	選択 〇〇 科目						
	00	Д.	自由	〇〇 科目	自由 〇〇	科目 自由 〇〇 科目	自由 〇〇 科目						
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計 〇〇 科目	計 〇〇 科目						

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教	員氏名	øk・選択・自由の別 担当予定科目 後任補充状況 辞任等の理由								理由			
				必修	00	概論	1								
1	教授	00	00	◎ 選択 ◆◆基礎 ②のため辞任 (27)											
				必修	☆☆	演習	3								
2	准教授					核当な	なし					ため (D)	辞任(29)		
辞任した教員数				担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)		②の合計	数 (b)		③の合計	·数(c)	
				必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00	科目
				選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00	科目
	00	人		自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00	科目
				計	00	科目	計	00	科目	計	00	科目	計	00	科目

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

合計 (A) + (C)						後任補充状況の集計 (B) + (D)								
辞任等した教員	①の合計数 (a) ②の合計				計数	(b)	③の合計数 (c)							
)	科目	必修	〇〇 科目		
	該当なし)	〇 科目	選択	〇〇 科目			
00			D2	~ —·	5				>	D 科目	自由	〇〇 科目		
		計	00	科目	計	00 #	目	計) 科目	計	〇〇 科目		

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 :	分	留	意	事 項	等	履	行	状	況	未履行事項に の実施記	こついて †画
設置	時				〇〇意見						
(OO年OC)月)										
設置計画厂											
調 査 (△ △ 年) 設置計画 表 17					該当	なし					
調 査	時				改善意見						
設置計画履行 調 査 (●●年2,	時科、	司一設置 既設学部 、●●学 こと。	『等 (〇〇学	〇〇意見						

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - · 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士後期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況,今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件单位 124単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室(Om) c 図書〇〇冊	科目(1科 象表」参照) 室、自習室を 、図書も〇〇冊

- (注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名)

第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

- c 委員会の審議事項等
 - (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
 - (2) 学生授業評価の実施に関すること
 - (3) シラバス及び成績評価に関すること
 - (4) 教育環境の整備に関すること
 - (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育カ向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。 (記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

0 1	设置計画履行状況報告書					
а	ホームページに公表の有無	(有		無)
b	公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士後期課程) 注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- () 書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

< 栈	機械知能システム学専攻(博士後期課程)>	\wedge°	ージ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	1C
4.	既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	11
5.	教員組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	13
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・・	• •	21
7.	その他全般的事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		22

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専 攻 長	クボキ タカシ 久保木 孝 (平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試 区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合には、欄を設けて</u>ください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の		段置時の計画	Ī	備考
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	III 75
情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	12人	36人	基礎となる学部等 情報理工学域
修士(工子)(理子)(子例)					

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

	報告年度	平成 2	8 年度	平成2	9年度	平成 3	0 年度	平均入学定員	/# **
区	分	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	招 渦 座	備考
Α	入学定員	人 1 (-	人 2 -) -]	人 1 (- [-	人 2 -) -]	人 ([人)]		
	志願者数	6 (1) [-]	6 (3) [1]	13 (4) [4]	()	()	()		
	受験者数	6 (1) [–]	6 (3) [1]	12 (4) [4]	()	()	()	0. 95倍	
	合格者数	5 (1) [–]	6 (3) [1]	12 (4) [4]	()	()	()		
E	3 入学者数	5 (1) [–]	6 (3) [1]	12 (4) [4]	()	()	()		
J	、学定員超過率 B/A	0.	91	1.	00				

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ ()内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入して ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成2	8 年度	平成2	9年度	平成3	0 年度	備	考	
学 年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		与	
	5	6	12	6					
1 年次	[1]	[1]	[4]	[1]	[]	[]			
	(-)	(-)	(-)	(-)					
			5						
2年次			[1]	[]	[]	[]			
			(-)	()	()	()			
0.75									
3年次		/				[]			
		1	2	3	()	()			
計	'	1 1 1		.s 6]	г	1			
п	(-	-)	(-	-)	() 1			
	(-	-)	(-	-)	()			

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数

 を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退当	学者数(内訳)		主な退学理由	入学者数に対する退学者	
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)	
			平成28年度	0 人	0 人			
平成28年度 入学者	11 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00	%
			平成30年度	人	人			
平成29年度	12 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00	%
入学者	12 人	0 7	平成30年度	人	人		0.00	90
平成30年度 入学者	Д	0 人	平成30年度	人	Д		#DIV/0!	%
合 計	23 人	0 人					0.00 9	%

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士後期課程)>

(1) 授業科目表

					単位数	ζ		専任参	対員等	の配置	Ċ		
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		備考
		技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2							兼1	
		国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1						
		日本とアジアの近代史	1・2・3後		2							兼1	
		科学技術の歴史	1・2・3後		2			1					
	大	現代社会と倫理	1・2・3後		2		+					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	大学院基礎	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1					兼15	
	教育科目	幾何学特論	1・2・3後		2		1						
		解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年 開講に変更(28)
		代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年 開講に変更(28)
<u></u>		教育学特論	1・2・3後		2		1						
	大学院 輪 講		1~3通	4			24 21	10 14		2			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
		ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	1					兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任 教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない (29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共 に兼任教員6名を追加(28)
		知的財産権特論	1・2・3後		2		1					兼7	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応、なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名 で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2・3後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2					
		経営実践特論	1・2・3前		1					1		兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名 で対応(28)
大学院史	大学	IT最前線	1・2・3後		2		1						で対応(28) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名 で対応(28)
実践教	子 院 産	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
育科目	学連携	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	科目	オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
		オープンイノベーションスクールIV	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1 名で対応(28)
		オープンイノベーションスクールⅤ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1 名で対応(28)
		大学院インターンシップ	1・2・3前		2		1						
		大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前		2		1						
		大学院インターンシップ (長期)	1・2・3前		4		1						
		大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2・3前		4		1						
		大学院海外語学研修 I	1・2・3前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
		大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
H		メカトロニクス特論	1・2・3後		2			1					
		ロボット応用工学特論	1・2・3後		2		2 1	1					専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
		ロボット機構制御特論	1・2・3後		2		2						
		運動計測学特論	1・2・3後		2			1					
		バーチャルリアリティ特論	1・2・3後		2			1					

					単位数	ζ		専任教	(員等)	の配置		
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准教	講	助	助	備考
	II-73			修	択	由	授	投授	師	教	手	
		コンピュータビジョン特論	1・2・3後		2		2					
大学院		ロボット情報工学特論	1・2・3後		2		2					
院	専門	設計システム工学特論	1・2・3後		2		1	1				
専門が		知的生産システム特論	1・2・3後		2		1	4				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
教育		機械情報学特論	1・2・3後		2		1					
科目		力学系現象特論	1・2・3後		2		1	1				
		計算力学特論	1・2・3後		2		1					
		ナノトライボロジー特論	1・2・3後		2		1					
		センサ信号処理学特論	1・2・3後		2		1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教員1名に変 更。なお、学生の教育に支障はない(29)
		生体計測工学特論	1・2・3後		2		2 1	4				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
		ロバスト制御工学特論	1・2・3後		2		1	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
	-4	組込み制御システム学特論	1・2・3後		2		1	1				
大	門科	知覚システム特論	1・2・3前		2			1				
学院	目 II	感覚運動システム特論	1・2・3前		2		1					
専門		Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2・3前		2		1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
教育		大学院国際協働学術研修	1・2・3前			2	1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
科		大学院国際協働学術研修(長期)	1・2・3前			4	1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
目	専門	機械知能システム学特論	1・2・3前	2			24 21	10 14		2		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	上											
	級科											
	目											

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - · 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合 には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可 以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	Ī	状	況				備考
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択		自	曲	l		計	1
	科目		科目		科目		科目		科目		科	目		科	目		科目	
	2		42		0		44		2		4	7			2		51	
								[0]	[5]		[2]	[7]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位	数配当年	次 一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論		2 1 - 21	後 一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単(位	数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、	代替措置の有無
1									
2					該当	<i>+</i> >1			
3					祕二	なし			

- (注) · 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

 未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計
 =
 1
 =
 2.27

 設置時の計画の授業科目数の計 (A)
 =
 44
 =
 =
 2.27

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分					内				!	容			備考
(1)		区	分		専	i	用	共	用		共用する 学校等の			計		
拉		校舎	敷均	t t		1	15, 433 m ²		0 1	m [*]		0	m²	115,	, 433 m ²	
校		運動	場用地	ļ			38, 187 m ²		0 1	mi		0	m²	38,	, 187 m ỉ	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		/ \	計	_		1	53, 620 m ²		0 1	m		0	m [*]	153,	, 620 m ²	
等		そ	の他	ļ			34, 685 m ²		0 1	m [*]		0	m [‡]	34,	, 685 m [°]	
		合	計	-		1	88, 305 m i		0 1		4 m -	0 ㎡ :用する他の		188,	, 305 m ²	
					専	<u>I</u>	用	共	用		₹用する 学校等の			計		
(2) 校	:		舎				90, 163 m i		0 1	mi		0	mi	90,	, 163 m ²	
				I	(90	, 163 m ²)	(0m³)	(0m²)	(90, 16	33 m²)	
				講	義写	<u> </u>	演	室	実験実	習室	情報处			語学学習		
(3) 教		室	等			0室		5室		73室			2室	0,		
							±=== W ±=				(補助			斯職員 人 		
(4) 専	任教	員研究	室		情報理	工学		等の名称 械知能シス	ステム学専攻	:		室		数		
				IV.			(博士後	期課程)				70)	<u>室</u>		
(5)	翁	折設学 音	3等	[<u>s</u>	図 書	+ 1		雑誌	電子ジャ	-	視聴覚	管資料	機械・器	具標	本	
(3)		の名称	Γ.		りが国官	∰ רי		卜国書 〕 種				点		点	点	
図		理工学?		315 01	8 [109,		8, 887 (3, 899 [3		2, 8		0	_	0	 大学全体
書 •		は知能シン 学専攻 計士後期	:		8 [109, 3			6, 091])	(3, 899 [3		(2, 8		(0)	(0)		X1 TH
設 備	(14	工权物品	本1±/	315, 01	8 [109,	394)	8, 887 (6, 091)	3,899 [3	, 889)	2, 896		0		0	
		計		(315, 01	8 [109, 3	94])	(8, 887 [6, 091〕)	(3, 899 [3	, 889))	(2, 8	396)	(0)		(0)	
(-) -		_			面		積		閲覧座	席数		収	納可	能 冊	数	
(6) 図		書	館				7, 32	3m²			621			;	368, 000	大学全体
(Z) /±		卒	& ⇔		面		積			体育館以	外のスポ	ポーツ施	設の概要			
(7) 体	•	育	館				3, 077	m [°] 多摩川i チェリ-	運動場(陸上) 一場)、プール	競技場、サ ル、屋外競	ッカー・ 技場(弓	ラグビー 道場、ラ	-場、テニス -ニスコート	コート4面 7面)	ī、アー	大学全体
		経費	Σ	ζ	分		開設年度	完成年歷		分	開設前		開設年度			
(8)		程度 の見 積り	教員 1	人当り	研究費	等	千円	₹	千円 図書	購入費		千円	_	H	千円	
経費の積り及	見び		共 同	研 3	克 費	等	千円	=	F円 設備	購入費		千円	Ŧ	円	千円	
維持方 の 概	法要	学生 1 り		第	1 年次		第2年次		3年次	第4年	手次	第:	5年次	第6年	年次	
		納付				4		一円	千円		千円		千円		千円	
		一学生紀	内付金	以外の約	維持方法	の概要	要									

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信	大	学										備		考
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入記	学員	収 定	容員	学位又 は称号	平均入 定員 超過 ²	Į.	開年	設 度	所	在	地			
	年		人	年			人			倍								
情報理工学域					人													
I 類(情報系)	4		210	3年》 9	欠		858	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		一般入記 程) でに		
Ⅱ類 (融合系)	4		245	3年》 10		1	000	学士 (工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		の大括り用してお	3り、	入学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年》 10			960	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		定員超過の状況で	を集言	†する
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年》 3			126	学士 ^(工学)	1.	00	平成2	!8年度		同上		ことがで め、I 類 を表 た状況	頂、I まとぬ	I 類、 b上げ
情報理工学部																いる。		
総合情報学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学科	4	-	-	-		_	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	_		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4	-	-	-		_	-	学士 (工学)	_		平成2	2年度		同上		 平成28: 停止	年学	生募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																		
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1.	19	平成2	!8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地	開布ヶ丘 1 1 号			
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	13	平成2	!8年度		同上				
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	02	平成2	!8年度		同上				
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0.	94	平成2	!8年度		同上				
総合情報学専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学専攻	2	-	-	-		_		修士 (工学) (理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学専攻	2	-	-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集

情報理工学研究科									
(博士後期課程) 情報学専攻	3	13	-	39	博士	1. 23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
┃ 情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-		(学術) 博士 (工学)(理学)	0. 66	平成28年度	同上	
世界では、 機械知能システム 学専攻	3	12	-		(学術) 博士 (エ学)(理学)	0. 95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-		(学術) 博士 (工学)(理学)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	(学術) 博士 (工学)(理学)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
 情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	(学術) 博士 (工学)(理学)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集
知能機械工学専攻	3	-	-	_	(学術) 博士 (工学) (理学)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	(学術) 博士 (工学)(理学) (学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学) (学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)		平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	_	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	_	博士	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。</u>

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士後期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時	の計画					変	更	状 況				
専任・					専任・									
兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	兼担・ 兼任 の別	職名	氏年	名 齢)	Ŕ	就任予定年月	担当授業科目名	備	*	5
		青山 尚之 (58)		大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期)										
専	教授		平成29年4月	大学院インターンシップ(海外・長期) ロボット応用工学特論 Advanced Robotics and Redutronics Engineering										
				大学院国際協働学術研修 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	内田 雅文 (52)	平成29年4月	大学院園際協働学所研修(長期) ロボット応用工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	田中 一男 (54)	平成29年4月	ロボット機構制御特論 大学院輪講第二 _{機械知能システム学特論}										
専	教授	横井 浩史 (53)	平成29年4月	ロボット機構制御特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	金子 正秀 (63)	平成29年4月	コンビュータビジョン特論 ロボット情報工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	長井 隆行 (47)	平成29年4月	コンビュータビジョン特論 ロボット情報工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	増田 宏 (55)	平成29年4月	設計システム工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	森重 功一 (47)	平成29年4月	知的生産システム特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	宮嵜 武 (61)	平成29年4月	力学系現象特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	新谷 一人 (64)	平成29年4月	計算力学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	桐本 哲郎 (63)	平成29年4月	センサ信号処理学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	小池 卓二 (50)	平成29年4月	生体計測工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	金子 修 (47)	平成29年4月	ロバスト制御工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	新 誠一 (62)	平成29年4月	組込み制御システム学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論										
専	教授	阪口 豊 (53)	平成29年4月	感覚運動システム特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論							_			

専	教授	稲葉 敬之 (60)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	教授	大川 富雄 (51)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	教授	久保木 孝 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	教授	前川 博 (64)	平成29年4月	大学院輪講第二機械知能システム学特論			
専	教授	宮脇 陽一 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二機械知能システム学特論			
専	教授	明 愛国 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	教授	高田 昌之 (58)	平成29年4月	機械情報学特論			
専	教授	岡田 英孝 (48)	平成29年4月	大学院輪講第二機械知能システム学特論			
専	教授	田中 繁 (59)	平成29年4月	大学院輪講第二機械知能システム学特論			
専	准教授	金森 哉吏 (52)	平成29年4月	メカトロニクス特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	准教授	杉 正夫 (42)	平成29年4月	バーチャルリアリティ特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	准教授	結城 宏信 (50)	平成29年4月	設計システム工学特論			
専	准教授	Matuttis Hans-Georg (50)	平成29年4月	力学系現象特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	准教授	佐藤 俊治 (44)	平成29年4月	知覚システム特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	准教授	田中 基康 (34)	平成29年4月	大学院輪講第二			
専	准教授	千葉 一永 (40)	平成29年4月	大学院輪講第二機械知能システム学特論			
専	准教授	松村 隆 (53)	平成29年4月	大学院輪講第二機械知能システム学特論			
専	准教授	安藤 創一 (42)	平成29年4月	運動計測学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論			
専	准教授	澤田 賢治 (35)	平成29年4月	組込み制御システム学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論			

專 准表程 姜銀来 (37) 平成29年4月 大学院籍演第二 (36) 專 助教 校田 学 (36) 平成29年4月 大学院籍演第二 (37) 專 助教 松戶 撤卸 平成29年4月 大学院籍演第二 (37) 兼担 教授 模// (56) 平成29年4月 国際社会の股金・起源 兼担 教授 阿部 浩二 (60) 平成29年4月 現本平洋銀の仕事と文化 (60) 兼担 教授 小庭 (44) 平成29年4月 発何学特論 兼担 教授 佐々木 啓子 平成29年4月 教育学特論 兼担 教授 佐倉(62) 平成29年4月 兼担 教授 本間 高弘 平成29年4月 ペンチャービジネス財協 (52) 兼担 教授 本間 高弘 平成29年4月 知的財政権特論 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 兼担 教授 通過 本額29年4月 未提出 教授 連続法書員 本額29年4月 未提出 教授 通過 基礎技術開発特論	
専 助教 (36) 平成29年4月 報知度システム中報報 専 助教 船戸 徹郎 (37) 平成29年4月 大学院輪講第二 報知度システム中報報 兼担 教授 梶浦 篤 (56) 平成29年4月 国地大学院輸講第二 (56) 兼担 教授 阿部 浩二 (60) 平成29年4月 理太平洋馬の社会と文化 兼担 教授 人藤 衛介 (48) 平成29年4月 解析学特論 兼担 教授 左々木 啓子 (62) 平成29年4月 教育学特論 兼担 教授 安部 博文 (63) 平成29年4月 ペンチャービジネス報報 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論 事相 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論	
専 切教 (37) 平成29年4月 回際社会の後治・経済 兼担 教授 梶浦 第 (56) 平成29年4月 回際社会の後治・経済 兼担 教授 阿部 浩二 (60) 平成29年4月 総何学特論 兼担 教授 小藤 衛介 (48) 平成29年4月 解析学特論 兼担 教授 佐々木 啓子 (62) 平成29年4月 教育学特論 兼担 教授 安部 博文 (63) 平成29年4月 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論 (52) 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 年総技術開発特論 (52)	
東担 教授 (56) 平成29年4月 東担 教授 阿部 浩二 (60) 平成29年4月 兼担 教授 山田 裕一 (48) 平成29年4月 兼担 教授 久藤 衡介 (44) 平成29年4月 兼担 教授 佐々木 啓子 (62) 平成29年4月 兼担 教授 安部 博文 (63) 平成29年4月 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 素規 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月	
東担 教授 山田 裕一 (48) 平成29年4月 幾何学特論 東担 教授 久藤 衡介 (44) 平成29年4月 解析学特論 東担 教授 佐々木 啓子 (62) 平成29年4月 教育学特論 東担 教授 安部 博文 (63) 平成29年4月 東担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 新担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 集出 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 集出 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月	
兼担 教授 (48) 平成29年4月 兼担 教授 久藤 衡介 (44) 平成29年4月 兼担 教授 佐々木 啓子 (62) 平成29年4月 兼担 教授 中成29年4月 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論 兼担 教授 本間 高弘 (52) 東田 教授 洗端技術開発特論 養田 教授 洗端技術開発特論	
兼担 教授 (44) 下成29年4月 兼担 教授 佐々木 啓子 (62) 平成29年4月 兼担 教授 安部 博文 (63) 平成29年4月 株担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論 (52) 東成29年4月 集担 教授 永陽 高弘 (52) 東成29年4月 集担 教授 永陽 高弘 (52) 東成29年4月	
兼担 教授 (62) 下成29年4月 兼担 教授 安部 博文 (63) 平成29年4月 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 知的財産権特論 (52) 東成29年4月 集出 教授 康邊 昌良 平成29年4月 先端技術開発特論	
兼担 教授 (63) 下成29年4月 兼担 教授 本間 高弘 (52) 平成29年4月 無担 教授 渡邊 昌良 平成29年4月	
本日 教授 (52)	
ER (Elementary Teaching Laboratory)	
兼担 教授 米田 仁紀 (56) 平成29年4月 **- T ンイパーレコンスワール版 オープンイパーレコンスワール版 オープンイパーレコンスワール版 オープンイパーレコンスワール版 オープンイパーレコンスワール区	
兼担 教授 鈴木 勝 (57) 平成29年4月 EUL Elementary Transing Laboratory)	
兼担 教授 田野 俊一 平成29年4月 I T最前線	
兼担 教授 田村 元紀 (61) 平成29年4月 データサイエンティスト特議 データアントレフレナー実践論	
兼担 教授 桂川 眞幸 平成29年4月 平成29年4月 **-¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬¬	
兼担 教授 佐々木 成朗 (49) 平成29年4月 ナノトライポロジー特施	
兼担 佐藤 賢一 平成29年4月 科学技術の歴史 (49) 平成29年4月 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
兼担 ^{准教授} 榎本 直也	
兼担 准教授 島田 宏 (55) 平成29年4月 EUL SI mountary Teaching Laboratory)	
兼担 准教授 宮本 洋子 (50) 平成29年4月 **** (50)	
兼担 准教授 古川 裕介 (41) 平成29年4月 平成29年4月 ポープシイパーションスラーAT ポープシイパーションスラーAT	

兼担	准教授	CH00 Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 I				
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論				
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理				
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理				
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	長谷部美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
				ı	 	<u> </u>	l	

兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論				
I					1			

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>影置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>家更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、 変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、 及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <mark>図可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任 教員として授業等を<u>担当することは出来ません。</u>
 - ・ 「専任教員採用等変更書 (AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専仟教員数

(2)	改造生十上のか	X T L M M M
完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
8	6	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計画		Ĭ	見在(報告	書提出	時)の状況		現在	(報告書提出	時)の完成	対年度時の計	画
教 授	准教授	講	師	助教	計	教 授	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)
18	15	0		1	34	25	11	0	2	38	25	11	0	2	38
(25)	(11)	(0)		(2)	(38)						[7]	[△4]	[0]	[1]	[4]
研究指導 員数		指導補 :員数		義のみ担 の教員数		研究指導教 数			講義のみ担 当の教員数		研究指導教員 数	研究指導 教員		のみ担当の 教員数	
28		6		0		36		2	0		36	2		0	
(36)		2)		(0)						<i>"</i> /		[△4]	[0]	

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ③ 年齢構成

	年齢構成	
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任	壬辞退(未就	任)の理由	
			必修	〇〇概論	1				
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2		のため就	任辞退 (27))
			必修	☆☆演習	3				
2	准教授	ΔΔ		該当	ぼし		のため就	任辞退(29))
京	优任を辞	退した教員数	担当科目数の合言	† (a) + (b) + (c)	①の合計数(a)	②の合計	十数 (b)	③の合計	数 (c)
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
			選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
	00	Д.	自由	〇〇 科目	自由 〇〇	科目 自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計	〇〇 科目	計	〇〇 科目

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」

 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教	対員氏名	必修・選択・自由の別	担当予	定科目		辞任	等の	理由					
				必修	00	概論	1								
1	教授	00	00	選択	**	基礎	2				თ	ため	辞任 (27)		
				必修	**	演習	3								
2	准教授	ΔΔ			Ē	核当な	なし				··の		辞任(29)		
	辞任し	した教員数	汝	担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)		②の合計	十数 (b)		③の合計	数(c)	
_				必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00	科目	必修	00	科目
				選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00	科目	選択	00	科目
	00		人	自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00	科目	自由	00	科目
				計	00	科目	計	00	科目	計	00	科目	計	00	科目

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)									
辞任等した教員	員数	担当科目数の)合計 (a) + ((b) + (c)	①の合	計数 (a)	(2の合	計数(b)	③の合計数 (c)			
)() 科目	必修	00	科目	
			=	亥当な	١٦:) () 科目	選択	00	科目	
00			12	х — '	, C) () 科目	自由	00	科目	
		計	00	科目	計	00 ¥	目	計) 科目	計	00	科目	

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区	分	j	留 意	事	項	等	履	行	状	況	未履行事項 の実旅	質について 西計画
設置	時					〇〇意見						
(ОО年О(0月)											
設置計画原												
 調 査 (△△年 設置計画表 						該当	なし					
調 査	時					改善意見						
設置計画履行 調 査 (●●年2	時	ᆂᄪᆖᅲ	^{学部等} ●学科	(00	D学	〇〇意見						

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻(博士後期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

	設	置	時	の	計	画			変更内容	• 状況,	今後0	の見通し	しなど
記入例) ① 修了要件単位 124単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室		lm.					該当	なし					科目(1科 象表」参照) 室、自習室を 、図書も〇〇冊
c 図書OO無		J 1117							-0				

- 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名)

第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

- c 委員会の審議事項等
 - (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
 - (2) 学生授業評価の実施に関すること
 - (3) シラバス及び成績評価に関すること
 - (4) 教育環境の整備に関すること
 - (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育カ向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」(2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況, 方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく,学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を 含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

0 1	设置計画履行状況報告書						
а	ホームページに公表の有無	(有	-	無)	
b	公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)	

注3

大学番号:031

[平成28年度設置]

計画の区分:研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士後期課程)

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務課

職名・氏名 係 長 飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

(夜間) 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e —mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- () 書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合:「○○大学大学院 ○○研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<星	基盤理工学専攻(博士後期課程)>	^°-	-ジ
1.	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	3
2.	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	7
3.	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	1C
4.	既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	11
5.	教員組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	13
6.	留意事項等に対する履行状況等 ・・・・・・・・・・・・・・・	•	22
7.	その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	23

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

- (2) 大 学 名 電気通信大学
- (3) 大学の位置

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を())書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。
- (4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
	フクダ タカシ		
学 長	福田		
	(平成26年4月1日)		
	タノ シュンイチ		
研究科長	田野 俊一		
	(平成29年4月1日)		
	ニシオカ ハジメ	_	
専 攻 長	西岡 一		
	(平成29年4月1日)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) · 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(<u>修業年限が2年以下の場合には欄を削除し、4年以上の場合</u> には、欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等	学位又は学科の		没置時の計画	Į	備	考
の名称(学位)	分野	修業年限	入学定員	収容定員	1/用	75
情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	16人	48人	基礎となる情報理エ	

- (注)・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号 (その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

		報告年度	- 1	平月	ţ2	8 8	年度	ŧ	2	平成	2	9年	度	7	平成 3	0 2	丰度	平均入学定員	備	考
区	分		春	季刀	く学	: そ 0	の他の	学期	春:	季入	.学	その他	の学期	春:	季入学	! その	他の学期	超 過 率	VĦ	75
А	入学	定員		(16)	人		(人 1 -		人		、 ()			
	志願	者数	(12 1 1)	(2 1 1)	(12 4 1)	([)	()	()			
	受験	者数	(12 1 1)	(2 1 1)	([12 4 1)	([)	([)	()	0. 71倍		
	合格	者数	(12 1 1)	(2 1 1)	(12 4 1)	([)	()	()			
I	в 入	学者数	(10 1 1)	(2 1 1)	(11 4 1)	()	()	()			
7	学定員 B /	超過率 ´A			0.	75					0.	68								

- (注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ ()内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は<u>小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入</u>してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、<u>計算の際は「入学定員超過率」と同様</u>にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成2	8年度	平成2	9 年度	平成 3	0年度	- 備 考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
	10	2	11	2			
1 年次	[1]	[1]	[1]	[1]	[]	[]	
	(-)	(-)	(-)	(-)			
			10				
2年次			[1]	[]	[]	[]	
			(-)	()	()	()	
				/			
3 年次					[]	[]	
			r		()	()	
	1	2	2	.3			
計	[1]	[3]	[]	
	(-	-)	(-	-)	()	

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格 (いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退当	学者数(内訳)		主な退学理由	入学者数に 対する退学者数
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)
			平成28年度	0 人	0 人		
平成28年度 入学者	12 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成29年度	11 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
入学者	11 人	0 %	平成30年度	人	人		0.00 90
平成30年度 入学者	Д	0 人	平成30年度	人	Д		#DIV/0! %
合 計	23 人	0 人					0.00 %

- (注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」) により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士後期課程)>

(1) 授業科目表

					単位数	(専任教員	等の配	記置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准	講	助	助		備考
	四刀			修	択	由	授	教 授	師	教	手		
		技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2							兼1	
		国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1						
		日本とアジアの近代史	1・2・3後		2							兼1	
		科学技術の歴史	1・2・3後		2			1					
	大学院	現代社会と倫理	1・2・3後		2		1					兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1 名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	院 基 礎 教	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1					兼15	
	育科目	幾何学特論	1・2・3後		2		1						
		解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔 年開講に変更(28)
		教育学特論	1・2・3後		2		1						
	大 学 院 輪 講	大学院輪講第二	1~3通	4			31 30 31	29 30 28		3 5			大学院担当資格取得等のための変更 (29) 大学院担当資格取得等のための変更 (28)
		ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	1				兼6	兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任 教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない (29) より教育内容に即した担当教員への変更すると 共に兼任教員6名を追加(28)
		知的財産権特論	1・2・3後		2		1					兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対 応、なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8 名で対応(28)
		先端技術開発特論	1・2・3後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15 名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2					
大学	+-	経営実践特論	1・2・3前		1					1			教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2 名で対応(28)
院実践	大学院	IT最前線	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1 名で対応(28)
教育科	産学連	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
目	携科目	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
		オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
		オープンイノベーションスクールIV	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)
		オープンイノベーションスクールV	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)
		大学院インターンシップ	1・2・3前		2		1	2					専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対 応(28) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対
		大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前		2		1	2					等は教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対応(28) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対
		大学院インターンシップ(長期)	1・2・3前		4		1	2					応(28)
		大学院インターンシップ (海外・長期)	1・2・3前		4		1	2					専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対応(28)
		大学院海外語学研修 I	1・2・3前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)
		大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)

					単位数	ζ		専任教員	等の	配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	教	准	講	助	助		備考
				修	択	由	授	教 授	師	教	手		
		環境材料学特論	1・2・3前		2		1						
		ナノフォトニクス特論	1・2・3前		2			2					
		光通信システム特論	1・2・3後		2		1						
		ナノエレクトロニクス特論	1・2・3前		2		1						
		超伝導デバイス特論	1・2・3後		2		1						
		計算物理学特論	1・2・3後		2		1	1 2					専任准教授の昇任により、専任教授1名、専任准 教授1名で対応(29)
		集積回路設計学特論	1・2・3後		2		1	1					専任准教授の昇任により、専任教授1名で対応(29)
		光通信デバイス特論	1・2・3後		2		1						
		固体・ソフトマターフォトニクス特論	1・2・3前		2		1						
١.		光計測特論	1・2・3前		2		1						
大学	専門	情報光工学特論	1・2・3後		2			1					
大学院専門	科 目 II	生体計測工学特論	1・2・3後		2		2 1	4					専任准教授の昇任により、専任教授2名で対応(29)
教	11	物理工学特論	1・2・3前		2							兼1	
育科		固体照明工学特論	1・2・3後		2		1	1					専任准教授の昇任により、専任教授1名で対応(29)
目		量子情報光学特論	1・2・3後		2			2					
		低温量子物性工学特論	1・2・3前		2		1						
		固体量子工学特論	1・2・3後 1・2・3前		2			1					専任教員の負担軽減のため、開講学期の変更 (29)
		ナノトライボロジー特論	1・2・3後		2		1						
		統計物理工学特論	1・2・3後		2		1						
		現代レーザー分光学特論	1・2・3前		2		1	1					
		原子光工学特論	1 · 2 · 3前		2		1	1					
		凝縮体量子工学特論	1・2・3後		2		1	1					
		電子物性特論	1・2・3後		2			1					
		X線結晶学特論	1・2・3後		2			1					
	専	固体物性化学特論	1・2・3後		2		1						
	門	化学反応特論	1・2・3前		2			1					
大	科目	生体情報システム学特論	1・2・3前		2		1						
大学院専	II	化学生命工学特論	1・2・3前		2							兼2 兼1	教育内容充実のため、兼任教員2名で対応(28)
門 教		無機物質化学特論	1・2・3後		2		1						
育		物理化学特論	1・2・3後		2			1					
科目		ゲノム生物学特論	1・2・3後		2			1					
H	専門上級科	基盤理工学特論	1・2・3前	2			31 30 31	29 30 28		3 5			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	目												

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼O」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。 (今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可 以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

	設	置	時	の	計	画				変	更	状	況				備考
必	修	選	択	自	由	計	(A)	必	修	選	択	自	曲		計	ł	1
	科目		科目		科目		科目		科目		科目		科	目		科目	
	2		54		0		56		2		58			0		60	
								[0]	[4]	[0]	[4	.]	

(注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を 記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般		バランスのとれた学習機会を提供するため、 隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単	位	数	配当年次	一般・	専門	必修・選択	未開講の理由、	代替措置の有無
1										
2					=尖 小	+>	1			
3					該当	る	L			

- (注)・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び 「学生への周知方法」を記入してください。
- (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

	区		分			専 用							容			備考
(1)		区	分		専		用	共	用		も用する 学校等の			計		
±☆		校舎	計敷 地	t		1	15, 433 m²		0	m [†]		0	m ²	115	5, 433 m ²	
校		運動	場用地	1			38, 187 m i		0 1	mi		0	m²	38	8, 187 m²	校舎敷地と別地 (校舎より2km)
地		小	計	-		1	53, 620 m ²		0	mÎ		0	m [*]	153	3, 620 m ²	
等		そ	の他	!			34, 685 m ²		0	mi		0	m [*]	34, 685 m ²		
		合	計	-		1	88, 305 m ²		0		+ 四 + 7		m [*]	188, 305 m		
					専		用	共	用		も用する 学校等の			計		_
(2) 校	5		舎				90, 163 m ²		0	m [*]		0	m [*]	90	0, 163 m ²	
					(, 163 m²)	(0m²)	(0m²)	(•	63 m [*])	
>				講	義室		演	室	実験実	習室	情報	処理学 習		語学学習施設 ———————		_
(3) 教	Ţ	室	等			0室		9室		85室		114h 🖂	0室	4 PL TW -	0室	
				新設学部等(生の名称			(補助			浦助職員	人)		
(4) 専	任教	員研究	室		情	報理.	工学研究科	基盤理コ	工学専攻			室 ———	0	数 ———		-
				<u> </u>	図 書		(博士後									
(5)	親	f設学部			ュ ち外国書	書 学術雑誌			電子ジャ	ーナル	視聴的	흰資料	機械・器	具 標	本	
		の名称	小			· ##		種				点		点	点	
図		理工学		315, 01	8 [109, 3	94)	8, 887 (6, 091]	3, 899 (3	3, 889)	2, 8	896	0		0	_ 大学全体
書•		盤理工学 計士後期		(315, 01	8 [109, 39	94])	(8, 887 [6, 091])	(3, 899 [3	3, 889〕)	(2,	896)	(0)		(0)	
設 備		=1		315, 01	8 [109, 3	94]	8, 887 (6, 091]	3, 899 [3	3, 889)	2, 8	896	0		0	1
		計		(315, 01	8 [109, 39	94])	(8, 887 [6, 091〕)	(3, 899 [3	3, 889))	(2,	896)	(0)		(0)	
(6) 図	1	書	館		面		積		閲覧座	席数		収	納可	能 冊	数	
(0)	J		Δ0				7, 32	3m²			621				368, 000	大学全体
(7) 体		育	館		面		積					-	施設の概要			
	1					3,077 ㎡ 多摩			運動場(陸上) 一場)、プール	競技場、サ ル、屋外競	ッカー・ 技場(引	ラグビ- B道場、 ⁻	ー場、テニス テニスコート T	.コート4〕	面、アー	大学全体
		経費	Z		分					分	開設前	前年度	開設年度	完	成年度	
(8) 経費の		積り			研究費等		千円					千円		- P	千円	<u> </u>
積り及 維持方	とび 5法			l	2 費 等	Ť	千円				- 15	千円		円 27.0	千円	4
の 概	要	学生 1		第	1年次		第2年次	次 第3年次 第4年次 第5年次 第6 千円 千円 千円 千円				第 6	年次	-		
	-	納付		N 10 0 0							-					
		子'生	所付金以外の維持方法の概要 内内 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本													

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、 複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の 項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については,上段に完成年度の予定数値を,下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その 理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」 を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電	気	通	信	大	学										備		考
既設学部等の名称	修業 年限	入定	学員	編入記	学員	収 定	容員	学位又 は称号	平均入 定員 超過 ²	Į.	開年	設 度	所	在	地			
	年		人	年			人			倍								
情報理工学域					人													
I 類(情報系)	4		210	3年》 9	欠		858	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		一般入記 程) でに		
Ⅱ類 (融合系)	4		245	3年》 10		1	000	学士 (工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		の大括り用してお	3り、	入学
Ⅲ類(理工系)	4		235	3年》 10			960	学士 ^(工学)	1.	04	平成2	!8年度		同上		定員超過の状況で	を集言	†する
先端工学基礎課程 (夜間主)	4		30	3年》 3			126	学士 ^(工学)	1.	00	平成2	!8年度		同上		ことがで め、I 類 を表 た状況	頂、I まとぬ	I 類、 b上げ
情報理工学部																いる。		
総合情報学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学科	4	-	-	-		_	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	_		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学科	4		-	-		-	-	学士 ^(工学)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先端工学基礎課程 (夜間主)	4	-	-	-		_	-	学士 (工学)	_		平成2	2年度		同上		 平成28: 停止	年学	生募集
情報理工学研究科 (博士前期課程)																		
情報学専攻	2		110	-			220	修士 (工学)(理学) (学術)	1.	19	平成2	!8年度	東京都調 丁目	布市調 5 番地	開布ヶ丘 1 1 号			
情報・ネットワーク 工学専攻	2		150	-			300	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	13	平成2	!8年度		同上				
機械知能システム 学専攻	2		105	-			210	修士 (工学) (理学) (学術)	1.	02	平成2	!8年度		同上				
基盤理工学専攻	2		135	-			270	修士 (工学)(理学) (学術)	0.	94	平成2	!8年度		同上				
総合情報学専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-		_	.	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
知能機械工学専攻	2	-	-	-		_		修士 (工学) (理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集
先進理工学専攻	2	-	-	-		-	-	修士 (工学)(理学) (学術)	-		平成2	2年度		同上		平成28: 停止	年学	生募集

情報理工学研究科									
(博士後期課程) 情報学専攻	3	13	_	20	博士	1 00	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1	
情報 子 导攻	3	13	_	39	マエ (工学)(理学) (学術)	1. 23	平成28年度	丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	_	54	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学) (理学) (学術)	0. 95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0. 71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学) (理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	_	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程) 情報メディアシステム学 専攻	2	-	_	_	修士 (工学) (学術)	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集
社会知能情報専攻	2	-	_	_	修士 (工学)(学術)	_	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	_	_	修士 (工学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程) 情報メディアシステム学 専攻	3	_	_	_	博士	_	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	_	_	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
			<u> </u>						

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の 平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合,<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし,</u> 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士後期課程)>

(1) 担当教員表

		設置時	の 計 画					変	更	状 況			
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)		就任予定年月	担当授業科目名	備	考
専	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化									
専	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論									
専	教授	桂川 眞幸 (54)	平成29年4月	オーブンイノベーションスクール型 オーブンイノベーションスクール型 オーブンイノベーションスクール型 原子光工学特論									
専	教授	中村 淳 (48)	平成29年4月	ナノエレクトロニクス特論									
専	教授	水柿 義直 (49)	平成29年4月	超伝導デバイス特論									
専	教授	上野 芳康 (55)	平成29年4月	光通信デバイス特論									
専	教授	富田 康生 (61)	平成29年4月	額体・ソフトマターフォトニクス特額									
専	教授	西岡 — (56)	平成29年4月	光計測特論									
専	教授	尾関 之康 (55)	平成29年4月	統計物理工学特論									
専	教授	斎藤 弘樹 (45)	平成29年4月	凝縮体量子工学特論									
専	教授	石田 尚行 (53)	平成29年4月	固体物性化学特論									
専	教授	樫森 与志喜 (60)	平成29年4月	生体情報システム学特論									
専	教授	一色 秀夫 (55)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									
専	教授	奥野 剛史 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									
専	教授	SANDHU Adarsh (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									
専	教授	沈 青 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									
専	教授	平野 誉 (53)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									
専	教授	美濃島 薫 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									
専	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論									

専	教授	山口。浩一	平成29年4月	大学院輪講第二			
		(56)		基盤理工学特論			
専	教授	渡邊 信一 (62)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論			
争	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ELETementary Teaching Laboratory: オープンイノベーションスタールコ オープンイノベーションスタールマ オープンイノベーションスタールマ 大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	Ell.Elementary Teaching Laboratory) 低温量子物性工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	佐々木 成朗 (49)	平成29年4月	ナノトライボロジー特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	中川 賢一 (55)	平成29年4月	現代レーザー分光学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	加固 昌寛 (54)	平成29年4月	無機物質化学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	森下 亨 (50)	平成29年4月	計算物理学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	狩野 豊 (47)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	小林 義男 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	岩澤 康裕 (71)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	白田 耕藏 (70)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論			
専	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレブレナー実践論			
専	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory)			
専	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	Ell.(Elementary Teaching Laboratory) 量子情報光学特論			
専	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクール型 オープンイノベーションスクール型 オープンイノベーションスクール型			
専	准教授	志賀 智一 (45)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (高外・長期)			
専	准教授	松林 和幸 (38)	平成29年4月	大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (高州・長期)			
専	准教授	岡田 佳子 (59)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論			
専	准教授	庄司 暁 (42)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論			
専	准教授	大淵 泰司 (57)	平成29年4月	計算物理学特論			
専	准教授	清水 亮介 (43)	平成29年4月	量子情報光学特論			

専	准教授	岸本 哲夫 (45)	平成29年4月	凝縮体量子工学特論					
専	准教授	安井 正憲 (56)	平成29年4月	X線結晶学特論					
専	准教授	三瓶 嚴一 (56)	平成29年4月	ゲノム生物学特論					
専	准教授	酒井 剛 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	張 贇 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	白川 英樹 (51)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	瀧 真清 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	松田 信爾 (46)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	村中 隆弘 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	渡邉 恵理子 (39)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	情報光工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	伏屋 雄紀 (40)	平成29年4月	固体量子工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	森永 実 (51)	平成29年4月	^{現代レーザー分光学特論} 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	中村 信行 (48)	平成29年4月	原子光工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	中村 仁 (49)	平成29年4月	電子物性特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	曽越 宣仁 (45)	平成29年4月	化学反応特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	山北 佳宏 (49)	平成29年4月	物理化学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	桑原 大介 (53)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	小久保 伸人 (46)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	白川 晃 (46)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	准教授	曽我部 東馬 (42)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
専	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論					
専	助教	Vohra Varun (33)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論					
		l l			ı		ı	•	

専	助教	戸倉川 正樹 (36)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論				
兼担	教授	田中 勝己 (64)	平成29年4月	環境材料学特論				
兼担	教授	來住 直人 (57)	平成29年4月	光通信システム特論				
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済				
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論				
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論				
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論				
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論				
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論				
兼担	教授	田野 俊一	平成29年4月	IT最前線				
兼担	教授	範 公可 (52)	平成29年4月	集積回路設計学特論				
兼担	教授	小池 卓二 (50)	平成29年4月	生体計測工学特論				
兼担	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論				
兼担	教授	内田 和男 (57)	平成29年4月	固体照明工学特論				
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史				
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論				
兼担	准教授	CH00 Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 II				
兼任		高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理				
兼任		木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理				
兼任		澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任		丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任		長谷部美佳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
兼任		John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化				
				<u>ı </u>		<u> </u>	<u> </u>	1

兼任	野平宗弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	倉田 明子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	宮田 敏之	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	山内 由理子	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	李 孝徳	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	佐々木 孝弘	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化			
兼任	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論			
兼任	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論			
兼任	Vladimir Krivobok (37)	平成29年4月	物理工学特論			
	(31)					

兼任	星野 学 (36)	平成29年4月	化学生命工学特論			
兼任	加治 大哉 (42)	平成29年4月	化学生命工学特論			
I		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				

- (注)・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「<u>我置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢</u>を、「<u>家更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢</u>を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、 変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、 及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ <u>認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合</u>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任 教員として授業等を<u>担当することは出来ません。</u>
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専仟教員数

(2)	改造生十上のか	X O IL IN XX
完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準 上の必要教授数	完成年度時におけ る設置基準上の必 要研究指導補助教 員数
10	7	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件 (平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号) により 算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置	時	の	計 画		Ĭ	見在(報告	書提出	時)の状況		現在(報告書提出時)の完成年度時の計画						
教 授	准教授	講	師	助教	計	教 授	准教授	講師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講師	助教	計 (B)		
26	29	0		6	61	32	30	0	3	65	32	30	0	3	65		
(32)	(30)	(0)		(3)	(65)						[6]	[1]	[0]	[△3]	[4]		
研究指導 員数		旨導補 員数		義のみ担 の教員数		研究指導教 数			講義のみ担 当の教員数		研究指導教員 数	研究指導 教員		のみ担当の 教員数			
57		4		0		63	63 1		1		63	1		1			
(63)		1)		(1)				•	·		[6]	[△3]	[1]	/		

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の 5 月 1 日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1 名減の場合: Δ 1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成												
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上 記(B))の教 員うち、定年を 延長して採用す る教員数										
65	2	2										
歳	名	名										

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未	就任)の理由								
			必修	〇〇概論	1										
1	教授	00 00	選択	◆◆基礎	2	のため就任辞退(27)									
			必修	☆☆演習	3										
2	准教授	ΔΔ		該当な	ぼし	のため? E計 (日	就任辞退(29) 								
京	优任を辞	退した教員数	担当科目数の合言	† (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)								
			必修	〇〇 科目	必修 〇〇	科目 必修 〇〇 科目	必修 〇〇 科目								
			選択	〇〇 科目	選択 〇〇	科目 選択 〇〇 科目	選択 〇〇 科目								
	00	λ	自由	〇〇 科目	自由 OO	科目 自由 〇〇 科目	自由 〇〇 科目								
			計	〇〇 科目	計 00	科目 計 〇〇 科目	計 〇〇 科目								

- (注) · 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 - 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。 就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合,赤字にて記入するとともに、 「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」

 - ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教	員氏名	名 必修・選択・自由の別 担当予定科目 後任補充状況 辞代							辞任	辞任等の理由				
				必修	00	概論	1									
1	教授	00	00													
				必修	☆☆	演習	3									
2	准教授						…のため辞任 (29) 計 (D)									
	辞任し	した教員数	Ţ	担当科目数の合語	† (a) + (b) + (c)	①の合計	数(a)		②の合計	数 (b)		③の合計	·数(c)		
				必修	00	科目	必修	00 ‡	科目	必修	00	科目	必修	00	科目	
				選択	00	科目	選択	00 1	科目	選択	00	科目	選択	00	科目	
	00		人	自由	00	科目	自由	00 1	科目	自由	00	科目	自由	00	科目	
				計	00	科目	計	00 ፣	科目	計	00	科目	計	00	科目	

- (注)・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合,赤字にて記入するとともに,「辞任等の理由」 に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」~「③」から選択し、 「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

 - ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)-①・(3)-② の合計

	合計(A	後任補充状況の集計 (B) + (D)										
辞任等した教員	員数	①の合計数 (a) ②の合計)	③の合計数 (c)				
)() 科目	必修	〇〇 科目
	該当なし)() 科目	選択	〇〇 科目
00			D2	~ —·	5 C)() 科目	自由	〇〇 科目
		計	00	科目	計	OO #	目	計) 科目	計	〇〇 科目

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について,教員数、担当科目数の合計,後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) · 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を 記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区	分		留	意	事	項	等		履	行	状	況	未履行事 の実	耳項について ≧施計画
設置	時						〇〇意見							
(00年0	0月)													
設置計画厂														٦
調 査 (△△年							該当	なし	•					
調 査	時						改善意見							
設置計画履 ² 調 査	時	スロエ≕ル・	学部 ●学	置者が 3等 単科)	ヾ設置 (○C の~	置す)学 ~す	○○意見							

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(<u>学校法人の</u> <u>寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>)と、それに対する履行状況等 について、具体的に記入し、報告年度を(<u>)</u>書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻(博士後期課程)>

(1) 設置計画変更事項等

	設	置	時	の	計	画			変更内容•	状況,	今後の	見通し	んなど
記入例) ① 修了要件単位 124単位			H	<u> </u>	н				ZZ17B	· 000000	7 80		科目(1科 象表」参照)
② 施設・設備 a 講義室〇室	X.						該当	なし					室, 自習室を
b 自習室〇室 c 図書〇〇冊	7					T		増善した					

- (注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 - 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については 適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

教育推進部門会議 (平成28年度)

第42回(6月13日:参加者8名) 第43回 (9月28日:参加者9名) 第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名)

第46回(3月2日:参加者9名)

- c 委員会の審議事項等
 - (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること
 - (2) 学生授業評価の実施に関すること
 - (3) シラバス及び成績評価に関すること
 - (4) 教育環境の整備に関すること
 - (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること

② 実施状況

- a 実施内容

 - ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学術院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日) ・教育研究は無知職員研修(6月26日)

 - ・教育研究技師部職員研修 (9月26日) ・英語FDワークショップ (10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」 (11月29日)

 - ・第2回ハラスメント防止研修 (12月16日) ・第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」 (12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学 (12月22日)

 - ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか 」 (2月24日)

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、 公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

4月6日:参加者287名【学生274名、教員13名】

4月13日:参加者39名 4月21日:参加者23名 7月5日:参加者111名 8月30日:参加者37名

9月23日:参加者68名【学生56名、教員12名】

9月26日:参加者19名 10月11日:参加者20名 11月29日:参加者63名 12月16日:参加者60名 12月19日:参加者57名 12月22日:参加者15名 2月24日:参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた 道筋の検討を進めた。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況,方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分(講義、実験、体育、大学院)別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

- (注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)
- (3) 自己点検・評価等に関する事項
- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

- ② 自己点検·評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書(年度計画の実施状況)」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

0 1	设置計画履行状況報告書					
а	ホームページに公表の有無	(有		無)
b	公表時期(未公表の場合は予定時期)	(平成29年	6月	30日)